

## II. 景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

### 1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北海道)		一般小売店〔土産〕 (経営者)	・例年、秋は北海道を訪れる観光客が少なくなる時期であるが、今年はインバウンドを中心に、ゴルフや秋のイベント、紅葉などを目的に北海道を訪れる観光客が増えることが見込まれる。
		観光名所（従業員）	・7月に日本で地震が起きるといふ予言の影響で、インバウンドの訪日控えの動きがみられたものの、当地ではそうした影響は早々に解消し、多数のインバウンドでにぎわっている。新規就航した国際便も好調なことから、今後、インバウンドがますます伸びてくるとみられる。また、暑さが落ち着いてくることで、国内観光客の動きが上向いてくることも期待できる。
		百貨店（売場主任）	・先行指標となる首都圏の富裕層やインバウンドの客単価がやや回復傾向にあることから、今後、当地の客単価も回復することになる。
		衣料品専門店（エリア担当）	・これから秋、初冬へと季節が変わることになる。季節の変化が体感できるようになれば、来客数が回復することになる。
		乗用車販売店（経営者）	・秋の商戦を迎えて、新車及び中古車の動きが活発になる。今年度後半からは、車検対象の車が増加してくるため、整備工場の売上や利益も上振れて推移することになる。
		商店街（代表者）	・国民の所得の増加が物価の上昇幅を上回るようになるまで厳しい状況が続くことになる。速やかな減税が行われない限り、家計はますます貧困化することになる。
		商店街（代表者）	・今後については、燃料価格の動向にも左右されることとなるものの、年末の消費を考慮して、地域住民の外出控えや買い控えが進む時期となるため、売上が増えることは期待できない。観光客が増加するような見込みはなく、大きなイベントなどの開催も予定されていないことから、期待できる状況にはない。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・例年、夏場は年間を通じて景気の良い時期であるため、9月以降の景気はやや落ち込むことになる。
		百貨店（販売促進担当）	・これからの時期は、観光需要が大きく伸びるような要素が少ないため、今後の景気は地元客の消費動向に左右されることになる。賃金の伸びが物価の上昇幅を下回る状況が続いていることから、消費額の増加は余り期待できない。
		スーパー（店長）	・効果的な物価高対策が行われていないことから、今後も景気は変わらない。
		スーパー（店長）	・年末に向けて、客の消費動向が大きく変わるような要因が見当たらない。米国の関税の動向が不透明なこともマイナスである。
		コンビニ（エリア担当）	・主食である米の価格動向や最低賃金の引上げなどの不安要素があるものの、今後も同業他社との位置づけはさほど変わらないとみられることから、業績は極端に良くも悪くもならない。
		コンビニ（エリア担当）	・例年よりも気温が高いことで、飲料やアイスなどの夏物商材の販売量が増えているものの、気温が下がってくれば、元の状態に戻るとみられるため、今後も景気は変わらない。また、米の価格が上昇することになれば、弁当やおにぎりの価格も上昇することになり、販売量の減少につながる懸念される。
		衣料品専門店（経営者）	・今の円安の状況で、物価高が収まるとは考えにくいことから、今後も景気は変わらない。天候面による影響は予測が難しい。
		衣料品専門店（店長）	・経済情勢的に株価が上がっていることはプラスであるが、天候要因以外に、客の購買意欲が上向いてくるといふような要因はみられないことから、今後も景気は変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（経営者）	・エアコンなど、季節商材の販売が落ち着くことになるため、売上が増えるような要素が見当たらない。
		乗用車販売店（経営者）	・業績は改善しているものの、すぐに販売量が増加し、収益が好調になることまでは考えにくい。物価高の影響もあるため、販売量が増加した分の収益は僅かなものとなる。
		乗用車販売店（従業員）	・販売面について、大きな変化をもたらすような要因が見当たらないことから、今と同様の状況がしばらく続くことになる。
		乗用車販売店（従業員）	・車両本体の価格が上がる一方であるため、客が車を買換えようという気持ちにならない。量販体制の整った新型車の発表がないこともマイナスである。
		自動車備品販売店（店長）	・景気の良くなる材料が見当たらない。所得が増えないなか、物価だけが上がっている状況であり、消費が上向いてこないことから、今後も景気は変わらない。
		住関連専門店（役員）	・季節商材の販売が好調であったが、今後、食料品の値上げが予定されていることから、季節商材以外は、客の節約志向が強まり、買い控えが進むことになる。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・病院で担当医が相談に乗ってくれないとの不満が明らかに増えている。そのため、当店のような薬局では、気軽に健康相談できる体制を整えることが重要になってくる。
		その他専門店〔造花〕（店長）	・現状、商品入荷の不安定な状況を改善できるような対策がないことから、今後も景気は変わらない。
		旅行代理店（従業員）	・3か月前と比べると、売上は横ばいであるものの、前年を上回って推移していることから、今後も景気は変わらない。ただし、物価の上昇が続くことで、旅行などの娯楽にまわる金額が減少したり、ビジネスでの出張が縮小することが懸念される。
		旅行代理店（従業員）	・物価高が続いていることから、今後も景気の悪い状況が続くことになる。また、当地の特徴として、農業関連企業が多いことから、今年の猛暑の影響で農作物の収穫量が落ち込むことになれば、冬季の需要も余り期待できなくなる。
		タクシー運転手	・当地では、これから農産物の収穫時期を迎えることになる。今年は、猛暑の影響で農産物の作況が余り良くないと見込まれていることから、今後の景気は厳しいまま変わらない。
		タクシー運転手	・秋のイベント関連での予約状況も、観光客の予約状況も例年並みであることから、今後、天候要因で一時的に利用が増えたとしても、景気は変わらない。
		タクシー運転手	・乗務員不足が顕著なことから、今後も景気は変わらない。景気を上向かせるためには、この状況を打開することが必要である。また、最低賃金の引上げ幅が大きかったことから、経営面にマイナスの影響を与えることが懸念される。
		通信会社（企画担当）	・9月発売予定の人気端末に対する客の反応が、例年並みであるとの話を各店舗の店長から聞くことから、今年も前年並みの販売が見込まれる。会社としては、需要を底上げするため、様々な施策を打ち出すことを計画している。
		美容室（経営者）	・客の来店周期が固定化しつつある。今後については、良くはならないが悪くもならないといった状況が続くとみられる。
		住宅販売会社（経営者）	・今後も住宅が余り建たない状況が続くとみられる。建築資材の高騰も続くとみられることから、住宅部門は引き続き厳しい状況となる。また、食品などの値上がりが続いていることもマイナスである。
		住宅販売会社（従業員）	・建築単価の高止まりと住宅ローン金利の上昇が、客の住宅購入意欲にブレーキを掛けていることから、今後も景気は変わらない。
		商店街（代表者）	・物価の上昇が続いているため、客から景気の悪い話が聞かえてこない。
		商店街（代表者）	・インバウンドについては、中国からの観光客が大幅に減少している一方で、欧米からの観光客が増加していることから、全体的には微減にとどまっている。ただし、百貨店におけるインバウンドの売上は、高額品を中心に大幅に減少している。インバウンドの傾向に変化がみられることから、今後の景気はやや悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔土産〕 (経営者)	・夏らしい快晴が続いたこと、外国人観光客が好調に推移したことから、8月の景気はますますであった。ただし、今後については、物価の上昇が続いていること、国内観光客が減少していること、米国の関税の動向が不透明なことから、先行きが読めない状況となっている。
		スーパー(店長)	・具体的な物価高対策がはっきりとしていないことから、今後の景気はやや悪くなる。
		スーパー(企画担当)	・9月中旬以降、店頭に出回る新米の価格が前年と比べて相当高くなると見込まれている。米以外の飲料、酒、雑貨などについても、多くの商品が値上げされると報道されているため、今後の消費が一段と冷え込むことが懸念される。
		スーパー(企画担当)	・猛暑の影響が出始めている。価格が高止まりしている農作物があるほか、新米も期待していたような価格低下がみられないことから、今後、客の節約志向が強まることが懸念される。
		スーパー(役員)	・新米の価格が高止まりし、他の食料品の値上げも続いていることから、今後も客の節約志向が続くことになる。
		コンビニ(エリア担当)	・商品の値上げが続いていることから、今後の消費は緩やかに落ち込むことになり、景気はやや悪くなる。10月から最低賃金が引上げられることで、企業体力が落ち込むことになり、投資の縮小などが起こることも懸念される。
		コンビニ(エリア担当)	・新米の価格が高止まりするとみられることから、米の代わりに小麦を使用した商品を主食とする日が増えることになり、そうすると、できるだけ安い商品を選んだり、食べることを控える動きが出てくる懸念される。このため、今後の販売量は減少すると見込まれる。
		乗用車販売店(従業員)	・米国の関税の影響で、メーカーや客の動きが落ち込むことが懸念される。インバウンドにも悪い影響を与えることが懸念されるなど、マイナス要因ばかりであり、景気が良くなるようなプラス要因が余り見当たらない。
		高級レストラン(スタッフ)	・9月以降、当地のホテルの予約状況が落ち着くと聞いていることから、観光客の利用が減少することになる。また、インバウンドについては、消費額が減少傾向にあり、飲食店の利用が減りつつある。地元客については、年齢の高い客ほど外食控えが進んでおり、これまで中心であった50代や60代の利用を当てにできなくなる。
		高級レストラン(スタッフ)	・今後については、客が価格を重視するようになることで、景気はやや悪くなることを懸念している。
		高級レストラン(スタッフ)	・前年は劇場アニメの効果により地域全体で盛り上がりが見られたが、今年はそうした動きもないことから、来客数が減少することになる。
		旅行代理店(従業員)	・夏季繁忙期が終わることから、インバウンド需要は、ピークを下回るようになる。一方、国内のアウトバウンド需要は、修学旅行などの需要が増加する時期であるものの、物価高の影響で生活防衛意識が高まっていることがマイナスとなる。これらのことから、今後の旅行需要の大きな伸びは期待できない。
		旅行代理店(従業員)	・食品などの生活必需品やサービスの価格高騰、公共料金の引上げが続いていることから、旅行を検討する人が減っている。客の財布のひもが固い状況が続いていることから、今後の景気はやや悪くなる。
		タクシー運転手	・例年、暑い時期を過ぎて涼しくなると、タクシーの利用が減ることから、9月半ばから雪の降る時期まで、タクシー1台当たりの売上は減ることになる。一方、乗務員が順調に増えていることで、タクシーの稼働台数は少しずつ増えることになる。会社の売上は前年を上回って推移するとみられるものの、採用コストなどの増加により、利益は前年並みで推移することになる。
		タクシー運転手	・物価の上昇が続いていること、政治的不安定な状況が続いていることから、今後の景気はやや悪くなる。
		美容室(経営者)	・最低賃金が引上げられたことで、物価が一段と上昇することが懸念される。景気を上向かせるには、最低賃金の引上げよりも、社会保険料の引下げが望ましい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・観光シーズンが終了することで、旅客及び車両の輸送量が減少するとみられるため、今後の景気はやや悪くなる。
		住宅販売会社（経営者）	・依然として、建築価格が上昇傾向にあることから、客にとって買いにくい価格で推移している。一般的な住民が買えるマンション価格と現在の市場価格の乖離は余りにも大きく、マンション購入を諦める客が増えている。客の所得が伸び、建築価格が落ち着かなければ、分譲マンション市場は大きく縮小することになる。
	×	一般小売店（経営者）	・大型の景気対策などが行われないうり、この先の景気は大きく落ち込むことになる。
	×	スーパー（店長）	・これから冬が近づいてくることで、灯油代が掛かるようになり、客の節約志向が一層強まることになる。
	×	観光型ホテル（経営者）	・7月に地震が起きるといふ予言の影響で、いまだにインバウンドの団体客の減少が続いている。国内客は、物価高の影響により減少傾向で推移している。集客状況が悪化していることから、今後の景気は悪くなる。
	×	美容室（経営者）	・卸売業者から仕入れている商材について、ここ数年、春と秋に値上げが行われている。今年の秋は、これまでよりも値上げ幅が大きくなるといわれていることから、今後の不安材料となっている。
企業 動向 関連  (北海道)		金融業（従業員）	・観光需要が堅調に推移していること、賃上げの動きがみられること、国による物価高対策が行われることから、今後、消費者のマインドが上向くと期待している。
		司法書士	・法人名義の不動産登記業務の依頼が増えている。周りの同業者の受注量も上向いている。これらのことから、今後の景気はやや良くなる。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・現在の建設業者の受注状況から、国内建設投資は、当面堅調に推移すると見込まれる。ただし、先行き不透明感がやや増していることから、中長期的には留意が必要である。
		農林水産業（経営者）	・今年のような猛暑が、来年以降も続くことが懸念される。早急な対策が必要である。
		食料品製造業（従業員）	・今後についても、売上が大きく変わらずに推移する見通しとなっている。
		食料品製造業（従業員）	・8月の売上は好調であった。ただし、観光のハイシーズンということも影響しているため、今後売上が大きく伸びることまでは期待できない。
		建設業（経営者）	・今後の新規受注は余り見込めない。工事現場の稼働状況はピークを迎えており、一部の職種では人手不足が続いている。また、初雪の時期が近づくなか、日照時間の減少や土の乾きが悪くなることで、工事の効率も低下することになる。
		建設業（従業員）	・現在の人手不足は、業界構造に起因するものであり、民間企業単独で対応できるレベルのものではない。海外からも人員を補強するなど、仕組みから改善していかねば、今後、業界が存続できなくなる可能性もある。
		建設業（役員）	・台風シーズンを迎えて、局地的な豪雨などで甚大な影響を受けない限り、工期が遅延するような恐れはなく、計画どおりの完工高と利益が見込まれる。
		輸送業（支店長）	・原材料価格の高騰と人手不足の影響で、建材や鋼材の荷動きがやや悪くなっている。
		広告代理店（従業員）	・経済指標は底堅く推移しているものの、米国の関税の動きが不透明なことから、今後も景気は変わらない。
		通信業（営業担当）	・企業の動きをみると、売上の増加幅を上回るコストの増加により、投資に対して慎重になっている。個人消費は、所得の増加を上回る物価高騰により、生活防衛意識が強まっている。これらのことから、今後の景況感はやや下向きになる。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・米国の関税の影響を受けている企業が既に出始めていることから、今後の景気はやや悪くなる。
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・2か月前に売上予測をしたときと比べると、市場の動きが若干停滞している。売上予測が持ち直すような要因も見当たらないため、今後、更なる下方修正が生じることも懸念される。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	司法書士	・物価の上昇が景気悪化の大きな要因であるものの、税や社会保障費の負担増も景気の悪化に拍車を掛けている。国や自治体が効果的な対策を行わない限り、景気は悪くなるのが懸念される。
雇用 関連		-	-
(北海道)		人材派遣会社(社員)	・企業が求める採用スキルに妥協がみられず、人並みのスキルでは採用に至らない状況が散見される。企業が採用を諦める様子はみられないものの、既存の人員で業績を維持できるように工夫する動きもみられることから、今後も景気は変わらない。
		求人情報誌製作会社(編集者)	・建築確認申請が大幅に減少していることで、建設業界の動きが鈍くなっており、活気がなくなりつつある。また、当地は米の生産地であり、ふるさと納税による需要増加が見込まれる一方で、これまでの高温少雨の影響が懸念される。
		職業安定所(職員)	・新規求人数の減少要因が継続しているものの、景気の悪化に直結しているとはいえない状況にある。
		職業安定所(職員)	・当地の7月の新規求人数は前年から6.0%の減少となった。一方、月間有効求人数は、6月こそ27か月ぶりに前年を上回ったものの、7月は再び前年を下回った。ただし、産業や業種によってその度合いは異なっており、今後の物価上昇の状況によっては、経済活動、消費行動が先を見通せない状態となることも懸念される。
		学校[大学](就職担当)	・求人数の状況を見ると、業種による違いはあるものの、大きな変化はみられないことから、今後の景気が上向くとは考えにくい。
		求人情報誌製作会社(編集者)	・最低賃金の上げが、アルバイト求人を一段と減少させる要因になるとみられる。このため、今後の景気はやや悪くなる。
		求人情報誌製作会社(編集者)	・米国の関税が不透明なこと、物価の高止まりが続いていることから、今後の景気は徐々に悪くなる。
		職業安定所(職員)	・原材料価格の高騰が続いていることから、景気が良くなる要素が見当たらない。住宅関連では、資材価格が高騰していることで、客からの注文が入らないとの話を聞く。
	×	-	-

## 2. 東北(地域別調査機関:公益財団法人東北活性化研究センター)

(-:回答が存在しない、\*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連		-	-
(東北)		一般小売店[医薬品](経営者)	・季節が秋に変わるのに伴い、売れる商品も変化するとみている。
		一般小売店[スポーツ用品](店員)	・秋の新作が発売されるため、業界としては良い傾向となる。天候が穏やかになれば、ゴルフ場の利用やショッピングの来店にもつながるとみている。
		百貨店(経営者)	・3月以降、高額商品の動きは鈍かったが、ここに来て復調の兆しがある。現在の経済環境からすれば、新たな商品の提案次第で良くなるのが期待できる。
		百貨店(経営者)	・人気イベントの開催予定があり、来客数の増加が見込まれることから、売上の増加を予想している。生鮮食品等は物価高の影響で苦戦が予想される。
		スーパー(店長)	・8月の業績悪化の要因はお盆だったため、9月からは戻るとみている。ただし、9月に多数の商品が値上がりすることが懸念材料である。
		スーパー(店長)	・売上は上向いており、業績も伸びているため、やや良くなるとみている。
		コンビニ(経営者)	・値上げ商品が多いなか、買上点数が伸びている。人の動きが良好で、客単価もアップしている。この先も暑さが続き、人の動きの良い状況が続けば、景気の落ち込みはない。
		コンビニ(エリア担当)	・客が値上げ後の商品価格に慣れてきている。また、気温上昇に伴い飲料、アイス、氷といった夏物商材が好調に推移している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当）	・秋の行楽はインバウンドも期待できる。
		衣料品専門店（経営者）	・商品単価が高い秋冬商材が本番の時期になる。
		家電量販店（従業員）	・客が値上がりに慣れてきたため、買換え需要では単価の上昇が見込まれる。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車がオーダーできるようになり、販売量は伸びるとみている。
		乗用車販売店（従業員）	・決算セールは終わるものの、新型車が発売されるため、良くなるとみている。
		住関連専門店（経営者）	・受注生産をしており、受注量は確定している。この先の生産量、販売量はやや増加する見込みである。
		一般レストラン（経営者）	・暑さと物価上昇でかなり厳しいが、秋になりもう少し涼しくなれば、人出が増え、予約も増えると思われている。
		都市型ホテル（支配人）	・秋口から冬にかけての先行予約が好調である。特に訪日インバウンドが好調である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・紅葉の時期を迎え、来客数が増加する。
		旅行代理店（従業員）	・2～3か月先の当社契約宿泊施設の販売額が前年を超えている。
		旅行代理店（従業員）	・個人旅行は、先行予約や年末年始を含む先の旅行相談の状況から、海外旅行で多少回復の兆しがみられる。この先、多少は良くなるとみている。
		通信会社（経営者）	・11月からサービスエリアが拡大するため、放送、インターネット共に新規加入者数の増加が見込まれる。また、新規オープンの大規模ショッピングセンターでの加入促進イベントを予定しており、加入者数の増加が期待できる。
		観光名所（職員）	・2～3か月先は繁忙期になるが、予約が例年より早く埋まってきている印象を受ける。
		美容室（経営者）	・国の景気対策などが出そう。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・今後もしばらくは好調が続くとみている。しかし、利上げになれば一転、厳しくなる。
		商店街（代表者）	・食料品を中心に物価高は続く見込みで、景気は現状のまま変わらないとみている。
		商店街（代表者）	・繁華街の空洞化により、消費が減退することを懸念している。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・暑さが落ち着けば多少は人出が増えるが、10月に選挙が控えているため、繁華街はまた静かになる。現在の悪い状況は変わらないとみている。
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	・暑さや食品等の値上げが続くなか、寝具等の購入に目を向けてもらうのは難しい。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・地方では景気が上向き要素が見当たらない。日本全体の景気が相当良くなしないと、地方に良い影響は波及してこない。
		百貨店（企画担当）	・識別顧客の売上は前年割れが続いており、非識別顧客の動向に左右される構図になっている。
		百貨店（営業担当）	・暑い日が続いているため、季節の変わり目による客の動向が見えにくい。
		百貨店（従業員）	・物価高が改善される見込みがないことから、生活防衛意識が高い状態は変わらず、必要最低限の購買しかしない状況は続くと思われている。
		スーパー（店長）	・他社との競争が激しい状況は変わらないとみている。
		スーパー（企画担当）	・物価が更に上がるため、使える金が増えない限り、良くなることはない。
		スーパー（商品担当）	・前年9月は残暑の影響で来客数が好調に推移したが、今年は日曜日が1回少ないため、来客数にその影響が出るとみている。また、値上げの影響で買い控えも続くと思われている。明るい見通しを立てられる状況ではない。
		スーパー（業務担当）	・現時点で大幅に景気が良くなる要素は見当たらない。
		コンビニ（経営者）	・9月からまた値上がりする商品があるため、衝動買いは減り、買い控えが顕著になるとみている。この先、売上は厳しくなっていく。
		コンビニ（経営者）	・商品が値上がりしているため売上は横ばいだが、来客数が減少している。景気は変わらないとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当）	・外的環境に変化がないため、変わらない。
		コンビニ（店長）	・景気が変わる要素が見当たらない。
		衣料品専門店（経営者）	・景気の動向を見ながら、店舗展開や法人の訪問回数を増やすなどの対策を検討中である。
		衣料品専門店（経営者）	・物価高騰による消費意欲の減退は続くとみている。
		衣料品専門店（店長）	・インターンシップの準備をする客の動きが例年より前倒しとなっているため、その後のプラス要因が読めない状況である。残暑で秋物の出足が遅れることを心配しているが、今のところ天候要因くらいしか懸念事項はない。
		衣料品専門店（店長）	・9月、10月と値上げされる品目が増えることが予想されるなか、残暑が10月まで続くという予報も出ており、消費者の購買モチベーションの低下が危惧される。
		衣料品専門店（総務担当）	・原材料価格の高騰による食料品を始めとした商品の価格高騰が続いており、消費者の購買行動に影響している。今後も必要最低限の物だけを購入する状況が続くとみている。景気が上向くことは考えにくい。
		家電量販店（従業員）	・9月の決算や10月の現行OSのサポート終了によるパソコン需要はある程度想定される。しかし、白物家電や調理家電は入替えの時期に入り、処分品は安く、新製品は高くなることで価格差が激しくなる。処分品が多く売れることで単価は下落する。また、処分品は在庫数にも限界があるため、景気が大きく変わることはないともみている。
		乗用車販売店（従業員）	・売上の計上は車両が登録された時点となるが、売上を左右する配車台数が劇的に増加することはないともみている。
		住関連専門店（インテリアコーディネーター）	・高温による野菜や米の不作もあり食料品の価格が上がっている。建築業界においても材料価格や人件費が高騰している。この先2～3か月で景気が良くなることはない。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（経営者）	・近年の暑さが長引く傾向は衣替えの時期にも変化をもたらし、10月中旬まで夏物のところも多い。また、インナーの普及や軽防寒の性能アップにより、かつての防寒着はほとんど注文がない。インナーは個人が購入するため、当社の売上にはつながらない。
		その他専門店〔靴〕（経営者）	・物価上昇は続いており、景気が良くなる要素が見当たらない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・手取り額が増える見通しが立たないなか、食品を中心に値上げが続いており、客の節約志向は続く見通しである。特別な日には金を出す、メリハリ消費には期待できるものの、その対象となるイベントの選別が以前よりもシビアになっている印象を受ける。
		高級レストラン（支配人）	・元々夏場は需要が落ち込む傾向にあるが、今年の集客は例年にも増して厳しい状況が続いている。主要客であるシニア層が猛暑の影響で外出を控えており、集客減少に拍車を掛けている。
		一般レストラン（経営者）	・物価が更に上がるため、景気が良くなることはないが、その状態に慣れて、それが普通になっていくともみている。
		観光型ホテル（スタッフ）	・電気代などが家計を圧迫している。
		観光型ホテル（スタッフ）	・好転する要素がない。
		観光型旅館（経営者）	・物価高が続き、好転する要素もないため、変わらないともみている。
		観光型旅館（スタッフ）	・紅葉シーズンで来客数は増えるが、団体予約が中心である。個人予約を伸ばしたいが、景気が良くなる要素がないため難しい。
		旅行代理店（従業員）	・個人旅行は物価高騰の影響により客層が絞られる。団体旅行は一部の好況企業で動きが見られるものの、東北は中小企業が多いため、全般的に減少することが予想される。
		旅行代理店（従業員）	・予約状況を踏まえると、先行きの見通しは明るくない。
		通信会社（営業担当）	・景気が好転するような材料に乏しい。
		通信会社（営業担当）	・政治が不安定で、物価対策が遅々として進まない。
		通信会社（営業担当）	・変化があるような兆しはみえない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光名所（職員）	・夏休み期間中は天候にも恵まれ、客単価の上昇もあり、大変良い結果となっている。予約状況も良いため、現在のやや良い状況が続くとみている。
		観光名所（職員）	・土産品の価格が上がっているものの、売行きは問題ない。客の購買力は高いとみている。
		遊園地（経営者）	・家計消費の弱含み、物価上昇等で景気の好転は期待できない。
		美容室（経営者）	・物価が上がっているため、客は美容に掛ける費用を節約している。
		設計事務所（経営者）	・物件の発注は一定数あるが、物件単価は下落傾向にある。単価が低くても関わる職員数を減らすことはできず、予定外の新規受注は難しい状況である。
		住宅販売会社（経営者）	・住宅受注は伸びないが、賃貸用鉄筋コンクリート造のマンションの受注がそれなりにあり、売上目標は何とか達成できる見通しである。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・住宅設備機器は、エアコンの問合せが落ち着き、給湯器の交換が増えるとみている。リフォームは、暑さの影響で問合せの少ない状況が続くとみている。
		その他住宅〔住宅展示場運営会社〕（従業員）	・成約棟数の推移に大きな変化はないとみている。
		商店街（代表者）	・現在の暑さも2～3か月先には落ち着くが、米国の関税政策の影響が出始めることで、消費はかなり減退するとみている。
		商店街（代表者）	・物価高騰で財布のひもが固くなるとみている。
		商店街（代表者）	・紅葉シーズンを迎えても、夏祭りほどの来客数は見込めない。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・ウクライナ情勢の長期化により、ロシアでは物資が不足していると伝えられている。それが回り回って、我が国の食糧を含む生活必需品の更なる価格上昇につながっていく可能性がある。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・気象条件が良かったこともあり現状は好調だが、続くことはないとみている。お盆が終わりイベントなども落ち着けば消費マインドも低下してくる。新米の価格高騰のニュースなどを聞くようになり、不安が一層高まっている。
		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	・活字離れや商品単価の上昇、人件費の高騰など悪くなる要素は幾らでもあげられるが、良くなる要素は全くない。
		スーパー（経営者）	・上場企業の2026年3月期見込みが6年ぶりに減益の見通しとの報道が出ている。また、10月からは電気料金の値上げ、最低賃金の大幅アップなどがあり、経営環境は厳しさが増すとみている。そういったことが、景気にマイナスに影響せず、最低賃金の引上げが消費拡大につながることを期待したい。
		スーパー（店長）	・米の価格上昇が予想される。
		スーパー（店舗運営）	・商圏内の環境は余り変わらないが、商品の値上がりは続く見通しであり、消費者の買い控えが懸念される。
		コンビニ（経営者）	・今月は天候が良かったにもかかわらず、来客数が伸びていない。2～3か月後には競合店がオープンするという情報もあるため、ますます厳しくなるとみている。
		コンビニ（経営者）	・最低賃金の引上げで経費が増え、利益が減少するため、経営は確実に厳しくなる。
		コンビニ（経営者）	・当面、好転する見通しは立っていない。米の価格上昇で農家の動きが良くなることを期待したい。
		コンビニ（店長）	・過疎化などで厳しい状況のなか、景気が上向くプラス要因は見当たらない。
		衣料品専門店（店長）	・物価高騰や米国の関税政策の影響で消費マインドが低下するため、買い控えの傾向は今まで以上に強くなる。
		乗用車販売店（従業員）	・市場環境から物価高騰が予想される。販売車種の価格改定が予定されており、客の動きや販売に影響が出るとみている。
		乗用車販売店（従業員）	・ボーナス時期である6～7月の販売量の伸びが想定以上に悪かったことから、今後の見通しも余り良くない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店(店長)	・現状では登録台数が前年比120%でも、収益が前年比80%台とかなり苦戦している。中古車の卸相場が急激に下落していることもあり、収益が比較的良好だった中古車部門に影が差し始めている。
		その他専門店[酒](経営者)	・全体的に商品価格の上昇傾向が続いており、消費者の財布のひもはますます固くなっている。特にこれから米価が異常に高くなるなどすれば、その影響は計りしれない。消費者の米離れや国産米を使わなくなる傾向が出てくるのが危惧される。
		その他専門店[ガソリンスタンド](営業担当)	・暫定税率の廃止やそれに向けた補助事業の変更等、不確定要素が多く、対応に影響が出るとみている。
		一般レストラン(経営者)	・11月までの予約状況をみてもペースが悪い。今後は来客数が減少するとみている。
		一般レストラン(スタッフ)	・税金は取られるが賃金は上がらないため、夏休みやお盆で消費した分、金を使わなくなる。売上の増加は見込めない。
		タクシー運転手	・2~3か月先は今月より過ごしやすい時期になるため、利用者数は減少するとみている。
		テーマパーク(職員)	・9月からは、改装に伴い店舗エリアが縮小する。
		競艇場(職員)	・大口の客の来場により、今月の売上は好調だが、来場は不定期であるため、今後は売上が下がるとみている。
		その他サービス[寮管理](管理人)	・暑さや物価高騰などの影響が続く見込みであり、景気は下向きとみている。
	x	スーパー(経営者)	・消費マインドとして財布のひもは固くなっている。
	x	コンビニ(経営者)	・最低賃金の大幅な上昇により経営は非常に苦しくなる。サービス向上のためのオペレーションは増え続けており、働き手は減るが省人化は難しい。人口が少ない当地域では売上は上がり、経営は非常に厳しい。冬を越せないオーナーもかなり出るとみている。
	x	その他専門店[ガソリンスタンド](営業担当)	・残暑が厳しく配達灯油の販売が減っている。気温が高くなるとの長期予報が出ているため、販売量の増加は期待できない。
	x	一般レストラン(経営者)	・良くなる要素は皆無である。
企業 動向 関連  (東北)		-	-
		農林水産業(従業者)	・農業団体から支払われる米の概算金が、前年度よりも上昇する見込みである。
		食料品製造業(製造担当)	・土産品は春先の価格改定以降、実店舗で苦戦してきたが、少し価格に慣れてきたことと、他店も相次いで値上げをしたことで価格差が縮まったことから、物販も上向いている。
		金属製品製造業(経営者)	・客先から増産傾向との話を聞いている。いよいよ反映してくることを期待したい。
		建設業(従業員)	・現在対応中の民間案件が受注契約の時期を迎える。
		通信業(営業担当)	・来年度に向けて、設備投資意欲やオフィス家具などの買換え需要が高まるとみている。
		広告代理店(経営者)	・東京でメディア市況が活況を呈しており、今後は当地域にも波及してくると予想している。
		その他企業[企画業](経営者)	・当県の米の概算金が前年比160%になるとの情報があり、米農家は一様に安心している。2~3か月先には振り込まれるため、当地域の経済は潤うとみている。
		農林水産業(従業者)	・この先も様々な果物が旬を迎えるため、しばらくは需要が高い状態が続くとみている。
		食料品製造業(経営者)	・食品関係は9月から値上げになるものも多いため、販売量の動きが悪くなるのが懸念される。
		出版・印刷・同関連産業(経営者)	・好材料が見当たらない。
		一般機械器具製造業(経営者)	・引き合いが減少しており、販売価格を抑えなければ受注できないような状況にある。各社、設備投資の話題も少ないため、2~3か月先も景気は変わらないか、やや悪くなるとみている。
		電気機械器具製造業(総務担当)	・少なくとも年内は、余り動きはないとみている。
		輸送用機械器具製造業(経営者)	・良くなるという情報が少ないため、現状のまま変わらない見込みである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（従業員）	・人手不足のなか人繰りを工夫して、受注工事を工期に間に合わせている状況である。
		建設業（従業員）	・人手不足が続いているため、良くなるとはみていない。
		建設業（従業員）	・これ以上は対応できない受注量を確保している。景気は良いまま変わらない。
		輸送業（経営者）	・物流の2024年問題で一部荷主との料金交渉に進捗があり、売上は増加傾向で推移している。反面、燃料価格の高止まり、人件費・物価高などで輸送原価が上昇し、コストも増加している。また、主要貨物である機械装置の出荷予定が見通せない状況が続いている。
		通信業（営業担当）	・客の値下げ要請には辛抱強く対応し、状況を理解してもらえない。
		通信業（営業担当）	・価格上昇はあるものの、特に変わらないとみている。
		金融業（広報担当）	・観光関連業種にとってはプラスとなる時期である。一方、米やりんご、ホタテやイカなど一次産品の収穫に関しては質、量共に心配される状況であり、地元経済への影響が懸念される。
		広告業協会（役員）	・物価上昇や米国の関税政策などがあり、景気が良くなる要素は見当たらない。そのような状況では広告業界への積極的な投資は期待できない。厳しい状態がしばらく続くともみている。
		経営コンサルタント	・気候変動が農業に与える影響について注視していく必要がある。
		司法書士	・特に目立った動きはない。
		公認会計士	・小売業、サービス業関係は一定程度の業績を確保しており、急激に悪化する要因は見当たらない。一方、建設業関係の一部顧客で業績が悪化しているほか、製造業も2～3か月での業績回復は難しい。全体としての景気はやや悪くなるとみている。
		コピーサービス業（従業員）	・売上が前年を割る状況は変わらないとみている。
		その他非製造業〔飲食品卸売業〕（経営者）	・10月には日本酒の値上げが相次ぐ。需要が伸びる要素は少ない。
		食料品製造業（営業担当）	・10月に値上げを控えており、販売量の更なる悪化が懸念される。
		一般機械器具製造業（経営者）	・半導体設備部品の見込みが急減し、12月以降の注文は白紙となっている。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・需要が一服し、一時的に生産量が落ち込む見通しである。
		その他企業〔協同組合〕（職員）	・半導体関連の受注量が9月から更に減少する予定であり、その影響が全体的に広がる可能性が高い。
	x	窯業・土石製品製造業（職員）	・公共事業、民間事業共に受注量は減少している。厳しい状況が続く。
雇用 関連  (東北)		-	-
		-	-
		人材派遣会社（経営者）	・飲食業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の各経営者と話をしても、プラスの話はないがマイナスの話もない。当地の中堅中小企業では米国の関税政策の影響は出ていないことから、このままの状況がしばらく続くともみている。
		人材派遣会社（社員）	・しばらくは、求人数、求職者数共に余り変わらないとみている。
		人材派遣会社（社員）	・米国の関税政策の影響は依然として不透明であり、足元の求人数は減少傾向にあることから、景気が上向くとは言い難い。大手企業を中心に賃上げできているところもあるが、中小企業は十分ではない。そもそも物価上昇分も吸収できていない。消費を喚起する施策が必要である。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・変化をもたらす要素が見当たらない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・観光客も多く街にぎわいはあるが、物価高の影響もあり、景気回復の実感はない。
	職業安定所（職員）	・米国の関税政策の影響による自動車関連製品等の減産と、最低賃金引上げによる中小企業の人件費増加の影響が懸念される。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・新規求人数、有効求人数共に前年より増加している。ただし、米国の関税政策の影響を考慮する必要がある。
		職業安定所（職員）	・倒産や後継者不足で廃業に至る事業所も散見される。離職者の積極的な採用を考えている事業主もみられ、人手不足感は続いている。
		その他雇用の動向を把握できる者	・物価高が続く限り、現状に変化はないとみている。
		アウトソーシング企業（経営者）	・給与の手取り額が増えないなか、物価だけが上がる状況が続くとみている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・物価上昇に県内企業の業績が追い付いていない。
		職業安定所（職員）	・最低賃金の引上げにより、求人申込みの減少が想定される。
		学校〔専門学校〕	・人手不足が企業活動や求人件数に影響を及ぼしている。短期間で改善できる課題ではない。
	x	人材派遣会社（社員）	・東北地域だけでなく全国の拠点を見ても、求人・求職者の動きは縮小傾向にあり、危機感を覚える。

### 3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北関東)		旅行代理店（経営者）	・売上価格の上昇に加え、販売量の増加が見込まれる。
		美容室（経営者）	・現在好評な冷やしメニューは、来月も多くの客に選ばれると予想している。
		商店街（代表者）	・幼稚園や小中学校での運動会、芋ほり、登山等の行事や七五三祝い等の写真依頼があり、活発になってくる。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・この夏休みも国内外の観光客の出足は堅調で、今後もこの状況が続くと予想する事業者が多い。10月中旬には大阪・関西万博も開幕するため、紅葉シーズンの旅行先として当地が選ばれることを期待する話を聞くことが増えている。
		コンビニ（エリア担当）	・この先もまだ物価高の影響が続く。販売数もこのまま上がっていくとみている。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数が堅調であり、秋の行楽シーズンに突入するため、やや良くなる。
		コンビニ（店長）	・商圏内は高齢者が多くなっているため、8月の酷暑のなか来店する客は特に少なかった。涼しくなればある程度通常に戻ると期待している。
		一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・団体宴会の問合せや予約が入ってきているため、それなりに動く。
		都市型ホテル（支配人）	・秋はイベントも多いシーズンで、宿泊部門も料飲部門も現時点の予約状況から良くなる見込みである。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊、料飲、宴会共に前年売上はクリアしているが、宴会件数が前年割れしている。物価上昇により単価を上げ、件数の減少分をカバーしているものの、個人の宴会が減少している。
		旅行代理店（所長）	・個人需要、教育旅行、インバウンドは引き続き堅調の様相であるが、法人需要がどうなるか気掛かりである。
		旅行代理店（従業員）	・客が値段についてうるさく言わなくなったため、先行きはやや良くなる。
		タクシー（経営者）	・動きが良くなっている。この先も良くなる。
		ゴルフ場（従業員）	・前年よりは予約の動きが出ている。トップシーズンに入るため、期待したい。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	・当分の間はまだ暑さが続き、秋は来ない。気温が下がってくれば人の動きも出てきて、活気が出る。
		百貨店（営業担当）	・暑さがしばらく続くという想定で、店頭ラインナップも夏仕様素材で秋も展開していくなど、取引先も様々な取組みをしている。しかし、単価が上がる秋冬商材のスタートダッシュが不透明なため、楽観視はできない。
	百貨店（店長）	・少し良化する兆しはみえているものの、確信を持てるレベルではない。多少のことで急激に悪化する可能性も十分にあり、変わらないというよりはどちらにでも転ぶ可能性がある。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当）	・前年は多数のイベント効果で、売上は下支えされていたが、今年はイベントが少ないため、今後は悪化に転じる可能性がある。
		家電量販店（店員）	・エアコン以外の耐久消費財は伸び悩んでいる。パソコン本体はOSサポート終了による買換え需要に期待できるが、構成比でけん引できるかが鍵である。
		自動車備品販売店（経営者）	・株価が上がり若干ムードは良い気はするが、人の動き、購買意欲はまだ少し追い付いていない。車で動いて交通量が増えれば経済波及効果はかなり大きい。ガソリン価格の軽減や減税などによる景気上昇を期待したい。
		住関連専門店（仕入担当）	・9月も暑さは続くため、対応するべく導入する商材を変化させているが、秋冬商材の販売が遅くなることはマイナスである。食品を中心とした物価高を含め、個人消費にポジティブな要素は見当たらない。
		その他専門店（総務担当）	・客の動向が変わらない。
		一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・景気が回復する要素が見当たらない。しばらくは低迷が続くそうである。米を始め、作物の豊作を願うばかりである。
		旅行代理店（営業担当）	・大阪・関西万博が終わるまで、現状は変わらないとみている。
		タクシー運転手	・地方では景気が悪く、タクシー業界が良くならない状況は変わらない。
		通信会社（営業担当）	・大手企業等で一部賃上げの効果はあるものの、中間層以下は今後も厳しい状況が続く。
		通信会社（総務担当）	・5か月連続で販売数が横ばいとなっている。変動がないと今後の方向が判断できない。
		設計事務所（所長）	・価格高騰が続き、新たな政策の見通しも立たない。変わる様子はみられない。
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	・建築資材の高止まりが大きな要因だが、金額の多寡で発注が決まる傾向に変化はない。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・いろいろな行事も終わり、今は一服という状態である。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・これから9月、10月と高温障害の影響で前年と同様に青果はかなりの価格高騰があるということなので、買物もしづらくなる。
		百貨店（営業担当）	・依然として物価が高く、消費意欲は低迷することが予想される。一部富裕層の動きは見られるものの、中間層の消費行動は慎重である。
		スーパー（総務担当）	・米価の高止まりなど、景気が良くなる要素がみえない。
		スーパー（商品部担当）	・いろいろと対策を実施しても、回復の兆しがみえない。消費者の節約志向は更に強まっている。
		衣料品専門店（店長）	・秋物の立ち上がりの時期ではあるが、このまま高温が続けば秋冬商材の動きが悪いことは目に見えている。
		衣料品専門店（販売担当）	・年末に向かってまた徐々に物価が上がっていく。特に、新米が出るこの時期は、米を中心とした価格の部分で、やはり社会的な不安をおおるような状況が続くのではないかとみている。そのような状況から、ぜいたく品といわれる洋服まではまだお金が回らない。
		家電量販店（営業担当）	・夏物商材の動きが良く、売上をけん引している。冬物商材の検討が急務となる。
		乗用車販売店（経営者）	・この物価高のなかで、当地の自動車メーカーは、米国関税の影響で米国への輸出が減少してダブルパンチである。ただし、国内販売では順調な車種がそれなりにあるため、生産ラインはほぼ従来どおりに稼働しているのが救いである。
		乗用車販売店（従業員）	・車両受注が減少しているため、受注残も減少傾向となっている。
		乗用車販売店（営業担当）	・物価対策や減税などが打たれない限り、景気が良くなることはない。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	・最低賃金の大幅引上げや米価の高値見通し等、経費が高くなる状況は続くと思込まれることから、主力の給食部門ではクライアントに取引条件の再々見直しをお願いせざるを得なくなっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（経営者）	・ホテル業界は、夏から秋は大人数での宴会需要が少ない季節で、忘年会シーズン前は閑散期のため、今より悪くなる。
		通信会社（社員）	・サービス単価を数年間変えず、原価上昇分は当社が賄っているが、どこまで耐えられるか不安である。顧客満足度向上と新たなサービスの創出での対応を検討している。
		通信会社（局長）	・景気対策の遅れは現状維持でなく価格に悪影響を及ぼす可能性もある。販売が伸びなければ今後の昇給やボーナスにも影響が出てくる可能性がある。
	×	商店街（代表者）	・幹線道路上の橋の架け替え、区画整理の工事による店舗の移転、廃業などが進行するため、悪くなる。
	×	一般小売店〔家電〕（経営者）	・時期的なものもあり、業界として悪くなる傾向にある。
	×	乗用車販売店（経営者）	・現政権の不安定さがあり、悪くなる。
	×	住関連専門店（店長）	・政府の経済対策や方針が不透明である。今後の先行きが分からないため、客の消費控えが発生している。
	×	一般レストラン（経営者）	・物価高への対策が打たれなければ景気は回復しない。
	×	通信会社（経営者）	・補助金絡みの物以外は全くとってよいほど売れない。これは取引先等に聞いてもどこも同じである。国が値上げを押し進めた結果、大手は商品価格に転嫁し、物価が上昇しているが、中小企業は仕入れ、人件費共に上昇し、商品価格に転嫁したとしてもどんどん物が売れるのならよいが、売れないために価格を下げざるを得ない。今年度の企業倒産件数をみれば中小の厳しさは一目瞭然である。
	×	テーマパーク（職員）	・例年以上の猛暑が秋まで続くという予報や、物価高騰などの不安定な状況から、レジャー費は後回しとされるとみている。
	×	ゴルフ練習場（経営者）	・今後はますます買い控え傾向になるため、悪くなる。
	×	美容室（経営者）	・景気が回復しないことを常に実感している。お金が使えない状況を解決していかないと消費は伸びない。先行きが不安である。
	×	住宅販売会社（経営者）	・大手企業と違い、中小企業は利益が出にくくなっている。仕入原価、経費共に高騰し、今までの経営方法では利益は出にくい状態である。大手企業を中心に金利等は決まっているが、上昇に苦労している。
企業 動向 関連  (北関東)		-	-
		化学工業（管理担当）	・新製品の受注、生産が開始となる。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・今の暑さが落ち着けば景気も良くなる。早く暑さが落ち着いてほしい。
		一般機械器具製造業（経営者）	・自動車の量産案件で安定した長期内示があり、他の分野でも多少の増産が見込まれる。
		経営コンサルタント	・米国の関税政策、インフレ傾向などの基調は変わらないことから、中小企業の業績に大きな変化はないが、個人消費やインバウンドは行楽シーズンに当たり、レジャー関連の消費が増える。
		食料品製造業（経営者）	・更なる物価高が確実視されるなか、生活者の収入は上がるタイミングではないため、消費低迷は続く予想である。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	・猛暑がまだ続く。暑さにも慣れて稼働できるのではないかとみている。
		一般機械器具製造業（経営者）	・残念ながら、上向きの材料となるものが見当たらない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・中国向け製品に若干の増産情報はあっても、まだ分からない。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・今が最悪の状況であるため、これから取引先、競争相手等も幾らか回復してくる。
	その他製造業〔消防用品〕（営業担当）	・物価高の状況がまだ続いているため、変わらない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（営業担当）	・本来は季節が変わり、秋冬家電や衣類、インテリア商品などが動き出す予定だが、暑い日も続いており季節が後ろにずれる分、輸送計画もずれていきそうである。飲料等の輸送は好調だが、全体的に輸送コストが高くなっている。燃料価格高騰、ドライバー不足による協力車費などの費用が高く、利益は少なくなりそうである。
		金融業（営業担当）	・中小零細企業へのヒアリングにおいて、受注量、販売量等については今後2～3か月で大きな変化はないとの回答を得ている。
		社会保険労務士	・国会の勢力図が変わり補正予算などがどうなるのか分からないが、すぐに大きな変化はないとみている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・いつもは年末に向かい通常の1.5倍くらいの仕事量になっていくが、今年はそれが全くなく横ばいである。大変な状況になってしまっている。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・今のところ主要取引先に大きな動きはないものの先行きに不透明感はある。
		建設業（総務担当）	・全体的な仕事量がとにかく足りていない。先行きの業務確保に不安しかない。
	x		不動産業（管理担当）
雇用 関連  (北関東)		-	-
		-	-
		人材派遣会社（経営者）	・気温上昇の傾向も続き、野菜など値上がりする物も増えてくる。米については新米も出始め、需要は増えてくる。出費はある程度限られ、減らせるところは減らす傾向にある。良いところと悪いところのムラのある状況は変わらない。
		人材派遣会社（社員）	・当観光地の宿泊施設や観光客の入込は変わらず堅調で、多数のインバウンドが来ている。物産店の社長に聞いたところ、物販の売上也堅調に推移しているとのことである。当社の対応しているホテル関係の仕事についても、稼働率は順調に推移しており、多数のインバウンドやその他の客の入込がある。ただし、人手不足が非常に深刻である。
		人材派遣会社（社員）	・業績向上による増員理由での求人依頼は少なく、退職者の補充中心となっているため、変わらない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は前年同月比で、建設業については減少傾向、製造業は増加と減少を繰り返しており、医療、福祉は増加傾向で推移している。
		学校〔専門学校〕（副校長）	・異常気象や海外の不安要素の拡大などにより、各企業に聞いても、今後の景気の予測が難しい状況である。
		人材派遣会社（管理担当）	・派遣取引先の増産予定がないため、やや悪くなる。
	x	*	*

#### 4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (南関東)		衣料品専門店（経営者）	・問合せが増えているため、営業上を行っていることは間違っていない。
		商店街（代表者）	・暑過ぎる夏のリベンジ消費が起きる。特に、アクティブシニアを中心に秋口の動向が活発化しそうである。イベントの問合せやレスポンスが良いことからその兆候がうかがえる。ただし、気候変動の影響で、残暑がどこまで続くか読み切れないところがあり、不確実性がある（東京都）。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	・住宅省エネ補助金の申請が通ると工事に進めるため、無事に申請が通ることを願っている。今年は申請が多く、予算上限額に達するのが早いようなので、対応に追われている。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	・今月が悪いので、これ以上は悪くならない。秋口からは涼しくなってきた、耐久消費財の購入を控えていた客も買いに来るのではないかとみている（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	・気温が落ち着くことにより、やや良くなる。
		一般小売店〔文房具〕（経営者）	・カレンダーやダイアリーなどの年末商材や、比較的高額なギフト向け文具に動きが出てくる。また、秋の旅行シーズンを迎え、国内外を問わず遠方からの客の来店が増加し、客単価も上がってくる（東京都）。
		一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・9月に米国で利下げが実施されれば株価が上がるため、多少は売上が伸びると今から期待している。
		一般小売店〔生花〕（店員）	・今夏は本当に暑くて、花も駄目になってしまい、余り期待はしていなかったが、お盆にはやはりお墓参りに行く人が多かった。11月頃になれば幾らか涼しくなるため、期待を込めて、少しは良くなる（東京都）。
		百貨店（売場主任）	・これから新米販売、おせち、クリスマス関連等、多くのイベントがある。猛暑の影響もあり商材価格が上がる可能性もあるが、年末に向けて購買意欲が高まっていくことを期待している（東京都）。
		百貨店（広報担当）	・インバウンドの消費について、為替など外部要因の影響は下期にかけて大きくないとみている。また、海外客向けアプリなど関係性を深めるツールの効果も出てくると予想している。国内客向けは、大きな不安材料はなく、基本的には顧客との関係性は時間を経過するほど深くなり、当社からの施策提案の確度も上がってくると想定している（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・消費意欲は高まってきたが、食品の値上げや電気代の高騰などの影響で、消費が2極化していることを懸念している（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・免税売上の回復が期待できないなか、国内需要の中心である婦人ファッションと食料品に回復の予兆がみられており、期待を込めてやや良くなる（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・現状は、猛暑により、特に食料品を中心に百貨店ではなく近場のスーパーで済ませる傾向にあるが、秋以降は食料品を中心に全館の来店頻度も向上し、やや持ち直すともみている（東京都）。
		スーパー（経営者）	・若干ではあるものの、来客数が増えてきている（東京都）。
		コンビニ（従業員）	・10月には大きな祭りが控えており、その影響で来客数が伸びる可能性はある。また、夏季は気温が高過ぎて高齢者を始め外出を避ける人も多い。過ごしやすい秋の行楽シーズンには、身近なコンビニで食べ物を買って出掛ける機会もあると考えられるので、期待したい。
		家電量販店（店長）	・訪日旅行者数は今後も増加する予測のため、来客数の増加を見込んでいる（東京都）。
		乗用車販売店（経営者）	・新型車が発表され、新車の売上が増えてくる。
		乗用車販売店（経営者）	・決算などが多くなる時期も踏まえ、良くなると予想している（東京都）。
		乗用車販売店（営業担当）	・最近では経年劣化による買換えも増えてきている。
		高級レストラン（経理担当）	・婚礼宴会などの受注から施行までが長い事業では、3か月先の予約までキャパシティが一杯という状態にある。加えて暑さが和らぐことにより、レストランに足を運びやすくなる（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・今年は特に暑さが厳しかったため、8月の売上はかなり落ち込んでいる。涼しくなってくれば客も当然外に出てくるため、現状と比べると、2～3か月先の売上は伸びて良くなる。ケータリングの方も催事が多くなってくるため増えてくる。総じて現在よりも20%以上は売上が伸びる。
		一般レストラン（経営者）	・9月になり少し暑さが落ち着いてくれば、客も行動しやすくなる。9月は街のイベントもあるため、8月より人の動きが出る（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・涼しくなってくればまた客が戻ってくる（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（経営者）	・9月以降毛大型コンベンション施設でのイベント、ライブ等が順調に入ってきており、宿泊は8月と変わらず高稼働を維持するとみている。加えて、秋以降は、8月に落ち込んでいた宴会関係が戻ってくる見込みである。
		タクシー運転手	・まだ暑い日が続いているため、タクシーの利用は増えるともみている。夕方辺りから終電まで駅からの利用が多いのは、飲み屋に立ち寄りず自宅に直行しているからのようで、飲み屋からのオーダーが少ないのが少し気掛かりである。
		通信会社（経営者）	・客から前向きの姿勢がみられる（東京都）。
		通信会社（社員）	・CM、イベントの引き合いが継続して出てきており、広告への投資が増加しているものとみられる。今後もこの傾向が続くことを期待している（東京都）。
		通信会社（経営企画担当）	・10月の案件が少しずつ始まっており、このまま案件が増加することを期待している（東京都）。
		観光名所（職員）	・来客数が若干増加傾向になっている（東京都）。
		観光名所（職員）	・秋に向けて、世界陸上、デフリンピックと大きなスポーツイベントが控えており、誘客に期待している。また、10月の大阪・関西万博終了後、関東圏への客の流れがどう変わるのか、又は変わらないのか、注目したい（東京都）。
		ゴルフ場（経営者）	・猛暑がひどいため、暑さが落ち着けば客が戻ってくる。
		ゴルフ場（経営者）	・この暑さがいつまで続くかで変わってくるが、さすがに11月になれば多少涼しくなるので、来場者数の増加を見込めるものと期待している。
		その他レジャー施設 [ボウリング場]（営業担当）	・暑さも徐々に和らぎ、客層比率の高いシニア層の来場が増えてくる（東京都）。
		その他レジャー施設 [複合文化施設]（財務担当）	・米国との関税交渉の決着により、やや良くなる（東京都）。
		その他サービス[立体駐車場]（経営者）	・秋から空き地で借上げ方式のコインパーキングを始めるため、その分の賃料収入がある程度見込まれる。
		設計事務所（経営者）	・まだ具体的な打合せはしていないが、案件が動き始めている。
		住宅販売会社（経営者）	・都内ホテルの宿泊料金が上昇しつつあるため、ホテル業界は良くなる。一方、建設業は、建設費の高騰により我々中小企業はまだ厳しい環境のなかにあり、賃上げができない。中小企業への景気対策が必要である。
		住宅販売会社（従業員）	・富裕層向けの展示会において、富裕層の客と直接話した印象からの判断である。
		住宅販売会社（総務担当）	・減税施策は実現しないが、賃金もそれを上回る程度に少しずつ上昇している。
		商店街（代表者）	・物がどんどん値上がりし続けているにもかかわらず、所得はほとんど増えていない。給料が多少上がったという人もいるが、手取りは逆にややマイナスというのが現状である。この暑さの影響も大きく、何か物を買うとか見に行く意欲がかなり減退している。残暑も厳しいようだが、少しでも早く落ち着いてほしい。景気が少しでも良くなるように頑張っていきたい。
		一般小売店[印章]（経営者）	・まだ残暑が続く。当店は、アーケード街の店舗ではなく路面店のため、客を迎え入れられる環境ではなくなっていることは事実である。来客数が低迷しており、余り良い成果は望めない。
		一般小売店[米穀]（経営者）	・気温が下がらないと、やはり食事もしにくい。気温が下がってくれば食欲も湧いてくるため、気温次第で変わる（東京都）。
		一般小売店[文具]（販売企画担当）	・この先2～3か月の案件は、企業努力によってある程度取れている。また、各店舗でも、客に少しでも多く買ってもらえるような努力をしている。そうしたことでプラスになる反面、今後も各メーカーの値上げが著しいことを考えると、プラスマイナスゼロとなり、景気の変動は余りなく、現状が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	・最近では、年末や正月だから売れるということはない。贈答品として何とか使ってもらいたいが、他にもいろいろな商品があるため期待はできない。何とか現状を維持したい（東京都）。
		一般小売店〔書店〕（総務担当）	・大学や専門学校などの教育機関が主要顧客であるが、年度の途中では販売する学生数に極端な増減が発生しない（東京都）。
		百貨店（総務担当）	・物価上昇が続くなか、客の消費に対する意識が変化している。
		百貨店（総務担当）	・現在のような停滞が続く限り、身の回りの景気が劇的に良くなる見込みはない（東京都）。
		百貨店（総務担当）	・年度後半に向けて前年のインパウンドのインパクトが落ち着いてくるため、現状のままで推移する（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・物価高などにより先行きの不透明感が増しており、余り回復は期待できない（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・インパウンドが減少して1年経過するため、前年比では横ばいになってくる。良質な国内客の来店により、見た目は良くみえるものの、決して景気が良くなったわけではない（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・インパウンドは前年下半期より落ち着いており、下げ止まると予想するが、流動的であり楽観はしていない。また、国内客の消費は底堅く推移しているが、この先も多数の食料品の値上げが予定されていることを踏まえると、景気そのものは大きく改善する傾向にはない（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・秋以降、価格が上がる商材もあり、客の消費に対する感覚はシビアなままだと考える。9月以降も高温が続く状況では、アパレルの動きが良くなるとは考えられず、景気は変わらない。
		百貨店（販売促進担当）	・直近の傾向からみて、変わらない（東京都）。
		百貨店（財務担当）	・株高などが富裕層の消費にプラスとなる一方、米国の関税政策等の影響による物価高が中間層の消費にマイナスの影響を及ぼす（東京都）。
		百貨店（企画宣伝担当）	・今回のキャッシュレス決済キャンペーンのような行政を挙げた施策の効果ではなく、消費マインドそのものが上昇する要素はいまだに不透明である。
		百貨店（管理担当）	・米国との関税交渉などの問題は一段落したが、末端の消費者の意識が変わってくるまでは時間が掛かる（東京都）。
		スーパー（経営者）	・猛暑続きで作物がなかなか安定しない。単価も上がっているため、客も買い控えしている。給料はある程度増えているようだが、やはり物価上昇にはなかなか追い付かないため、今後も同じような状態が続く。
		スーパー（店長）	・各社共に単価に影響しないポイント施策を積極的に実施しているが、ディスカウントタイプのチェーン店が価格強化を打ち出しているなかで、各社の打ち出しもチラシ等による価格競争に少しずつ傾いている。価格を切り口にしたスーパーが話題になっている現状では、今後も価格による集客比率が多くなってくる。
		スーパー（店長）	・消費者には依然として節約志向が根付いており、買い控えをしている。同様の状態がまだしばらくは続く（東京都）。
		スーパー（総務担当）	・商材の値上げが止まらない。
		スーパー（営業担当）	・単価の上昇、来客数の減少傾向はまだ続くとみている。販売量の増減が今後の売上を左右する要因となる（東京都）。
		スーパー（食品担当）	・米の品薄も解消されつつあり、銘柄米から備蓄米まで豊富に扱う当社の優位性が薄れつつある（東京都）。
		スーパー（販売担当）	・まだ値上げが続くため、変わらない。
		コンビニ（経営者）	・これから9月、10月になると台風など悪天候が続くため、売上、来客数共に減る。
		コンビニ（経営者）	・客足が伸びることを期待したいが、良くなる要素は余りないため、変わらない（東京都）。
		コンビニ（エリア担当）	・値上げの影響が余りみられず、来客数の落ち込みがないことから、今までのトレンドが続く（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当）	・店舗周辺での大型イベントが控えているものの、久々の開催であるため、どの程度の集客となるかが読めない。その他の店舗も徐々に来客数が減少している傾向にある（東京都）。
		コンビニ（エリア担当）	・依然として値上げが続いているものの、来客数は横ばいである。2～3か月後も現状とほぼ変わらずに推移していくとみている。
		コンビニ（エリア担当）	・猛暑により来店動機となる飲料が伸びている。9月、10月も例年より暑くなる予報のため、前年比では好調に推移する見込みである。9月には食料品の更なる値上げがあるが、直近の値上げ後の動きを見ると、そこまで買い控えの影響はない。
		コンビニ（エリア担当）	・現在と比較して、突出して景気が上向くとは考えにくいだが、年末に向けて良くなる。
		コンビニ（商品開発担当）	・この先も高温が続く予報が出ているため、全体の消費向上は余り期待できない（東京都）。
		衣料品専門店（経営者）	・物価が高止まりしており、消費が上向くことは考えにくい。これから徐々に売上が伸びていく期待はあるが、どうなるかまだ予想がつかない。
		衣料品専門店（店長）	・物価上昇による一般消費者の買物志向が、生活防衛型にシフトしたままである。富裕層を軸とした展示会等は順調に推移しており、この流れはしばらく続く（東京都）。
		衣料品専門店（役員）	・食料品や光熱費等の値上がりで、家計に余裕がない。
		家電量販店（店長）	・物価上昇が収まらないと、現在の状況はまだ続く。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車の整備は順調に入っているが、販売が余り芳しくない。客の来場は結構あるものの、なかなか成約に結び付かない。
		乗用車販売店（販売担当）	・ウクライナは小麦の大生産地だが、ロシアによるウクライナ侵攻の影響で小麦や関連する食料品の価格が上がっている。また、イスラエルのガザ侵攻の影響で原油高になっている。輸入する物全て値上がりしている割に、賃金はそれほど上がっていないため、景気は悪いままで変わらない（東京都）。
		乗用車販売店（総務担当）	・米国の関税政策の影響等により先行きが不透明であり、厳しい状況が続く。
		乗用車販売店（渉外担当）	・販売環境に大きな変化はない。
		乗用車販売店（営業担当）	・金利、補助金の施策が打たれない限り、新車販売は良くはない（東京都）。
		住関連専門店（営業担当）	・国の住宅省エネ補助金事業、特に先進的窓ノベ補助金事業への消費者の認知が高まっており、引き合い、成約共に堅調である。補助金予算の消化までまだ余裕があるとみられるため、しばらくこの状況が続くものと考えている（東京都）。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・10月以降に最低賃金の引上げがある。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・どうも余り景気が良くないようで、先行き不安である。
		その他専門店〔貴金属〕（統括）	・訪日客と国内客の比率、販売数量の動向などは大きな変化がなく、販売単価が若干高い状態はしばらく続くと思われるため、先行きの景気もやや良い状態で変わらない（東京都）。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（団体役員）	・燃料油価格激変緩和事業から暫定税率廃止の流れになるものの、現在の原油価格、為替の影響がないと仮定すると、仕入価格に大きな変動はない。したがって、売価も安定するため、暫定税率廃止等への対応時の報道が不十分だと、客に誤解を与えかねないという不安もある（東京都）。
		その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	・猛暑の影響もあるのか、食事に対する消費者の意欲が落ちている。したがって、食材の売行きも悪い（東京都）。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・現在は好調ではあるものの、物価高の影響で伸びは限定的とみている。
		高級レストラン（営業担当）	・秋以降の法人関連の宴会受注状況はほぼ前年と同様に推移している（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者）	・物価が上がり過ぎている。今はまだ消費者に余力があるだろうが、徐々に苦しくなってくる。3か月後は今月と余り変わらない。
		一般レストラン（経営者）	・9月、10月もこの暑さが続くと、やはり外へ出て飲食しようという気がそう起こらなくなる。夜もコンビニで買って終わりになってしまい、店で飲んで帰る機会はなかなかないのではないかとみている。
		一般レストラン（経営者）	・当社の料飲部門は、不景気といわれる状況で売上が伸びることが往々にしてあるため、やや良くなると回答したいが、今後、米国の関税政策の影響や輸入食材の値上がりが進み、日本経済にダメージを与える要素が多く出てくるため、相殺した結果、現状と変わらない。
		その他飲食〔カフェ〕（経営者）	・新規出店の同業者は、短期間に来客数を伸ばしている。商店街のイメージが徐々に変わってきている（東京都）。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・9月以降も会社員の収入が増える見込みはないため、景気が良くなるとは考えにくい（東京都）。
		その他飲食〔カフェ〕（経営者）	・前月と同様だが、売上は伸びているものの、その他の経費が上がり、利益率が低下している。コーヒー豆の価格がかなり上がっているため、価格転嫁が課題となっている（東京都）。
		都市型ホテル（スタッフ）	・米国の状況や国内の政局によって、先行きはなかなか読めない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・引き続きインバウンドが顕著に伸び、単価、売上共に向上していく（東京都）。
		旅行代理店（経営者）	・物価がますます上昇しているなか、給料は全く上がらず、皆大変困惑している。
		旅行代理店（従業員）	・旅行費用のなかで特に貸切りバスと宿泊費が高騰している。先行きは見通せない。
		旅行代理店（営業担当）	・物価上昇が収まらないと、世の中にお金が回らない。
		タクシー運転手	・毎日猛暑が続き、野菜はもちろんのこと様々な物が値上がりしており、客からは物価高で生活が苦しいという声が聞かれ、タクシーを利用してくれる人が減っている。物価高対策が急務である。
		タクシー運転手	・あくまで気温が高いままという前提で、変わらないとみている。9月になると暑さが少し収まるため、その辺りがどうなるか分からない。米国の関税政策の影響がどのように出るかが心配である。ただし、現状の気温がまだ1か月続くとすると、客の動きはある（東京都）。
		通信会社（経営者）	・今のところ景気が良くなるような商談がない。案件の受注も増加傾向にはない。2～3か月先も景気は変わらない（東京都）。
		通信会社（社員）	・参議院選挙で主張された消費刺激策はいずれも実現の見通しが立たず、物価高も収まる気配がない。米価の値下がりも期待できず、景気改善の糸口が見つからない（東京都）。
		通信会社（局長）	・米国の関税政策の影響や物価高などが世間では問題視されているものの、当社への影響は余りない（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・良くなる材料がない。
		通信会社（営業担当）	・政府が何らかの手を打たないと、物価高に伴う、便乗値上げも含めた値上がりが止まらない（東京都）。
		通信会社（管理担当）	・インフラ更新を行った新規営業エリアにおいても成約数が計画に達していない（東京都）。
		通信会社（管理担当）	・物価上昇による個人消費の冷え込みが続く見込みのため、B to Bのプラス分が相殺され、結果として変わらない（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・イベント的にもやや踊り場ではないかと考える。国会の動きによっては変化がみられるかもしれない（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・外的環境よりも内的要因が大きい（東京都）。
		通信会社（経営企画担当）	・映像視聴及び通信需要は短期的な経済状況に左右されない（東京都）。
		ゴルフ場（従業員）	・暑すぎるため、景気は変わらない。
		パチンコ店（経営者）	・国の景気対策が期待されるところだが、秋以降になるとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他レジャー施設 [ボウリング場] (従業員)	・最低賃金の上昇により、様子見となる(東京都)。
		その他レジャー施設 [映画] (営業担当)	・物価上昇に見合う大幅な賃金上昇がなければ、景気が良くなるとは考えられない(東京都)。
		その他レジャー施設 [総合] (経営企画担当)	・気候の良いシーズンに向けて、インバウンドの個人客を中心に予測は回復傾向にある(東京都)。
		その他サービス[学習塾] (経営者)	・良くも悪くも変化がみられない。
		その他サービス [フィットネスクラブ] (エリア統括)	・米を始めとする食料品の物価高により、買い控えが継続している(東京都)。
		設計事務所(経営者)	・為替の関係で、自分たちがどう動けばよいか判断しかねている人が多い。
		設計事務所(職員)	・様々な社会的背景が改善する期待は持てないものの、より悪化することもない(東京都)。
		住宅販売会社(従業員)	・住宅相談窓口からの紹介が非常に増えている。販売量は変わらずに推移するとみている。今後は中小ハウスメーカーの倒産が更に増えることが予想されるため、倒産の心配のない大手系列の当社は迷っている客の受皿になれる。閣議決定により来年度の補助金が決まれば、様子見の客の動きも出てくる。
		住宅販売会社(従業員)	・情報数は変わらない。
		一般小売店[家電] (経理担当)	・毎年、6月から8月のエアコンの売行きで年間の販売額が決まってしまう。9月以降は売上が見込めず、減少する。売れる商材が見当たらない。
		一般小売店[祭用品] (経営者)	・秋は、夏に比べて行事が一段落し、消費も減る。
		一般小売店[酒類] (経営者)	・生活に関わる物価の上昇が収まらず、し好品を扱う店などは厳しい状況が続く。
		一般小売店[乳業] (経営者)	・ほぼ全ての物価が上昇しているなかで、選ばれる商材、サービスの淘汰が予想される(東京都)。
		一般小売店[傘](店長)	・日傘のシーズンが終わるため、やや悪くなる。
		百貨店(総務担当)	・物価高が続く一方で、最低賃金の引上げなど賃金増加によってある程度の売上は維持できるが、人件費上昇分を吸収し切れない中小企業の経営悪化、倒産は増加傾向にある。所得格差による消費の減退を注視していきたい。この暑さによる農作物等の不作により、更に物価が上がることも予想されるため、購買点数の減少が全体の売上に影響を及ぼす懸念がある(東京都)。
		百貨店(店長)	・米国経済の先行きが見えず、中国不動産もマイナスで、インバウンド縮小の歯止めとなる施策は不明確である。国内でも、最低賃金の引上げにより経営が立ち行かなくなる企業が増加する。
		スーパー(経営者)	・商品単価の上昇が止まらず、来客数、買上点数共に微減である。最低賃金の引上げにより経営は厳しくなっていき、やや悪くなる傾向が続く。
		スーパー(仕入担当)	・最低賃金が更に引き上げられることで、中小企業は人件費が増加し、利益が圧迫されていく。
		スーパー(ネット宅配担当)	・野菜の価格上昇はしばらく続くとみられる。また、米国の関税政策の影響や最低賃金の引上げなどを含めると、数字的には厳しくなることが予想される。
		コンビニ(経営者)	・人手不足を解決するために時給を更に上げざるを得ず、明るい兆しが全くみえない状況が続く。
		コンビニ(経営者)	・何らかの物価対策を打ち出してほしい。
		コンビニ(経営者)	・食品の消費期限不適切表示問題が世間を騒がせていることから、風評被害等もあり、来客数が8%程度減少している。これが少しずつなくなっていけばよいが、まだ出口がみえない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・株価が上昇しており、世間的には景気が良くなる予想もあるものの、当店周辺にそのような恩恵を受けている家庭は少ない。10月から最低賃金が引上げられ、当店の経営も悪化する予想である。
		コンビニ（従業員）	・夏の市民プール解放期間は客足が伸びるが、終わると客足も少し落ち着く。これに関しては景気の良さとしてはないため、景況は特別悪くない。当店のプライベートブランド商材は客観的にみても他のコンビニよりおいしい商材が多い印象で、そのような声もよく聞かれる。大事なのは、客足が伸びる時期にどれだけニーズをしっかりとつかめるかである。
		衣料品専門店（統括）	・気温によって客の来店、売上が左右される業界のため、これからの気候の変化がないと、来客数には期待できない。
		家電量販店（店長）	・インフレ傾向は変わらず、給与所得が物価上昇に追いついていないのが現状で、良くなる未来は想定できない。
		乗用車販売店（営業）	・今後は新車種が増える予定も少ないため、車の販売はなかなか厳しい。家庭の使える金額が減ると更に厳しくなるのではないかと予想している。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・所得の増加に比例して税金も上がり、物価高も重なって悪化の一途をたどっている（東京都）。
		高級レストラン（仕入担当）	・良くなる見通しが乏しい。商品価格の高騰は依然として続いており、消費行動がどこかで息切れするのではないかと懸念している（東京都）。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（役員）	・下期に最低賃金の引上げが予定されていることから、利益の伸びが抑制されると予想している（東京都）。
		都市型ホテル（スタッフ）	・10～11月は団体需要もあり、予約段階で高稼働となっているが、今月ほどではないため、やや下降を見込んでいる。
		旅行代理店（従業員）	・夏休みが終わり、人流が落ち着く予想である（東京都）。
		旅行代理店（営業担当）	・小売を含めて9月以降も値上げが続くため、金額に対する感覚が厳しくなり、景気は悪くなっていく（東京都）。
		タクシー運転手	・今年も猛暑の影響でタクシー利用客が増えているが、2～3か月後には落ち着いている（東京都）。
		タクシー（団体役員）	・気温が落ち着いてきたら乗客が減ってしまうのではないかと危惧している。
		通信会社（営業担当）	・先行きへの不透明感があるため、消費者の節約志向は継続する。
		通信会社（経理担当）	・食品の毎月の値上げが止まらず、賃金上昇分を超えているためである。
		ゴルフ場（経営者）	・残暑が厳しい予想のため、来客数の減少が見込まれる。また、猛暑やインフレの影響もあり個人消費自体が縮小すると見込んでいる。
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・物価が上昇しているため、通塾を週2日から週1日に減らす生徒が出ている。景気は今後も悪くなる。
		その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	・今までと異なる新しい物を購買するようにならない。
		設計事務所（経営者）	・現状があまりにも悪すぎる。米を始め諸物価が上がり、政権も不安定で、先が見えない。物価高が影響しているのか現場も動いていない。新しい仕事のための営業も大変難しい。こうしたときこそ先を見据えて考えなければいけない。
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・建築資材の荷動きに期待感が薄く、先々の注文が目減りしている（東京都）。
	×	一般小売店〔家電〕（経営者）	・いろいろな補助金等が出ているが、当店のような末端には客からそういう話も来ないし、こちらからアプローチを掛けても量販店にいつてしまうことが多い。そうした意味で悪くなる（東京都）。
	×	衣料品専門店（店長）	・物流経費及び人件費高騰の状況下で、利益が減少している。
	×	衣料品専門店（従業員）	・まだ暑さが続く見込みであり、景気回復の兆しも見えない。
	×	通信会社（管理担当）	・物価上昇により販売量は横ばいである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	ゴルフ場（経理担当）	・素材及びエネルギー価格の高止まりによる固定費負担の深刻化は依然として解消の兆しをみせず、収益性を確保し得る経営環境には程遠い。11月以降は酷暑の収束に伴う稼働率の漸進的改善も全くの期待薄とはいえないものの、季節変動による一時的要因の域を出ない。
	x	競輪場（職員）	・一時的な事業縮小を検討している。
企業 動向 関連  (南関東)		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・当社特有の繁忙期に入るため、受注量が増える見込みである（東京都）。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（従業員）	・受注量が増え、仕事を断らなければならないことも出てきている。同時に、人員確保のため求人を出している。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・印鑑は大きく分けて個人用と法人用があるが、個人用は必要に応じて出るだけで、さほど変わらない。法人用は会社設立が絡んでくるが、現状からみて会社の設立が徐々に増えている。二重丸の登録印ではなく、角印も作りたいという客が出てきているため、法人需要が少し見込める（東京都）。
		化学工業（総務担当）	・1～2か月先までの受注は順調に入っている。
		一般機械器具製造業（経営者）	・各取引先からの内示を総合すると、やや良くなる予測である。
		精密機械器具製造業（経営者）	・半導体関係受注は取引先によってばらつきが大きい、全体の受注量は伸びている。
		その他非製造業〔商社〕（従業員）	・受注の見込みがあるため、やや良くなる（東京都）。
		食料品製造業（経営者）	・残暑が続くようであれば、期待はできない。秋に期待している。
		化学工業（従業員）	・原材料価格が高止まりしており、これから先の受注量も大きな影響はなく、現状維持が続く。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・米国との関税交渉の決着がまだ付いていない。これからいっような形で決着するのかによって、景気はかなり変わってくる。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・現在抱えている新規案件が立ち上がらない限り、業績アップは見込めない。
		金属製品製造業（経営者）	・案件自体は出てきているものの、低価格及び少量のため、全体的には変わらない。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・AI関連事業の業績が景気を大きく左右するが、米国のAI業界のリーディングカンパニーが半導体キーデバイスを自社開発する可能性があるとの噂があり、それによって今後多大な影響を受ける。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・自動車メーカーにおいて、米国での増産や国内の減産方針が定まっておらず、現時点では影響が不透明である。
		建設業（経営者）	・物価が高止まりしているなか、給料が上がらないため、景気は停滞気味である。
		建設業（従業員）	・受注があっても、物価上昇がこのまま続くようであれば、今までと変わらない。
		輸送業（経営者）	・戦争、紛争の継続、物価高、不安定な政治など様々な要因でプラスマイナスゼロである（東京都）。
		輸送業（総務担当）	・閑散期のため、荷主の国内出荷量が少なくなる。輸出量は現在もない。
		通信業（広報担当）	・更なる悪化は想定していないが、当面は現状が続く見込みである（東京都）。
		金融業（従業員）	・建設業では、官民間問わず発注量が増えており、中小企業の受注が安定してきたという声を聞く。一方、人手不足は解消しておらず、頭を悩ませる経営者も増えている。新規受注を獲得したいが職人を確保できずに断念せざるを得ないとの声も聞かれる（東京都）。
	金融業（総務担当）	・燃料や資材高騰、食品の値上げが続いており、先行きの景気は不透明である。省エネ家電買換え施策が始まるため、家電販売業では売上が期待できる（東京都）。	
	金融業（営業担当）	・先の受注見込みからも大きく好転する材料は見当たらず、年末にかけても現状程度の業績推移が見込まれている。	
	不動産業（経営者）	・インターネットで多くの反響はあるが、当社からメールを送っても返答はなく、電話を掛けても不通だったりする。どうしたら客を呼べるか、そればかり考えている（東京都）。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		不動産業（経営者）	・賃貸物件の入居率に変化はないとみているが、一部のテナントが人手不足によりしばしば休業しており、心配している。
		不動産業（総務担当）	・米国の関税政策を含め先行きに不透明さはあるものの、特に、客の気になる動きもなく、今後2～3か月は変わらない（東京都）。
		税理士	・大企業は米国の関税政策の影響もありつつ円安でもうかっているが、中小企業は変わらない。円安による原材料高や、人件費の上昇はあるが、中小企業の多くは払えないため、景気は良くない。それに伴い飲食店なども良くない状態である（東京都）。
		社会保険労務士	・良くなる要因が見当たらない（東京都）。
		経営コンサルタント	・年末に向けて人が動く時期に向かうが、特に良くなる要因がない。
		税理士	・米国の関税政策の影響がどう出るのが不透明ではあるものの、円安の状況は変わらず、輸出産業の景気は順調と予測している。ただし、それほどの伸びは予想しにくく、現状のままである。
		食料品製造業（経営者）	・お金を使う単位が少し小さくなってきている（東京都）。
		食料品製造業（経営者）	・サービス業全体のトレンドとして、値上げによって確保した売上を上回る原価高騰や、採用コストも含めた人件費負担の増大など、経費の増加による利益の減少が今後も続く（東京都）。
		金属製品製造業（経営者）	・米国の相互関税が15%になった影響がこれから本格的に出てくる。
		その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・今夏の酷暑の影響で、やや悪くなる（東京都）。
		建設業（営業担当）	・民間の新築工事の物件数が減少しており、今後も工事価格の高騰が続くため、現状維持から更に下降傾向とみられる。
		輸送業（経営者）	・年内に配送ルートの再編成が行われ、それに伴い配車車両が削減されるため、収入の減少度合いが懸念される（東京都）。
		金融業（支店長）	・建築基準法の改正により建築許可が下りるまでに2～3か月の遅れが常態化している。その影響で、建設業やそれに関連する製造業の業績悪化が限界に達している。
		不動産業（従業員）	・販売価格、賃料は高値で取引されており、利益は維持しているものの、郊外エリアの取引額が頭打ちになると予想している（東京都）。
		広告代理店（経営者）	・物価高の影響により、消費者の買い控えや企業側の経費削減が続いており、全体的に先行きへの不安感が強まっている。当社のようなデザイン業でも受注量はやや減少傾向にあり、特に、小規模案件の見送りや先延ばしが増えている。加えてA Iツールの普及により簡易なデザインを内製化する動きも加速しており、短期的には景気の回復は見込みにくい（東京都）。
		広告代理店（従業員）	・当社の予算事情もあり、半期末の9月、下期期初の10月の予算は高め設定となっているため、現状の見込みからは厳しい結果と判断せざるを得ない（東京都）。
		広告代理店（営業担当）	・世の中の物価上昇に比べ、クライアントの宣伝費などの施策に使われる予算が余り上がってない。結果として我々のような業種にとっては売上や利益率が上がらず、苦しい（東京都）。
		経営コンサルタント	・輸出が大きく減少することが見込まれる。国は、農産物の会社方式への認可や農業法人化を大車輪で進め、高度成長期に行われた橋や下水道の補修などの大型公共投資に力を入れることで、内需を拡大するのがよい（東京都）。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・資材等の値上げ実施のほか、取引先等の倒産や廃業もあり、当社を取り巻く環境は変わらず厳しい。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	・単価が上がらないまま経費が上がり、経営的に厳しい状態が続いている。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	・最低賃金の引上げに伴い、人件費が高騰する（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・ 今後は農作物の不作と輸入食料品の価格高騰が見込まれ、生活費の高止まりが考えられる。賃上げがどこまで広がるかが課題である（東京都）。
	×	出版・印刷・同関連産業（所長）	・ 印刷を取り巻く環境が非常に悪化しており、資材値上げの動きも加わり更に悪化する。
	×	建設業（経営者）	・ 政府の景気対策の効果が出ていない。
雇用 関連 (南関東)		-	-
		人材派遣会社（営業担当）	・ 例年、秋以降は人材流動化が活発になる。人材派遣、人材紹介共に求人数及び求職者数が増加する傾向のため、3か月後は繁忙になる。特に、現時点で法改正などを含めた外的要因も想定されていない。ただし、市場は飽和状態のため、他社とのシェアの奪い合いとなる（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	・ 直近でみえている派遣引き合いだけで判断すると、下期に向けた案件があるため、上向きにみえる（東京都）。
		求人情報誌製作会社（営業）	・ 年末に向けての需要が増えてくる時期である。
		人材派遣会社（支店長）	・ 物価高を背景に派遣料金の値上げについては理解してくれる企業が増えてきている一方、各社人材争奪が激しいところもあり、自社の景況感としては現状維持の見通しである（東京都）。
		人材派遣会社（支店長）	・ 求人、求職共に同じような動きが続いている。
		人材派遣会社（社員）	・ 今後も米国の関税政策の影響で採用を控える動きが続きそうである。
		人材派遣会社（社員）	・ 求人及び求職者の依頼状況が大きく変わる要因は見当たらない（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・ 専門性のある人材の確保が困難になっている（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・ 求人数に大きな変化はみられず、変動の見込みもない。
		人材派遣会社（社員）	・ 大きな変化の兆候はみられず、判断としては横ばいである（東京都）。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・ 異常気象による作物の不作、円安による資材高騰、人件費増加による人手不足の影響など、上向き材料はない（東京都）。
		求人情報誌製作会社（所長）	・ 求人数、応募数、採用数のバランスを見て、良くなる兆しがない。
		職業安定所（職員）	・ 有効求人数について、4月以降、3か月連続で前年同月を上回るなど回復の兆しはあるものの、動きは弱く、先行き不透明である。
		職業安定所（職員）	・ 人手不足ではあるが、物価上昇分以上に賃金は上昇していない。最低賃金引上げにより上昇する見込みはあるものの、賃上げできない事業所は雇用者数を減らす検討をしているようで、全体的にみて賃金上昇の効果が相殺される可能性がある。
		職業安定所（職員）	・ 求人数は微減傾向ではあるものの、業種によりばらつきがあり、全体としては大きな変化はみられない。
		職業安定所（職員）	・ 求人は引き続き多くあり、事業所に確認をしても人手不足が続いている（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・ 物価の上昇が止まらないが、給与水準は変わらないため、やや悪くなる（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・ 10～11月は9月末の契約更新に伴う派遣スタッフの入替え、増員の依頼も落ち着く。また、12月に入ると年末年始を控えて例年依頼が落ち込む傾向にあることから、8月よりは落ち込む（東京都）。
		求人情報誌製作会社（広報担当）	・ 思うようには業績を上げられず、人員を増やせない状況は、周辺企業でも同様との話を耳にする。景気が良くなる見込みは余りない（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	-	-

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (甲信越)		タクシー（経営者）	・秋の観光シーズンに向けての予約状況は好調である。
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・永代供養墓の依頼も増え、順調である。葬儀への依頼や相談も増えている。墓や葬儀への考え方や意識が変わってきている。
		乗用車販売店（経営者）	・久しぶりの新型イベントにより販売増加が見込まれる。
		自動車備品販売店（従業員）	・冬物商戦が本番を迎えるため、来客数、客単価共に増えるとみている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・先の予約状況は堅調に進捗している。加えて物価高や値上げ等に慣れてきたのか、以前よりも消費力が高い感じにあり、期待が持てる。現在の人の流れや雰囲気が続いた状態で、秋の行楽シーズンから年末へと向かえば、業績が非常に伸長することが予測できる。
		遊園地（職員）	・新エリアのオープンを新たなパブリシティ獲得の好機と捉え、引き続き積極的な情報発信を行い、より多くの客の来園促進を図るため、やや良くなる。
		百貨店（経理担当）	・不安定な世界情勢、燃料、食料品の物価高は依然消費マインドに水を差している。猛暑に関連する食品、衣料品は堅調に推移しても、他の商品がなかなか売れない状況は変わらない。
		百貨店（営業担当）	・相変わらずいろいろな物が値上げされ、物価高の傾向はまだ継続するため、心理的に消費がどうなるのかによるが、余り変わらないとみている。
		百貨店（店長）	・前月と同様、残暑の影響で秋物の動きが懸念される。近年、この時期はそういった状況が続いており、大きなマイナス要因ではないとの判断である。
		スーパー（経営者）	・物価上昇にどこまで消費者が耐えられるか次第である。
		スーパー（経営者）	・売上は前年を上回ってはいるものの、食料品の値上がりにより原価も上がっている。工夫をして乗り切っていきたい。
		コンビニ（経営者）	・夏休み、観光シーズンも終わり、アイドリング期間に入る。
		コンビニ（店長）	・前月、前々月はキャンペーンがいろいろあり、何とかそれで持ち直したという状況であった。今後も基本的には買う頻度は変わらないが、単価が上がった分、購入点数は減少する状況のため、売上自体はほぼ横ばいで推移するとみている。なかなか現状が変わっていくということはない。
		衣料品専門店（経営者）	・今年は大変暑いため、商店街に人通りが全くみられない。
		家電量販店（店長）	・単価でカバーできている状況は変わらない。
		一般レストラン（経営者）	・天候の影響を少なからず受けている。状況によって変動するかもしれないが、このままの状態が続くとみている。
		スナック（経営者）	・少し前はいろいろな物が値上げになって、消費控えのような動きもあったが、落ち着いてきた様子である。良くなる雰囲気ではないものの、価格が上がった分は転嫁できているため、割合楽である。
		スナック（経営者）	・お盆休み明けから急激に来客数が減ってしまい、現在も続いているため、厳しい。少し涼しくなればまた動きもあるかと考えてはいるが、厳しい状況は続く。
	都市型ホテル（スタッフ）	・来客数の動きからの判断である。特に、来月は例年と比べ既に80%以上の売上が確定している。	
	通信会社（社員）	・人員の減少が解消されるまで時間が掛かりそうのため、現時点では大きな売上増加は見込めない。	
	通信会社（社員）	・現状では上昇する気配がない。	
	観光名所（職員）	・過去と比較すると来客数は徐々に増えているが、物価上昇等による支出増加が影響し、全体的には好況に転じるとは考えられない。また、宿泊価格の高騰により、連泊を避けているようである。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		ゴルフ場（副支配人）	・物価の上昇が続いているため、余暇に回すお金が削られる状況は変わらない。	
		その他レジャー施設 〔ボウリング場〕（経営者）	・夏休みも終わり年末までは閑散期にはなるが、団体予約が入り始めている。	
		商店街（代表者）	・大型食品スーパーが撤退して2年程度が経過した。やはり商店街には客が集まる店がないと厳しく、個々の小さい店が集まってもどうにもならないと、このところしみじみと実感している。	
		商店街（代表者）	・今年になって隣接する同業他社が売場面積を2.5倍に拡大した影響が徐々に出てきている。取扱品目を再検討して対処したい。	
		スーパー（企画担当）	・物価高騰の影響は小売各商品の単価に顕著に表れてきており、実際に1人当たりの買上点数の減少は継続している。店頭での肌感覚としても、低単価商材に需要が集まってきているため、先行きはやや悪くなる。	
		コンビニ（経営者）	・寒くなる時期はどうしても客数的にやや厳しくなる。やはり暖かい時期の売上の方が好調である。	
		コンビニ（経営者）	・夏休みは来客数、単価共に上昇したが、今後は暑さも和らぎ、連休などにイベントが予定されていても天候悪化などがあれば、売上は減少する。	
		その他専門店〔酒〕 （店長）	・国外も国内も不確定要素が非常に多い。様々な物が値上げされた上、新米も非常に高くなる予想である。商売に影響のある酒米については、そのような背景から発生した転作の影響がまだ不確定な面が多々あり、減産する可能性もあれば、とんでもない値段になって販売される可能性もある。その点を踏まえると、まだ安心できない。	
		高級レストラン（経営者）	・例年9月は7～8月の反動で直近2か月より売上は落ち気味になる。	
		一般レストラン（経営者）	・米を始めとする農作物の出来具合と価格が、飲食業の経営の良否を決めるとみている。	
		その他飲食〔カフェ〕 （経営者）	・物価高、人件費増加で中小企業は苦しくなる一方である。	
		観光型旅館（経営者）	・近年続いている猛暑などにより、暑い期間は涼しい信州へ避暑をかねて旅行する人が多く、現在は客が多い。しかし、涼しくなるとそのような需要は減ってくる。また、以前は秋の行楽シーズンに観光バスなどで旅行する人も多くいたが、最近では減っているため、夏と比べると秋は客が減少すると予想している。	
		旅行代理店（副支店長）	・猛暑による農産物の収穫の見通しが立たず、秋の旅行の動きは鈍く、受注が減少してきている。	
		×	スーパー（店長）	・米の売価が高止まりしている。備蓄米効果も限定的であり、秋の値上げもあるため、悪くなる。
		×	スーパー（副店長）	・お盆商戦、また、8月を通しての来客数減少と9月からの値上げ、競合店オープンと、当店にとってはマイナス要因が多い。
	×	コンビニ（経営者）	・経費が高騰しており、良くなる要素がない。	
	×	コンビニ（経営者）	・何の対策もなく人件費だけが上がる見込みであるため、経費は膨らむ。値上げも止まる見込みがなく、経営側としては不安しかない。	
	×	コンビニ（エリア担当）	・最低賃金の大幅な改定が発生することに加え、賃金の上昇がまだ消費に回っていないため、悪くなる。	
企業 動向 関連  (甲信越)		金属製品製造業（総務担当）	・半導体回復により、良くなる。	
		-	-	
		食料品製造業（営業統括）	・ワインのような嗜好品は、諸物価が上がっている環境では需要が減退する。	
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・海外バイヤーとの商談があり、期待感がある。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・生活必需品の値上げが続く。耐久消費財については、生活防衛の意識からエアコンなどの酷暑対策品は好調だが、その他の家電は価格競争により厳しい状況が継続する。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業（従業員）	・受注量は年末まで変わらないとみている。ただし、メーカーによっては品物が余っているところもあるようである。幸いにして当社受注は変化がなく推移している。
		建設業（経営者）	・工事量、単価共に良くなっている。
		金融業（経営企画担当）	・観光面では、受入れ態勢が整っていない部分もある。
		食料品製造業（総務担当）	・更なる原材料価格の上昇が予想されるため、やや悪くなる。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・暑さが去れば多少ジュエリーへの関心も戻ってくるとみている。ただし、地金高騰で製造、卸の会社が新商品を余り作れていないこと、買やすい価格帯での商品提案が難しいことを考えると、大きく市況が回復する見込みはない。
		金融業（調査担当）	・非製造業は観光関連を中心に需要は底堅いが物価の高止まりや人手不足に伴うコスト増加、消費者の支出抑制が懸念される。製造業は米国の関税引上げの影響が徐々に広がることが予想され、マインドの低下が懸念される。
	x	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎月の資金繰りが大変である。
	x	電気機械器具製造業（経営者）	・先行きが良いという話をほとんど聞かない。仕事量の確保ができないものの、従業員の給料は上げざるを得ない。光熱費や燃料費、資材費も上がっており、採算が取れそうにない。
雇用 関連		-	-
(甲信越)		-	-
		人材派遣会社（営業担当）	・一段と貧富の格差が開くとみている。
		職業安定所（職員）	・今後も原材料価格の高騰などは続くが、今のところそれらを理由とした求人数の減少などは見込めないため、変わらない。
		職業安定所（職員）	・天候不順などによる米や農産物、様々な食料品価格は引き続き高止まりが予想され、景況感が好転する要素は確認できない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数の前年同月比は、13か月連続で減少している。
		職業安定所（職員）	・中国の景気が低迷していることに加え、米国の相互関税政策が今後の日本経済にどの程度影響を及ぼすか不透明であり、日本企業の収益悪化が懸念される。
	x	-	-

## 6. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (東海)		一般小売店〔土産〕（経営者）	・雨が降らない日が続く河川が干上がっている。一雨降れば、少々上向きになると期待する。
		旅行代理店（営業担当）	・観光目的の団体旅行は9月中旬から増えてくる傾向があり、7～8月は一旦落ち着く時期だが、今年は猛暑で特に避けられている傾向があった。
		美容室（経営者）	・10～11月頃には涼しくなり、年末を迎える前に髪を整えたいと考える客が増える。
		一般小売店〔結納品〕（経営者）	・秋になれば商店街に人が戻ってくる。
		一般小売店〔和菓子〕（企画担当）	・国内は政治の不安定さによる経済への影響、海外も特に米国の政策による経済への影響がどのように出るか読めない。
		百貨店（企画担当）	・これまで高額品や食料品は好調な一方で中間層向けの衣料雑貨の動きが鈍かった。今月になって、男性用、女性用共に衣料品の売上が伸びている。あらゆる商品の値上げが続いたため、生活防衛に対する反動の消費が出ている様子である。
		スーパー（経営者）	・猛暑が終わり少し涼しくなれば、来客数が増える。
		コンビニ（本部管理担当）	・厳しい残暑は、小売業の売上に良い影響を与える。気温が高いと、客が涼しさを求めて来店するため入店率が上がる。今年は残暑が続くと予想しており、その分小売業界の景気を押し上げる可能性がある。さらに、株価が4万円を超えるなど景気の安定も期待できる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店(店長)	・残暑により秋冬商材の売行きはやや遅くなるが、今後は消費者が暖冬に順応し、売れる種類は変わるが堅調に販売できると考える。
		衣料品専門店(売場担当)	・暑い時期はスーツを着ない人がほとんどで、半袖や七分袖のワイシャツ、中でもノーアイロンシャツがよく売れている。自宅で洗濯ができるソフトスーツなど単価が安くカジュアルに着られるものはこの夏も売れた。ただし、今後はきちんとしたスーツが欲しいという客も徐々に増えており、寒くなるとそういう需要が高まる。また、就職活動や成人式、卒業式に向けたスーツが動くようになるため忙しくなる見込みである。
		家電量販店(店員)	・超省エネ型のアコンの人気の高い。
		家電量販店(フランチャイズ経営者)	・今年10月でパソコンの現行OSはサポートが切れるため、パソコンの購入が増えている。
		乗用車販売店(経営者)	・今後は気候も落ち着くため、客の動きが活発になることを期待したい。
		乗用車販売店(経営者)	・インフレ傾向のなかで車の値段も上がりつつあり、早めの買換えを促進している。金利の先高感もあり、販売には大きな伸びはないが、落ち込みもみられない。
		乗用車販売店(従業員)	・夏の猛暑が落ち着くことと、単価が安くてアクセス数が多い状況はこれから売れ出す傾向であるため、期待したい。
		乗用車販売店(従業員)	・これから秋に向かって景気対策が行われる期待がある。1つ歯車が回り、客の気持ちも前向きに変わっていけば、余裕が生まれ消費に前向きとなってくれれば期待したい。しかし、生活防衛に明け暮れた状態が続くならば、本当に必要となる切羽詰まった状況になるまで購買意欲は現れないのではと危惧している。
		その他専門店[雑貨](店長)	・もう少し気温が落ち着けば、店舗への集客が上がってくる。
		その他専門店[書籍](社員)	・秋以降は新学期向けの販売量で増加が見込まれる。
		その他飲食[仕出し](経営者)	・状態が落ち着けば良くなっていく。
		観光型ホテル(経営者)	・2~3か月先は秋の旅行シーズンを迎えるため、かなり以前から大口団体客の予約が入っており、やや良くなる。あくまで予約数から判断する予想で、秋口に実際の景気が良くなるとは限らないが、現時点では期待している。
		都市型ホテル(従業員)	・予約数から判断した。
		都市型ホテル(総支配人)	・宿泊予約が比較的好調である。
		旅行代理店(経営者)	・新型コロナウイルス感染症の影響からようやく抜け出した印象を受ける。ただし、海外旅行は地元空港の発着便は本数が少ないため、まだ期待ができない。
		旅行代理店(経営者)	・特に悪い材料が見当たらず、社会情勢も少し落ち着いているためやや良くなる。
		タクシー運転手	・今後は初秋から年末にかけていろいろなイベントや忘年会等での人出が必然的に多くなるため、現在よりも良くなる。
		テーマパーク(職員)	・秋になって涼しくなり、紅葉の時期に期待したい。
		その他住宅[不動産賃貸及び売買](営業)	・年間で第2の繁忙期になるため、期待したい。
		商店街(代表者)	・変化する要因がない。歩きながら食べる商品は、単価を上げると2人で1品の購買になる。
		商店街(代表者)	・物価上昇が一概に悪いことではないと思うが、客の可処分所得の増加が追い付いていない印象を受ける。特に年金生活者を顧客に多く抱える地域電気店としては、販売に苦勞する。
		一般小売店[生花](経営者)	・しばらくは厳しい残暑が続く見込みで、物価の上昇も続いている限り余り期待はできない。
		一般小売店[果物](店員)	・3か月ほどでは変わらない。
		一般小売店[生活用品](販売担当)	・残暑が続く見込みで、相変わらず人出の鈍さが予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（総務担当）	・当地域は製造業に従事する客が多く、米国関税の影響が業績予想などにも現れているため、今後の消費にどう影響するかははっきりとは分からない。暑さも続く見込みで秋物衣料は苦戦が想定され、物価高に伴う価格改定が食品の購買にも更に影響を与え、少しずつ消費を減らす動きも想定される。
		百貨店（経理担当）	・株高に伴う富裕層の消費の盛り上がりや最低賃金の引上げ効果などの好材料と、物価高の継続や米国関税政策に伴う企業業績の悪化などの悪材料が入り混じり、景気は一進一退の状況が続く。
		百貨店（営業担当）	・一般客に買上意欲の低下がみられ心配な面もあるが、富裕層の底堅い消費の動きは変わらない見込みであり、それほど変化なく現状が続いていく。
		百貨店（販売担当）	・物価高が続く限り大きな好転は見込めず現状維持である。インバウンドは単価の下落が懸念される。
		スーパー（店員）	・来客数も落ち着いてきており、冬の商戦を前に大きく変わることはない。
		スーパー（店員）	・暑さで野菜の価格が高騰し、卵の供給も増えないが、新米の販売開始に伴い現状を維持できる見込みである。
		スーパー（販売担当）	・年末に向けて、今の良い状態が続く。
		スーパー（販売担当）	・価格上昇が止まらないのは決定的で、節約志向が弱まることはない見込みである。高温傾向が続く予報のため、秋冬商材の動きに不安が残り、消費の突破口になりそうな新しい傾向の商品にも期待を持ってない。
		コンビニ（企画担当）	・やや良い状況が継続しており、この傾向に変わる兆しがないため、しばらく状況は変わらない見込みである。
		コンビニ（店長）	・新米がスタートして、価格はかなり上がりそうだが、消費者も食品の値上げに慣れてきて価格には鈍感になりつつあるため、大した影響はないとみる。
		コンビニ（エリア担当）	・秋になっても前年よりも気温の高い日が続くそうで、来客数も変わらず今の好調ぶりが続く。
		コンビニ（店長）	・8月に子供や学生の夏休み、帰省などで出費がかさんだ反動により、9月から11月はやや落ち着いた消費行動になる。景気は上昇も下降もせず、大きな変化は起きない。
		コンビニ（店長）	・先行きははっきりと読めない。ここ数か月先が読めないと回答してきたが、結果的には比較的好調に推移し続けている。よほどのことがない限り、悪くはならないと予想する。
		衣料品専門店（売場担当）	・景気が良くなるような要因がない。
		家電量販店（営業担当）	・政治の動きをみていると、当分は良くならない。
		乗用車販売店（営業担当）	・物価高が続いているが、賃上げやボーナスアップで手取り額も増えているため、このまま現状のままである。
		乗用車販売店（経営者）	・特に変化はみられない。
		乗用車販売店（経営者）	・今の状況が大きく変化する要因がない。
		乗用車販売店（従業員）	・今後も販売停止の車種が多く、解消は見込めない。欲しい車を買えない、売れない状況が続くため、販売台数は多くは見込めない。
		乗用車販売店（従業員）	・急激に賃金は上がらないため、まずは米の価格を始め物価の動きが落ち着かない限り厳しい。物価が少し落ち着けば、年末に向けて景気が良くなることを期待したいが、現状のまま変わらない見込みである。
		乗用車販売店（営業担当）	・猛暑が続くなかわざわざ車を見に来る人が少ない。この先は増えてくる見込みだが、来店につながるような新しいトピックもなく、新車の販売が伸び悩み、しばらく現状が続くような気配である。
		住関連専門店（営業担当）	・企業の職場環境改善や新規需要に対応する業務改革のための中規模の改修工事が多くなっている。住宅需要においても、新築工事は減っているものの、マンションでのリノベーション工事が増えている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（経理担当）	・米国の関税政策や物価高騰の影響を見極める必要がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（経営企画）	・ 外食需要は、特に日常での利用は比較的好調に推移しているが、高価格帯については節約志向の影響が控えている様子が見受けられる。
		一般レストラン（経営者）	・ 物価と税金の高さが問題である。
		観光型ホテル（支配人）	・ 7月に日本で大地震が発生するという風評が広がり、インバウンド利用が大きく落ち込んだが、その影響がしばらく続く見込みである。
		都市型ホテル（経営者）	・ インバウンドの動きに一時的な減少があったものの、先行きの動きは問題なく、現状のままである。
		都市型ホテル（営業担当）	・ 製造業に米国の関税の影響がどのような形で出てくるのかわからない。足元の予約状況は良い状態で推移している。
		旅行代理店（経営者）	・ 消費が物価高騰に左右される状況では、レジャーなどの余暇を楽しむのは高所得者層に限られる。旅行も物価上昇に伴い、クルーズ船などの全食事付きやオールインクルーシブのホテルなどが人気である。
		旅行代理店（経営者）	・ 米国の関税の影響で企業の業績が伸び悩み、飲食料品の値上げは引き続き進んでいる。一方で、高級品スーパーにおいても価格が以前よりも下がっている。また、利用客も値引きが始まる時間帯に増えるのが顕著に表れている。
		通信会社（企画担当）	・ 物価高や米国関税への政府の対応など不確定要素が多すぎて上向き状況ではない。
		通信会社（営業担当）	・ エンドユーザーで状況が良くなる限り、景気が上向き理由が見当たらない。
		テーマパーク（職員）	・ 政治や株式相場が不安定である。
		テーマパーク職員（総務担当）	・ 猛暑であっても、事前に客への周知が行き届いた催事等の開催日は一定数の入園者数を確保できた。今後は多数の秋季イベントが企画されており、PRを一層強化して引き続き例年以上の集客を目標としていきたい。
		ゴルフ場（経営者）	・ 入場者の予約状況は堅調に推移している。
		パチンコ店（従業員）	・ 今後も売上に貢献できる機種の見込みはない。
		美顔美容室（経営者）	・ キャンペーンセールが年末まで続く。
		美容室（経営者）	・ 中小企業を始め多くの企業では値上げが物価高に追い付かない様子で、この状況が当分続く。
		住宅販売会社（従業員）	・ 当分このままの状態が続く。
		その他住宅〔室内装飾業〕（従業員）	・ 住宅案件は減少気味だが、企業の設備投資案件が増えてきている。
		商店街（代表者）	・ 自動車メーカーの利益が大きく減っているなかで、関連企業や地域への波及が現れてきており、景気は下向きになる。
		百貨店（売場主任）	・ 紳士靴においては、季節が変わっても靴を変えるという人は余りいないため、秋になっても売上は厳しい状況が続く。メーカーも余り在庫を持たない様子で、商品がない場合はメーカーではなく他店舗から取り寄せる形になり、商品がぐるぐる回るだけで売上は伸びない。
		百貨店（営業担当）	・ 株価と景気がバランスをとっていないため、株価が下落し始めると、景気が悪くなる。
		百貨店（販売促進担当）	・ お盆休みは来客数、売上共に好調だったが、その前後はインバウンド売上の低迷もあり勢いがみられない。今後もこの傾向が続く見込みである。
		百貨店（販売担当）	・ 充電器や電池の発火事故報道が影響し、ハンディファンの売上が下がった。特に最大のピーク期で影響が大きかった。20代までのケア用品の購買意欲は変わらず高い。
		スーパー（店長）	・ 9月以降に値上げ予定の商品が多く、各社での価格競争が更に激化する。
		スーパー（店長）	・ 夏が長くなり秋がほとんどないため、秋物商材が動かない。
		スーパー（店長）	・ 最低賃金は上がっても所得は変わっておらず、今後も商品の値上げが続くことで買い控えは更に進む。
		スーパー（店員）	・ 多少暑さが和らぐことに期待したいが、大手チェーンによる仕入れ確保の影響で、卵の価格は高止まりを予想している。猛暑の影響で、トマトなどの野菜類も価格が落ち着くどころかまだ上がると市場関係者から言われているため、心配が多い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店員）	・担当カテゴリでの特需が一段落し、厳しい状況を迎える。
		スーパー（支店長）	・連日の猛暑に加え、原料値上げによる物価高騰が依然として続くなか、客の購買意欲も上がらない状態が今後も続く。早く経済対策を打ってもらい、景気の底上げを期待したい。
		コンビニ（エリア担当）	・最低賃金の引上げが加盟者の利益を大幅に毀損し、現在のビジネスモデルは存続が危ぶまれる。
		コンビニ（店長）	・価格改定が続いており、主力商品などでは前年と比べてかなりの値上げが発生している。その影響で買い控えが発生する不安がある。
		コンビニ（商品企画担当）	・大阪・関西万博の閉幕に伴い新幹線での移動が一旦落ち着くと見込まれることから、来客数も落ち着く。
		衣料品専門店（販売企画担当）	・介護衣料品の交換ペースが落ちている。
		乗用車販売店（従業員）	・客の会話では、暑くて出掛けたくないという話が多い。実際に、買物など必要最低限の移動しかしないとのことである。営業時間である日中に客の動きが少ないことは良い材料ではない。本来であれば暑さが和らいでくる季節であるが、残暑が厳しいという予報で、影響が懸念される。
		乗用車販売店（販売担当）	・車両本体価格が上がっているため、客の買い控えが多くなっている。車検のタイミングで新車に乗り換えることなく車検を通す人も多くなっており、販売促進ができていない。
		一般レストラン（経営者）	・所得の増加はない一方で物価の上昇は続き、消費者はへき易している。
		一般レストラン（従業員）	・年末まで特にイベントが減ってきている。
		その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	・円安による仕入価格の上昇は、何とか乗り越えている取引先が多い。しかし、人材不足や最低賃金の引上げを大きなリスクと捉える取引先が多く、事業内容や営業時間を縮小する動きが見られる。
		旅行代理店（営業担当）	・百日咳や新型コロナウイルス感染症など感染症が広がり始め、熱中症などもあり旅行を中止する人が徐々に増えている。コロナ禍の3年間の再来にならないことを願うばかりである。
		観光名所（案内係）	・秋を迎えるが値上げのニュースばかりで、先行きの景気は悪くなる見込みである。
		パチンコ店（経営者）	・2～3か月先は毎年売上が悪くなる時期であるため、ここをどう乗り切るかが課題となっている。
		理美容室（経営者）	・客との話では物価が上がるばかりで賃金は上がらないという声が多く、景気は悪くなる。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・レンタルベッド分野の新商品が発売される。出荷は期待できるが、従来機種に比べると利益率が低くなるため、業況の改善は見込めないと想定している。
		設計事務所（職員）	・米国の関税問題や円安が進む傾向から、景気が良くなる様子はみられない。
		その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・これ以上物価高が続くと、補助金を使ったりリフォームでも施主の負担が増え、思うようには工事ができなくなる。1件1件の調整に時間が掛かり、利益が取れない仕事が増えることになり、ますます今後の見通しが立たない。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・ゲームチェンジャーがないと状況は変わらない。
	×	商店街（代表者）	・米の価格が非常に高くなり家計のやりとりが苦しいなかで、新米もかなり値段が高くなる様子である。現状と変わらず苦しい状況が続く。
	×	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・10月にアルコールやソフトドリンク類の値上げが予定されている。ニュースなどに取り上げられると消費者は敏感に反応するため、飲食店への来店が控えられ、飲料の販売は激減する。
	×	コンビニ（店長）	・米の価格が高止まりし、猛暑の影響で野菜の価格も上がっている。9月から10月に値上げする商品が相次いでいるため、更に節約志向が高まる。
	×	衣料品専門店（経営者）	・残暑が続くため、夏素材で秋色の品物をそろえている。単価は低いが、それでも目先を変えることですぐに着られる洋服を購入してもらえよう画策している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	タクシー運転手	・相変わらず景気対策が具体的にみられない。
	×	美容室（経営者）	・多少の減税や何らかの対策がなければ、このままではずっと景気は回復しない。
	×	設計事務所（経営者）	・足元の仕事がなく、2～3か月先は見通せない。
	×	住宅販売会社（経営者）	・米国との貿易摩擦により大きく左右されるため、今後の見通しが立たず、先行きが不安である。
	×	住宅販売会社（従業員）	・借入金利の上昇や資材価格の高騰などのマイナス材料しか見当たらず、良くなるとは到底思えない。
企業 動向 関連  (東海)		*	*
		窯業・土石製品製造業（社員）	・新規の引き合いが増え始め、Webからの問合せも増えている。成約率も高くなっている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・年末にかけて客先業界の設備投資が増える傾向にあるため期待したい。また、足元で自社製品の見積りが結構出ているため、やや良くなると判断した。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	・例年は秋に販売量が増加するが、今月に入って原材料値上げの申入れがあり、製品への価格転嫁は非常に難しいため採算が不安定となる。
		化学工業（営業担当）	・生成A I向け電子材料薬品の好調が続く見込みである。
		化学工業（総務秘書）	・特段景気に大きな影響を与えるトピックがない。株価の高値は理由が分からないが、NISA以降の投資ブーム到来の雰囲気は好況感を漂わせている。米国の関税は厳しいが、15%に収まったことから何とか乗り切れると期待している。
		一般機械器具製造業（経営管理担当）	・受注量と販売量の見込みから判断した。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・余り変化はない見込みである。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・生産計画での生産数がやや上がっているが、右肩上がりではなく、少し上がった後は横ばいとなっている。
		輸送用機械器具製造業（管理担当）	・米国の関税は影響が分からない。引き続き値上げに加え猛暑で電気代が心配である。
		建設業（営業担当）	・一般家庭からの受注も、物価高や人件費増加で見積金額が予算オーバーとなり、なかなか商談成立に至らない。公共の仕事でも、予算があるなかで更に削られていることが多く、売上の増加は物価高により上がっているだけで、実際の実入りは少ない。
		輸送業（従業員）	・業種によって一時的に忙しい荷主はあるが、結構波があり計画が立てにくい。荷主に理由を聞いても分からず、来年もどうなるのか不透明な様子である。したがって、運賃改定の話もなかなかしづらい。
		輸送業（従業員）	・物価上昇に対して実質賃金は上昇していないため、個人消費も伸びない。
		輸送業（エリア担当）	・配達個数は微増である。配送単価は上がると言っていたが、なかなか上がらない。トラック新法で運送原価がどのように変わるか期待している。
		通信業（法人営業担当）	・企業が投資体力を蓄えながら、時代になつた環境を整えることは至難である。取引先には、場当たりのでも今必要な環境を整え状況を静観する様子が多く見受けられる。
		金融業（従業員）	・物価の上昇は続いており、米価格も上がると予想されることから、身の回りの生活はまだ厳しい状況が続く。
		金融業（企画担当）	・中小企業にとっては、原価上昇分を受注価格に十分転嫁できて、従来程度の利益確保が必要である。賃金も可能な限り引上げているものの、大手ほどではない。賃上げが中小企業の隅々まで浸透しないと個人消費も伸びず、景気は良くならない。
		不動産業（経営者）	・今後は例年よりも晴れの日が多くなりそうであり、外出や遠出をする人は増加する見込みである。今後も売上の増加傾向は継続し、前年を上回る状況が続く。
		広告代理店（制作担当）	・秋に向けて気温が下がってくれば、人の流れも増えてくるため、旅行関係や娯楽施設等の広告受注も増えると期待する。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・我が国は農産品の自給率が低く輸入に頼る割合が高いため、円安の影響で食料品などの価格上昇が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		公認会計士	・米国との関税交渉は合意を得たものの、国内政治が不安定な状況が続き、様子をみている企業が多い。個人消費は、国内の政策次第で大きな影響があるため、現時点で良くなるとは言い難い。季節需要が活発な企業については、9月、10月と売上は減少に向かうため、今後も余り変化はないことが予想される。
		会計事務所（職員）	・観劇のチケットが取りにくい状況が続いている。値段は上がっているが、捻出するために節約もしている。支出に回せる総額はそれほど変わらないため、景気全体としては変わらない。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・我が国は米国の関税政策に振り回されている。企業としては新商品や新規客の開拓が必要であり、開発5年目になる商品が完成に近づきつつある。
		食料品製造業（社員）	・米の価格を始めてとして製造原価が上がるため、商品価格の見直しを実施予定である。それにより販売量の低下が懸念される。
		食料品製造業（営業担当）	・受注量、販売量共に減少傾向にある。
		金属製品製造業（経営者）	・引き続き引き合いが減少しており、受注量の減少が進む。
		金属製品製造業（従業員）	・秋以降、仕事量の動きは鈍いという声が多い。
		一般機械器具製造業（営業担当）	・米国の関税が上がり米国内で部材や材料費が高くなっているため、設備投資を控える動きが出てくることが予想される。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・米国との関税問題はいつまでも解決せず、減税や公共投資などの政策が実施される様子もない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・米国の関税の影響で受注量の減少が見込まれる。
		建設業（役員）	・物価高に対して所得が追いついていない。周囲ではこれから大学生になる子供のいる世帯が多いが、住宅ローンと学費を払うだけで精一杯で、趣味や食事に金を掛けられない。
		輸送業（経営者）	・前年からの人件費、その他コストアップに対する価格改定が十分に進んでいないなかで、更なる賃上げやコストアップ要因が利益を押し下げる。
		輸送業（従業員）	・足元では倉庫における保管在庫量は好調に推移しているが、夏休みが終わり通常シーズンになるにつれ、消費が伸び悩み在庫も減少する見込みである。
		輸送業（エリア担当）	・米国の関税政策による。
		通信業（総務担当）	・米を始めこの秋も物価高になると容易に想像できる。減税策もそれほど効果が期待できず先行き不安が募る。何かもっと明るいニュースが欲しい。
		金融業（従業員）	・今苦しんでいるのは消費者や中小企業で、どんな状況でも守られるのが大企業という実態を見聞きすることが多くなっている。経済に関して先行きを不安視する声がとても多い。
	x	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・物価が上がり、手取りの賃金は上がらない。手取りが多少上がったとしても、それ以上に物価が上がっているため買い控えるという流れが発生している。物価上昇が止まり賃金は上がれば、購買意欲も高まる。
	x	鉄鋼業（経営者）	・基本的に良くなる要素が全くない。受注も引き合いも低調のままで、先行きの話もない。
	x	会計事務所（職員）	・米国の関税の影響で主要顧客から連絡があり、秋以降の売上減少が予想されるため、対策に奔走している。売上を補填するため、関税の影響を受けていない客と新規契約を結ぶようにしているが、売上につながるまでに長くて半年の期間が必要であるため、かなり厳しい状況である。
雇用 関連 (東海)		-	-
		人材派遣会社（社員）	・例年、8月末より登録者数が増える。
		職業安定所（職員）	・新規求人数が前月比、前年同月比共に増加している。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・下期に向けて異動が活発になり、お盆明け以降に活動意欲が高まる求職者の応募が、10月以降は増加する見込みである。
		人材派遣会社（社員）	・今月も良かったが、この先の予約状況も良い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（営業担当）	・業種や企業規模により人手不足が深刻化しており、派遣社員の直接雇用が増加傾向にある。
		人材派遣会社（営業担当）	・派遣社員の正社員化が増え、1月や4月には直接雇用切替えによる手数料は増加する見込みである。
		人材派遣会社（営業担当）	・消費税減税をする以外に景気回復の見通しは立たない。
		人材派遣会社（営業担当）	・自動車関連メーカーには米国関税の影響が少なからずありそうだが、新規開発を中止するまでは及んでいない。現状の人員数は維持される見込みで、今のところ新規の引き合いも鈍化してはいない。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・米国の関税は、最悪の状況は避けられたが、自動車製造関連へ人材供給を行う企業にとっては、生産減少が予想され厳しい状況になる。新型車種及び国内新車販売に期待したい。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・商品の値上げが消費者の懐を直撃しているが、企業もそこまで利益を出せていない状況である。株価は上昇しているが、政治的な動きに左右されているように見受けられ、経済の実体と合っていない印象を受ける。
		職業安定所（職員）	・求人者からは人手不足という声があるが、物価高や米国の関税問題、最低賃金の引上げによる企業への負担増加から、見通しは不透明である。
		職業安定所（職員）	・米国の関税や最低賃金引上げ等の不安材料はあるが、新規求人数や新規求職件数については変化がない。
		職業安定所（職員）	・中小企業において、原材料費、燃料費、運送費などの各経費の高騰により、人件費に費やす予算の捻出が困難になっている産業が引き続き見受けられる。一部業種での人手不足はかなり深刻となっているものの、物価高騰に伴う国内の消費動向の停滞や米国関税の影響を懸念し、受注などが堅調に推移している産業で人手不足が生じていても、新たな求人提出を控え、様子見をしている企業がある。この先の経済動向が予測できない状況ではあるものの、現段階において大きな生産調整や雇用調整などの情報は入っておらず、当面、景気動向の大きな変化は生じないと判断する。
		職業安定所（職員）	・受注量の減少などについて、米国関税による影響が間接的に出ていると不安視する声がある。物価高や連日の猛暑により、消費の増減が顕著になっていることも懸念される。最低賃金の引上げや物価高騰の継続もあり、大きな変化は期待できない。
		職業安定所（職員）	・特に大きな変動はみられない。
		民間職業紹介機関（窓口担当）	・大阪・関西万博の閉幕時期を見据え、派遣期間の区切りを迎えるスタッフのキャリア支援などが加速化してきたことで、特に関西地方での人の動きが活発となるものの、当地域における求人においては、例年どおりの動きである。
		学校〔大学〕（就職担当）	・現時点で、新卒求人に対する変化の兆候がみられない。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・前年同期と比較して内定状況に変化はなく、採用先にも特段の変化はみられない。また、追加募集的な依頼もないため、雇用事情は例年並みと実感している。
		人材派遣業（営業担当）	・最低賃金の引上げによる人件費の更なる増加に対して、生産性向上へ向けた戦略が整っておらず、企業の利益を削って人件費を確保する傾向に動く。
		職業安定所（職員）	・物価高の影響が徐々に顕在化していることやコロナ禍でのライフスタイルの変化が事業収益に大きな影響を与える。その変化に対応できる事業所は多くない。
	x	-	-

## 7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連		-	-
(北陸)		一般小売店〔事務用品〕（店長）	・年末年始の需要期に向けて、景気が良くなることが期待できる。
		スーパー（総務担当）	・食品の値上がりは止まらないが、新米の販売時期でもあり、購入が増えるかとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（総務担当）	・新車に関して、9月以降はこれまでよりも一定の数量を確保できると見込んでいる。
		旅行代理店（従業員）	・前年度の同時期と比べると受注状況は上向くが、1年全体としては変動がないとみている。
		通信会社（役員）	・前年と同程度の契約獲得数を維持できるとみている。
		競輪場（職員）	・大幅な最低賃金引上げのニュースがあり、現役世代の収入が上がれば、販売量も増えるともみている。また、この後給付金の支給や減税が実施されれば、更なる消費拡大が期待できる。
		商店街（代表者）	・猛暑という季節要因はなくなるが、消費マインドを冷え込ませている物価高という根本的な問題は解決されない。国内客における高価格帯商品の購入回復は、当面期待できない。そのため、インバウンド需要に頼らざるを得ないが、現状は国や地域などの客層の違いによって売上が大きく左右される不安定な状況である。国内需要が低迷したままでは、先行きは厳しいと言わざるを得ない。
		商店街（代表者）	・飲食店の入替えが複数予定されており、どのように人出が変わるのが注視したい。
		百貨店（売場主任）	・免税売上については、前年実績のインバウンド数を維持しつつも、円高によって客単価が大幅に下がり、厳しい状況が続くとみている。また、引き続き、原材料価格の高騰による物価高の影響も大きく、現状維持が精一杯であると考ええる。
		スーパー（店長）	・商品の値上げにより客単価や1品単価は上がっているが、買上点数が前年よりも減っている。物価が上昇するなかで余分な物は買わない客が多く、節約意識は依然として高い。
		スーパー（仕入担当）	・今後も肉食需要に関連する食材や調味料の値上げがあるため先行きは不安であるが、中食に関連する商品は微増を維持できると考え、景気は横ばいとみている。
		スーパー（役員）	・現状を大きく変えるような話題が少ない。最低賃金は大幅に上がるが、中小企業を中心に厳しい経営環境になることは間違いない。
		コンビニ（店長）	・生活必需品など買わなければならない物に対する価格への目線は厳しいが、推し活やインターネットで話題の商品への購買意欲についてはむしろ強くなっている。比較的単価の高い商品であっても、入荷即完売の状況になることも多い。総合的にみて今後数か月間、客の購買力は変化しないとみている。
		コンビニ（店舗管理）	・景気を好転させる材料が皆無である。
		衣料品専門店（経営者）	・天候不順が続いている。節約志向も続くとみている。
		衣料品専門店（経営者）	・これからは、セール品ではなく正規価格の商品が店頭に並ぶため、動きが鈍くなることを懸念している。
		家電量販店（店長）	・これからも物価高が続くことで、客の買い控え傾向が高まるとみている。
		家電量販店（本部）	・物価上昇に賃金上昇が追い付かない限りは、客の目が耐久消費財に向かない状況が続くと考える。
		乗用車販売店（経営者）	・今新車を購入する方が良いか、それともしばらく様子を見る方が良いかを相談に来る客が増えている。車の購入に対して慎重な様子は変わらない。
		乗用車販売店（従業員）	・酷暑が続いており、先が見通せない。
		乗用車販売店（経理）	・最近入荷した商品への需要が継続している。
		住関連専門店（役員）	・ここ数か月は来客数、買上点数を含め、これまで経験したことがないほどの厳しい状況が続いている。今後もしばらく回復の見通しが立たない。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・昔から暑さ寒さも彼岸までというが、今年は10月になっても涼しくならないという話である。全く季節感がなくなっているなかで、これ以上、景気が悪くならないことを願っている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・生活必需品の値上がり傾向は今後も継続する見込みで、一定の影響は受け続ける。一方で、話題性や希少性の高い商品群は好調であるため、全体的に景気は大きく変わらないとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（スタッフ）	・ランチとディナーを合わせると、秋口が最も団体利用の多い時期だが、20人以上の受注が前年と比べて80%程度にとどまり、厳しい状況が継続している。
		一般レストラン（店長）	・平日と週末で差は大きいですが、例年並みの来客数を見込んでいる。
		一般レストラン（統括）	・日本経済の先行きが不透明であるため、外食産業の今後の景気がどうなるか分からない。極端に悪くならないとみているが、良くなる要素も現状は見当たらない。食材の価格が落ち着いて消費者の可処分所得に余裕ができ、外食などの利用頻度が増えることを期待したい。
		スナック（経営者）	・物価高などで、全体的に景気が悪化している。
		観光型旅館（経理）	・2024年1月1日に発生した能登半島地震以降休業しており、再開までにまだかなりの期間を要する。
		都市型ホテル（スタッフ）	・9月まで予約状況は良くないが、10月以降は今のところ堅調であるため期待している。
		タクシー運転手	・8月の猛暑が落ち着き、これから観光客が増加して忙しくなると考える。
		タクシー運転手	・利用者数は増加しているが、対応できる従業員の数が足りない。
		通信会社（職員）	・景気が変わる要素が特に見当たらない。
		通信会社（営業担当）	・9月に新機種が発売になるため来客数は増加するだろうが、長期的なものではないと考える。
		通信会社（役員）	・通信業界では、少しずつではあるが値上げの動きがある。一方で、競争環境などが劇的に変化するわけではないため、2～3か月先の景気は変わらないとみている。
		パチンコ店（経理）	・消費動向に影響を与える施策が見当たらない。減税が現金給付があれば変わるかもしれない。
		住宅販売会社（従業員）	・客の動きは例年並みであるが、高品質で高機能な住宅を好む人が増えており、売上は増加するとみている。
		住宅販売会社（従業員）	・能登地区の震災復興関係の商談は多いが、単価及び床面積の減少がみられる。その他地域の新築住宅の受注は計画を下回っている。
		住宅販売会社（従業員）	・能登半島地震からの復興が停滞している。
		住宅販売会社（営業）	・原材料価格の上昇が継続し、新たな住宅政策も見込めないなか、2～3か月後に景気が良くなるとは考えにくい。悪くなるとみている。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・価格の安い物が目立って売れていることで、何とかなっている。プレミアム付商品券の利用が8月までであるため、9月からは少し心配なところである。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・数か月前が景気の底かと考えていたが、今月、来月と多数の商品で値上げがあるため、販売量が落ち込むとみている。
		百貨店（販売促進担当）	・食料品は堅調に推移するものの、衣料品は夏物からすぐに冬物へと切り替わり、秋物需要が減少するとみている。
		百貨店（販売担当）	・化粧品は前年の売上を維持しているが、韓国化粧品などの低価格な商品が高い年代にまで浸透している。秋冬衣料品は、客の価値観の変化と複数購入が減少していることから、1点豪華主義の購入が増えるとみている。衣料、雑貨全体の購入が減るため、客単価は下落すると考える。やや低迷した数年前の購買行動に戻るとみているが、商品1点当たりの単価は高騰しているため、やや落ち込んだ状態が続くと考える。
		コンビニ（店長）	・地方では給料を上げることが難しい。当店ではアルバイトの最低賃金を引き上げるため、社員の給料を抑制しないと経営が成り立たない状況で、アルバイトの賃金上がり、社員の給料が下がるという現象が起こっている。残業時間を抑制するなど社員が現場で活躍する機会が減少し、現場運営のレベル低下が懸念される。社員の勤務時間が減り、アルバイトの勤務が増え、店舗の運営レベルを上げることがかなり困難になっている。また、機械の導入による省人化の流れから、従業員の採用も見送っている状況である。活気がなくなっており、長い目でみると景気が良くなるとは考えにくい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（経営者）	・気温が高いまま季節が推移すると予報が出ており、秋冬商材の販売時期がずれるとみている。そのうちバーゲンセール の時期が到来し、粗利の確保が厳しくなると考える。
		観光型旅館（経営者）	・9月以降は平日の集客が悪く、売上が確保できるか心配している。
		都市型ホテル（役員）	・スポーツ大会などの団体イベントの予約は好調であるが、 ビジネス、レジャー共に個人客の予約数が少なく、販売価格 の低下が懸念される。
		美容室（経営者）	・ここ数日、建設業関係の企業が資材高騰により倒産したと いうニュースを度々耳にする。最低賃金の大幅な引上げが 決定され、これからはあらゆる業界で体力のない中小零細企 業の倒産が増えると考えられる。
	x	商店街（代表者）	・都会の状況は分からないが、とにかく明るい要素が1つも ない。客が金を使おうという気にならないのが、1番の問題 だと考える。
	x	テーマパーク（役員）	・当地区は北陸新幹線の延伸効果や北陸応援割の反動があ り、前年同月で比べると、この先3か月の状況は団体予約を 中心に厳しい状況である。物価高の影響もあり、全体的に状 況は悪くなると考える。
企業 動向 関連  (北陸)		-	-
		一般機械器具製造業（経理担当）	・自動車関連製品、産業機械関連製品共に順調に製品の受注 が入っている。自動車関連製品は輸出が好調で、産業機械関 連製品については国内受注量が伸びている。
		建設業（経営者）	・土木工事においては、仕事量がやや上向きになるとみている。 しかし、これが当社の受注につながるかは、競合もいる ため別問題である。
		不動産業（経営者）	・業者関係の法人から問合せが増えているため、景気はやや 良くなるとみている。
		税理士（所長）	・体力のある企業は、給与を上げて人材を確保し、価格転嫁 する好循環ができつつある。反対に、地元で有名な企業で あっても、うまく価格転嫁できていないところは淘汰され ていくとみている。
		食料品製造業（経営企画）	・中国の日本産水産物の輸入再開による売上増加に期待する ほか、特にプラスチック材料が見当たらない。
		プラスチック製品製造業（広報）	・受注量、販売量の見込みに余り変化がない。
		金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注状況から、景気は変わらないとみている。 。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・工作機械業界において、機械の国内出荷額は直近3か月で ほぼ横ばいになっており、2～3か月後も大きく増減する材 料がない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・新規起工案件に関しては前情報があるだけで、いまだ受注 が確定していない。また、受注が確定したとしても、量産稼 働まで1年程度期間が空いてしまうため、近いうちに製品販 売量が増加する見通しは立っていない。
		輸送業（管理会計担当）	・足元の物量などから、当面は大きな変化はないとみている。 。
		通信業（営業）	・米国における景気対策や金利の動向により、9月以降の状 況が左右されると考える。
		金融業（融資担当）	・物価高や賃上げによるコストアップが企業の収益を圧迫し ている。企業では価格転嫁が進んでいるものの、コストのカ バーはできていない。一方で、これまでは米国関税の動向や 能登半島地震の影響により設備投資を抑制する方針であった が、今後は増加する傾向にある。
		司法書士	・事業用資産の購入や高額な住宅ローンに伴う新築住宅の建 築が堅調に推移しているが、解散登記の依頼も続いている。
		繊維工業（総括）	・繊維産業はサプライチェーンが長いと、米国の関税引上 げの影響は、今後顕在化すると危惧している。
		建設業（役員）	・人手不足のため、思いどおりに受注を確保することが現在 よりも難しくなるとみている。
		輸送業（経理）	・経費がかさみ、利益がほとんど残らない状況である。
	金融業（融資担当）	・物価高や人手不足を要因とした人件費の上昇が企業収益を 圧迫している。当面この傾向は継続するとみている。	
	x	-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
雇用 関連  (北陸)		新聞社 [ 求人広告 ] ( 担当者 )	・ 求人広告の見込み数が増加している。
		新聞社 [ 求人広告 ] ( 営業 )	・ 人手不足が続いているなか、企業の採用活動は難航しており、需要を取り込みきれていない。
		職業安定所 ( 職員 )	・ インバウンドや建設に関わる企業は好調だが、今後の物価高と最低賃金引上げの影響が懸念され、差引きすると景気全体に大きな変化はないと考える。
		職業安定所 ( 職員 )	・ 原材料費、燃料費、水道高熱費の高騰などにより企業環境が厳しくなっており、有効求人倍率が徐々に下がっている。また、8月から15%の米国関税が適用されたことや10月から最低賃金が大幅に引き上げられることで、先行きを不安視する事業所が少なくない。
		民間職業紹介機関 ( 経営者 )	・ 求人の動きに変化がなく、求職者数は頭打ちの状況で、フルタイムでの就業を望んでいない人もいることから、中小企業における人手不足は継続している。
		学校 [ 大学 ] ( 就職担当 )	・ 物価上昇や円安、前年の能登半島地震と豪雨災害の影響に加え、米国の関税、参議院選挙結果の影響が懸念され、状況が好転する要素や気配がみられない。
		人材派遣会社 ( 役員 )	・ 10月から最低賃金が大幅に引き上げられることで、中小企業の倒産や資金繰りの悪化が発生し、派遣依頼数が減るおそれがある。
		職業安定所 ( 職員 )	・ 米国の関税による影響と、最低賃金の大幅な引上げが企業業績を圧迫する懸念がある。
	x	-	-

#### 8. 近畿 ( 地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社 )

( - : 回答が存在しない、\* : 主だった回答等が存在しない )

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (近畿)		百貨店 ( マネージャー )	・ 9月末から10月にかけての、国民体育大会、全国障害者スポーツ大会の開催に合わせて、県内を訪問する人が増える見込みである。それに伴い、土産物需要の増加が見込まれる。
		一般小売店 [ 化粧品 ] ( 経営者 )	・ 秋物商戦の立ち上がり商材を8月末から販売し、リップなどの商材では一部で品切れが起きるなど、話題性のある商品の動きは良い。海外高級ブランドのリップなど、高級ブランドに対する若年層への反応は良く、この秋冬商戦で更なる売上の増加が予想されるため、今秋はメイク市場が好調になりそうである。
		百貨店 ( 外商担当 )	・ 高級な海外ブランド品や時計については、今まで在庫がなかった商材の生産が増えており、少し供給が始まると予想される。それに伴い、売上の増加につながる見通しである。
		百貨店 ( サービス担当 )	・ いよいよ大阪・関西万博の開幕まで1か月強となり、関連商品の売場の売上拡大が予想される。また、地階や菓子売場のリニューアルによる相乗効果で、食料品フロアが好調に推移することが期待される。
		コンビニ ( 店員 )	・ 気候が良くなり、外出する機会が増えてくれば、来客数は戻ってくると予想される。インバウンドも大阪・関西万博の開催効果により、多くの国からの客が増えている。
		コンビニ ( 店員 )	・ 気温が落ち着けば客足が伸びるほか、食欲の秋には新たなキャンペーンの予定もあるため、景気が上向くことを期待している。
		家電量販店 ( 経営者 )	・ 補助金の申請の締切日を控えて、客からの問合せの増加が期待される。
		乗用車販売店 ( 支店長 )	・ 平均株価が4万3000円を超えて、好調に推移しているため、特に富裕層の財布のひもが緩み、購入に動くことが予想される。
	乗用車販売店 ( 役員 )	・ 米国の関税問題が落ち着きつつあるほか、ウクライナ等の紛争も終息に向かっている。今後も現状のように平均株価が上昇するようであれば、更に良くなる期待が持てる。ただし、高級輸入車は富裕層にターゲットが絞られるなか、ブランド間の販売競争が激化している。さらに、国産車の高級車両とも競合関係にあるため、従来のようなブランド頼みでは通用しない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（企画）	・大阪エリアに限定されていた大阪・関西万博に伴う宿泊需要が、周辺地域に波及することが予想されるほか、国内旅行にも賃金の増加による影響が徐々に出てくることが見込まれる。
		一般レストラン（経営者）	・大阪・関西万博の閉幕により、観光客への影響がどの程度出るかは不透明であるが、猛暑も落ち着き、人が外に出て活動し始める。また、アジア圏の国慶節を迎え、インバウンドが増えることも期待されるため、景気が回復に向かうと予想される。
		都市型ホテル（客室担当）	・第3四半期はインバウンド需要が堅調である。大阪・関西万博の終了による影響を懸念しているが、今のところは順調な推移がみられる。
		都市型ホテル（客室担当）	・紅葉のシーズンは比較的好調に予約が入っているが、経費の高騰で利益が減少している。売上は前年の水準を上回っても、利益は減少する可能性がある。
		旅行代理店（役員）	・今後は猛暑が和らぎ、涼しくなることで、秋の行楽シーズンに向けた旅行需要の高まりが期待される。また、最大で9連休となる年末年始についても、旅行業界にとってはプラスの影響が大きいと予想される。
		通信会社（社員）	・秋以降に向けて、スマートフォンの発売やAIブームなど、ネット関連の需要が盛り上がってくると期待している。
		通信会社（営業担当）	・年末商戦で商業施設への来客数が増えるため、良くなることが予想される。
		その他レジャー施設 〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・大阪・関西万博が終了するほか、猛暑も終わることで、人の流れが戻ってくることを期待している。
		その他住宅〔展示場〕 （従業員）	・特に資金が潤沢にある60代以上のシニア層が積極的に動いており、今後も当面はその傾向が続くと予想される。
		その他住宅〔情報誌〕 （編集者）	・不動産価格の高騰はマンションを中心に続いているが、都心物件は引き続き好調を維持している。実需向けの戸建て住宅などでは、販売不振となるケースも増えているが、全体的には物件の値上がり傾向が、消費マインドの維持につながっている。
		その他住宅〔住宅設備〕 （営業担当）	・関西で新規工事の受注が少し増えており、近い将来の期待材料となっている。ただし、人手不足の問題は棚上げされたままで、少ない人員で現状とプラスアルファの仕事をごこなしている状況であり、これを早く解消する必要がある。
		商店街（代表者）	・今後もしばらくは猛暑が続くと予想される。
		一般小売店〔花〕（経営者）	・最近の異常気象で生産面に影響が出ているほか、商品価格が高騰し、販売量にも影響がみられるなど、今のところは景気が上向く兆しはない。
		一般小売店〔鮮魚〕 （営業担当）	・10月からの商品の値上げにより、買い控えが予想される。
		一般小売店〔野菜〕 （店長）	・大きく流れが変わるようなことがない限り、今の状況が続く。
		一般小売店〔呉服〕 （店員）	・猛暑のため、着物の手入れも大変になっている。着物の在庫から、洗う物や染み抜きをする物を探すにも、在庫のある部屋に行くことすらちゅうちょされる。
		一般小売店〔菓子〕 （営業担当）	・猛暑が落ち着き、飲料や煎餅、焼き菓子などの動きが増えることを期待している。
		百貨店（売場主任）	・物価の上昇が続くことへの不安から、購入を控えるという声が出ている。
		百貨店（広報担当）	・今のところは売上の基調が変化する要因が見当たらない。前年の実績に対して、しばらくは一進一退の動きが続くと予想される。
		百貨店（商品担当）	・国内では政治問題や物価上昇の悪影響が懸念されるほか、国外では米国の関税問題や紛争関連のリスクがある。いずれかの要素が落ち着かない限り、中長期的に良くなることは期待しにくい。
		百貨店（外商担当）	・秋以降は富裕層の来店頻度の回復が見込める一方、高級ブランドの相次ぐ値上げによる影響も考えられ、全体として前年比では横ばいの推移となる。
		百貨店（販売推進担当）	・猛暑が続いて、生鮮食料品の需給バランスが崩れそうであるため、先行きの見通しは厳しい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（販促担当）	・今後も厳しい残暑が続くと予想され、秋物商戦はかなり苦戦しそうである。ただし、前年も10月まで残暑が続いたため、メーカーも日本の四季に猛暑を加えた五季への対応を進めており、大きな減退にはならない。店舗としても、気温の推移を加味した細かな商品展開を行うなど、やや守りを固める時期となる。
		百貨店（営業推進担当）	・天候などの影響で、一時的にインバウンド売上が増えているが、10月以降は減少傾向となりそうである。
		百貨店（宣伝担当）	・大阪・関西万博が終了する10月までは、来客数の好調な動きが続くと予想しており、それに向けた商品展開を準備している。
		百貨店（マネージャー）	・現在はインバウンドによる来客数は安定しており、ここ数か月と比べて増加傾向にある。一方、国内客の動きは不安定で、特に足元の商圏からの来客数が、前年並みか微減という状況が続いている。足元の商圏での消費回復が、今後の重要なポイントとなる。
		百貨店（マネージャー）	・全体的な流れは変わらず、国内中間層の動きは節約志向や選択消費が続く、大阪・関西万博に代わる目新しいコンテンツの訴求がポイントとなる。一方、富裕層の消費は、時計や特選品といった付加価値の高い品ぞろえにより、堅調に推移するとみられる。インバウンドについては地区特有の恩恵がしばらく続くと予想される。
		スーパー（店長）	・米国の関税問題や政情不安などで、混とんとした状況が続いている。
		スーパー（店長）	・物価の上昇に収入の増加が追いつかず、政策についても給付金が減税かの見通しが立たないため、現状から大きく変わることはない。
		スーパー（店員）	・今後も暑い日が続けば、商品や価格の動きへの影響も続くため、現状からの大きな変化はない。
		スーパー（企画担当）	・9月も気温は高めで推移する予想であり、客足にも影響が出るため、ピークの時間帯の来客数は減少が続く見込みである。今後も商品価格の上昇が予想されるなか、現状で買上点数は既に伸び悩み、必要な物だけを購入する動きがみられる。いかにしてもう1品を購入してもらおう売場作りができるかが重要であり、高付加価値商品などで価値訴求型の販売を進めていく。
		スーパー（企画担当）	・商品価格の上昇は続くものの、景気に大きな影響はなく、現状のままと予想される。
		スーパー（経理担当）	・パニック的な米への需要は、備蓄米の放出や新米の出回りによって落ち着きをみせている。その一方、新米の価格は高騰しており、食料品価格の上昇も続いていることから、年末商戦までに消費が盛り上がることはない。
		スーパー（販売促進担当）	・しばらくは来客数が横ばいの推移となるほか、商品価格の上昇による単価の上昇で、売上は微増での推移が続くと予想される。
		スーパー（企画）	・最低賃金は63円から64円の引上げで決定したが、それ以上に物価は上昇することが予想される。
		コンビニ（経営者）	・大阪・関西万博の開催期間中は、今の高水準での来客数が期待できるほか、値上げ効果により、客単価も高い水準で推移しそうである。
		コンビニ（経営者）	・最低賃金が見直されても、すぐに大きな変化はないと予想される。
		コンビニ（店員）	・大阪・関西万博が終わるまでは、大きな変化はない。
		コンビニ（店員）	・物価の上昇が止まらず、異常気象で野菜の価格も高騰している。家計の厳しい状況は更に深刻化しており、景気の改善はないとみられる。
		衣料品専門店（店長）	・まだ価格の上昇気運が強く、消費者の財布のひもは固い。また、仕入価格の上昇も続いているため、利益が圧迫されている。
		衣料品専門店（店員）	・年々気温が高くなり、暑い時期が長くなっているため、状況は変わらないと予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（企画担当）	・リフォーム補助金が販売に余りプラスとなっていない。今後は販売が増える季節となるが、補助金の支給要件に内窓を中心とした断熱関連商品が入ったほか、各メーカーの商品価格の高騰により、なかなか契約に至らない状況が続くそうである。
		家電量販店（営業担当）	・大阪・関西万博の開催で盛り上がっている間は、この勢いが続くことを期待しているが、万博の終了後がかなり心配される。
		乗用車販売店（経営者）	・大手企業は今年も賃上げが行われているが、物価の上昇がどの程度続くかが注目される。
		乗用車販売店（経営者）	・景気は悪化に向かうと考えている客が多い。特に設備投資の減少が続くとの見方が多く、財布のひもは固くならざるを得ない。
		乗用車販売店（販売担当）	・国内政治や米国情勢の先行き不透明感など、プラス材料が見当たらない。悪くはならないものの、良くもならないと予想される。
		乗用車販売店（営業担当）	・物価上昇の影響で自動車の車両価格が上昇し、購入のキャンセルも出ている。今後も好転する材料はない。
		乗用車販売店（販売担当）	・基本的な給与水準が上がらない限り、今の状況が続くと予想される。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・当地は10月に最低賃金が63円の引上げとなるが、正規社員の賃金が上がることはない。賃金全体が底上げとなれば、景気も良くなることが予想される。
		その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・猛暑が続いたことで、夏物商材やスキンケア商材は順調であったが、売上全体は横ばいか減少傾向となっている。今後は季節商材が切り替わるものの、食品価格の上昇も続いているため、大きな上昇要因は見当たらない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・株価の上昇などで、一見すると景気は良いようにみえるが、物価の上昇は続いている。仕入価格や営業経費の高騰分が価格転嫁できない業種では、企業収益が圧迫されているため、先行きの景気が大きく変わることはない。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・8月から、生活必需品である様々な食品の価格が値上がりしている。客の財布のひもはもろくも固く、心理面でも宝飾品に関心が向かうことは期待できない。
		その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	・販売量が増える時期ではないため、先行きは期待できない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（総括）	・政治が不安定なほか、米国の関税問題の影響などが読めない状況が続く。天候も異常であるなど、安心して消費できる雰囲気ではない。
		高級レストラン（スタッフ）	・大阪・関西万博が開幕するまでは、客足は戻らない可能性がある。
		一般レストラン（企画）	・今年に入り、4～5月に落ち込みはあったが、ここ3か月は売上に大きな変化はなく、材料費も高水準であるが落ち着いている。今後は原材料費への影響が大きい、米の価格がどう変化するかが心配である。
		その他飲食〔洋菓子〕（管理担当）	・駅周辺の工事が続くため、人の動線の変化による悪影響も続く。
		その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・良くなる要因は全くないが、値上げに対しても客は鈍感になっている。
		観光型ホテル（経営者）	・世界情勢が不安定なほか、米国の関税引上げの影響も見極めが難しいなど、先行き不透明な状態が続く。
		観光型ホテル（経営者）	・9月から10月上旬は、大阪・関西万博関連の団体予約もあり、順調に推移すると予想される。万博閉幕後の反動も、現時点では特にみられない。
		観光型旅館（経営者）	・良くなる要因が見当たらないほか、大阪・関西万博の影響も続きそうである。
		都市型ホテル（スタッフ）	・一定の予約は入っているものの、今一つ伸びがみられない。夏休みの動きが例年よりも悪かったことや、新型コロナウイルスの感染拡大も心配の種である。インバウンドは中国を中心に増加傾向にあるものの、国内客の利用はやはり少ない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（管理担当）	・良くなる要因が見当たらない。
		旅行代理店（支店長）	・残暑が厳しくなるとの予報で、客の旅行マインドが低迷している。秋の紅葉シーズンに向けての、酷暑による影響もかなり心配である。
		タクシー運転手	・気候による影響に左右される。大阪・関西万博が閉幕し、暑さも落ち着いてくることで、利用客は減少する。
		タクシー運転手	・しばらくは酷暑が続くなか、大阪・関西万博の開催も残り2か月を切り、駆け込み客も増えることが予想される。
		通信会社〔貴金属オークション〕（経営者）	・先行きは不透明感が強く、地金などの貴金属相場の下落により、状況が一気に悪化する可能性もある。
		通信会社（社員）	・新型スマートフォンの価格について、米国の関税による影響が注目される。
		観光名所（企画担当）	・大阪・関西万博終了後の状況は見通せないが、日本人客の回復が期待できる。
		ゴルフ場（支配人）	・予約状況を考慮すると、集客面では安定的な推移が見込まれるが、単価の調整による集客の確保が中心のため、全体の収益は現状並みで、景気に大きな変化はない。
		競艇場（職員）	・賃上げなどのプラス材料と、物価の上昇や社会不安の増加といったマイナス材料があり、景気がどちらに変化するかの見極めが難しい。
		その他レジャー施設〔イベントホール〕（職員）	・販売量などに目立った変化はみられないが、催事に関する経費にも節約志向が強く働いている。
		住宅販売会社（経営者）	・参議院選挙後は、不安定ながらも横ばいの状況が続いており、大きな動きがない限り、現状維持となる。
		住宅販売会社（経営者）	・足元の状況は変わらないと諦めている。
		住宅販売会社（従業員）	・郊外のマンションは売行きが悪いものの、デベロッパー各社は都心物件の販売が好調なほか、資金面での余裕もあり、現状が続くと予想される。
		住宅販売会社（企画担当）	・好転する材料が見当たらない。値上げの動きは緩やかであるが、今後も止まらなると予想される。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	・先行きの見通しが全く立たない。楽観視はできず、悲観的にも考えていないが、大阪・関西万博の閉幕による影響が、地元の景気に少なからず出るため、その変化も含めて注目している。
		一般小売店〔手ぬぐい〕（経営者）	・大阪・関西万博の開催に伴う需要が減る。
		一般小売店〔花〕（店員）	・価格の上昇が続き、客の購買意欲が悪化している。明るい話題はなく、今後も売上の減少が予想される。
		百貨店（企画担当）	・米国の関税引上げによる影響が出てくると予想される。
		百貨店（管理担当）	・リニューアル工事を予定しており、業況は悪化が見込まれる。
		百貨店（商品担当）	・残暑が予想され、例年以上に秋口の衣料品は不振となることが予想される。メーカーも生産量を減らしており、ターゲット層への対応も厳しい。大阪・関西万博が終われば、特段の需要喚起のイベントもなく、単発の来店促進策では売上の大幅な増加にはつながらない。
		百貨店（売場マネージャー）	・残暑が例年よりも長くなる見通しもあり、季節商材の動きが鈍化するリスクを懸念している。四季の変化が年々極端になっており、消費行動に直接的な影響が出ると予想される。
		スーパー（経営者）	・最低賃金の引上げが報じられ、生産性を高める必要性が指摘されているが、対応し切れない。多くの中小企業は、雇用を控えるなどの対策しか取れないため、景気は低迷することが懸念される。
		スーパー（社員）	・客の買物動向は、今後更に慎重になると予想される。価格競争が厳しいなかで、競合店は更なる増加が予定されており、売上は厳しい状況が続く見込みである。
		スーパー（企画）	・食品物価は上がり続けており、来客数や販売量に影響が出ている。米は安定的に供給されているが、価格が高いため、他の食品の買上点数が下がるといった影響がみられる。この傾向はしばらく続くことが予想される。
		スーパー（開発担当）	・物価上昇への対策が打ち出せていない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・大阪・関西万博の開幕で、インバウンドも減少傾向となる。商品の量を増やし、おにぎりやサンドウィッチなどのファーストフードを充実させることで、売上の増加を目指す。
		コンビニ（経営者）	・今後は人件費と利益のバランスが崩れることが予想される。
		コンビニ（店長）	・インバウンド効果の減少が予想される。
		家電量販店（店員）	・消費者には家電の購入を優先する余裕がなく、今後も厳しい状況が続く。年末に向けても期待はできない。
		家電量販店（人事担当）	・気象庁の予報によると、10月の終わり頃まで高い気温が続くため、今年も秋の季節が短くなる。
		乗用車販売店（経営者）	・ロシアによるウクライナ侵攻の問題や、イスラエルの問題も解決の糸口がみえないほか、米国の政策に振り回される状態が続いている。国内的には政権与党の求心力が低下しており、社会情勢が安定して景気が上向くまでには、まだ時間が掛かりそうである。
		住関連専門店（店員）	・賃金などに変化はないが、値上げの動きは止まらないため、生活は苦しくなるばかりである。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・今年の米の価格や、全体の物価が下がることはないため、回復までには時間が掛かる。
		一般レストラン（店員）	・今後も物価上昇の影響が続き、所得が増える見込みもないため、外食を控える動きが増える。
		一般レストラン（店主）	・野菜などの様々な価格がかなり上がっているため、先行きには期待できない。
		観光型旅館（経営者）	・良くなる気配がない。関西圏内の客が大阪・関西万博への来場でお金を使い、1泊2食の家族旅行を控える傾向がみられる。万博終了後に近場の旅行が回復することを期待している。
		観光型旅館（団体役員）	・夏の最盛期が過ぎれば、閑散期に入るため、多くの来訪客は見込めない。
		通信会社（経営者）	・今後も円安傾向の継続が予想される。
		通信会社（役員）	・物価上昇による影響が大きい。
		遊園地（経営者）	・国際情勢を含めて政治の先行きが不透明であり、効果的な景気対策が実施される見込みも薄い。
		その他レジャー〔スポーツ施設〕（業務担当）	・原価の高騰による影響が懸念される。異常気象によって、空調管理などで水道光熱費の負担が増えるなど、明るい材料が見当たらない。
		その他レジャー施設〔球場〕（経理担当）	・9月は大きなイベントや人気歌手のコンサートが開催されるため、集客は期待できるが、プロ野球シーズンが終了となる10月は企業イベントが中心となるため、来客数が減少すると予想される。
		美容室（店員）	・涼しくなるにつれて、客の来店周期が長くなる傾向がある。
		その他サービス〔学習塾〕（スタッフ）	・景気が回復しなければ、教育費の削減が進む。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・金利や物価の上昇による影響が予想されるなか、不動産の取引件数も減少傾向となる。
	×	一般小売店〔貴金属製品〕（従業員）	・減税の動きが進んでいない。
	×	一般小売店〔ガラス細工〕（店長）	・明るい兆しが全くみられない。
	×	一般小売店〔書籍〕（管理担当）	・大阪・関西万博の開幕により、来客数が大きく落ち込むと予想される。
	×	百貨店（売場主任）	・米国の関税問題や国内の政治問題といった不確定要素が多く、安心できない雰囲気や景気に悪影響を与えており、当面はこの傾向が続くと予想される。
	×	衣料品専門店（経営者）	・家計が食料品を購入した予算の残りで、気軽に購入できるような品ぞろえとなっているが、価格の上昇で買いにくい状況が続いている。今後も消費税や社会保険料の負担を減らすといった景気対策の効果が出なければ、消費は回復しない。
	×	衣料品専門店（経営者）	・円高の動きが進み、少し物価の上昇が緩和されない限り、景気は良くならない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	住関連専門店(店長)	・乗客数が伸びず、客単価も下がっている一方、コストは上がっているため、利益の出にくい状態が続いている。
	×	その他飲食[ジャズバー](店員)	・物価の上昇などで乗客数が減っている。
	×	競輪場(職員)	・依然として物価の上昇が止まらず、賃金の増加などが追い付いていない。また、例年はこの時期から悪くなる傾向があるなか、状況を打破する要素が見当たらない。
企業 動向 関連 (近畿)		木材木製品製造業(経営者)	・例年、夏場は売上が落ちるが、今年は例年以上に売上が落ち込んでいる。為替も円安傾向で不安定な動きとなり、輸入の多い当社にはメリットがない。米国の関税による影響で、海外の仕入先から値上げが求められているため、営業活動により一層力を入れるしかない。
		輸送用機械器具製造業(経営者)	・需要の基調が今後は上向くため、8月と比較すると大幅に良くなる。
		食料品製造業(営業担当)	・10月まで大阪・関西万博が開催されるほか、残暑もしばらく続くため、飲料の売上はやや良くなる。
		化学工業(企画担当)	・酷暑による需要低迷やインパウンドの消費スタイルの変化で、食品の需要が低価格品にシフトした結果、収益が悪化している。年末が近づけば、需要は徐々に改善することが期待される。
		電気機械器具製造業(経理担当)	・引き続き案件は増えているが、いつまで続くかは不透明である。取引先からは、今後の物価上昇を見据えた先行投資と受け取れる発言も多い。
		輸送業(営業担当)	・婚礼シーズンになるため、家具が少し売れると予想している。
		その他非製造業[衣服卸](経営者)	・大阪では大阪・関西万博の効果がみられ、東京では世界陸上などのスポーツイベントの計画があるため、当面は活発な状況が続くと予想される。
		食料品製造業(従業員)	・少し涼しくなって購入機会が増えれば、値上げの影響で少しは良くなるが、残暑の影響も長引きそうであり、大きな期待はもてない。
		食料品製造業(管理担当)	・このまま好調なペースが続く見込みである。
		繊維工業(総務担当)	・消費者の生活に余裕が出てこなければ、嗜好品への支出も増えないため、今後も厳しい販売状況が続くそうである。
		パルプ・紙・紙加工品製造業(経営者)	・一部の取引先を除いて、増産の情報がない。
		出版・印刷・同関連産業(企画営業担当)	・大阪・関西万博が終了し、動きはやや落ち着くものの、今後も何らかのイベントが行われると予想される。
		化学工業(経営者)	・前年ほど悪くないが、これ以上良くなる要素が見当たらない。
		プラスチック製品製造業(経営者)	・低成長ではあるものの、現状維持が続くと予想される。従来の製品に対するリピート注文があり、売上の減少を補う形になっている。
		窯業・土石製品製造業(管理担当)	・2~3か月先も、受注量や受注価格は安定している。外部要因の大きな変化がない限り、変わらないと予想される。
		金属製品製造業(経営者)	・受注は低水準での安定した動きが続く見込みである。
		金属製品製造業(製造担当)	・建築資材価格の高騰が続いているため、受注の増加は期待できない。
		一般機械器具製造業(経営者)	・納期の長い引き合いはあるが、受注に至るまでに時間が掛かるため、今後数か月の景況が改善することはない。
		一般機械器具製造業(設計担当)	・過去数か月は変動が少ないため、今後も大きくは変わらない。
		電気機械器具製造業(宣伝担当)	・物価の上昇が続くなか、先行きの不透明感は払拭できない。
	輸送用機械器具製造業(役員)	・受注から実際の売上につながるまでのリードタイムが、平均15か月のまま短くならない。	
	建設業(経営者)	・案件の問合せ状況から判断すると、しばらくは大きな変化がないと予想される。	
	建設業(経営者)	・人手不足や働き方改革による、人件費の高騰が予想される。建設資材価格についても、米国の関税引上げによって先がみえない。また、今後も建設費の高騰が予想されるなか、設備投資計画の鈍化につながる懸念される。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		建設業（経営者）	・物価の上昇に対し、収入の増加が明らかに追いついていない。	
		建設業（営業担当）	・大阪・関西万博が閉幕するものの、しばらくは大型プロジェクトが続く見込みである。	
		輸送業（商品管理担当）	・夏が過ぎれば動きが落ち着いてくるため、大きな変化はない。	
		金融業〔保険〕（経営者）	・特段の上昇要因が見当たらない。	
		金融業（営業担当）	・取引先との会話では、先行きも大阪・関西万博による需要は期待できないなど、景気動向に変化はないと予想される。	
		金融業（営業担当）	・野菜類の価格が軒並み高く、消費者の間で負担感が強まる。	
		広告代理店（営業担当）	・11月頃までは、好調な状況が続く見通しである。	
		司法書士	・会社の設立や増資といった案件がなく、変化につながる要素がないため、大きくは変わらない。	
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・材料費の上昇が続いているが、それに伴う値上げは簡単ではない。	
		その他サービス業〔受託調査〕（調査担当）	・客の給料の手取り額が増えない一方、原材料費が上がり続けているが、客や取引先に対して一定の価格転嫁ができているため、2～3か月先の業況に変化はない。ただし、物価と賃金の状況が今後も変わらないようであれば、1～2年先には悪化に向かうことが懸念される。	
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・夏物商材は決められた数量が3～4月に入ってくるが、今年は早めに販売できたため、売れ残りが出ず、良い状況となっている。	
		化学工業（管理担当）	・米国の関税による影響が出てくる。	
		その他製造業〔履物〕（団体職員）	・好転する要因などが全く見当たらない。	
		輸送業（経営者）	・取引先からは、配送車両を減らすと通知されている。	
		通信業（管理担当）	・下がりかけた米の価格が上向いているほか、気温の上昇で野菜や卵の価格が高騰している。	
		不動産業（営業担当）	・貸店舗の空きが増えており、今後も賃料の低下や空室率の上昇が進むことで、景気は悪くなる。	
		経営コンサルタント	・小売業の取引先では、大阪・関西万博の需要がなくなった後、次の商機を見込んでいる取引先はみられない。	
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・大阪・関西万博が閉幕した後の、消費マインドの低下が懸念される。外国人観光客による消費を期待したいが、駅ナカでは元々利用が乏しいため、大きな期待は持てない。	
		×	輸送業（営業担当）	・労働環境の悪さが原因で人手不足になり、その影響で労働環境が更に悪化するという悪循環が生じている。
		×	金融業〔投資運用業〕（代表）	・せめて景気が悪いときには、消費税率を下げるといった対応がなければ、先行きの見通しは厳しい。
	×	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・基本的には産業構造の変換が必要とみられる。	
雇用 関連 (近畿)		人材派遣会社（役員）	・最近の傾向は年間を通して続いており、今後も続くことが見込まれる。	
		人材派遣会社（支店長）	・下半期に向けて、徐々に改善することが予想される。	
		民間職業紹介機関（営業担当）	・2026年卒の採用予定が充足できず、求人を申し込む企業が増える見込みである。ここ数年は10月の内定式以降にも内定を辞退する学生が多く、年間を通して求人の申込みがある。また、次の2027年卒の求人申込みも動きが早まる見込みである。	
		民間職業紹介機関（営業担当）	・大阪・関西万博で就業中である、大量の派遣社員の業務が終了するため、雇用情勢は少し回復する。	
		人材派遣会社（営業担当）	・現在就業中のスタッフの時給改定がなかなか進まず、物価の上昇に追いついていない印象を受ける。	
		人材派遣会社（管理担当）	・大阪・関西万博も終盤を迎え、閉幕後は就業先が大幅に減少するなか、万博での就業者が流れてくることを期待している。	
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・今までも効果的な対応ができていないため、今後も大きな変化はない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・下半期に向けて、関西企業には大きな動きがみられない。
		職業安定所(職員)	・多くの産業で人手が不足しているが、原材料価格や光熱費などの高騰で収益が圧迫され、求人を控える動きが続いている。今後も物価の動向には注意が必要なほか、米国の関税引上げの影響など、経済や雇用情勢の先行きは不透明である。
		職業安定所(職員)	・求人数は前年並みの水準であり、当面は変化がないと予想される。ただし、最低賃金の引上げによる求人への影響には注意が必要である。
		職業安定所(職員)	・今年度に入って約半年となるが、依然として物価上昇の動きは変わらず、税金や社会保険料などが減少する兆しもなく、消費が増えるとは考えにくい状況である。
		民間職業紹介機関(職員)	・建設業の動向については、いまだ不透明なままである。
		民間職業紹介機関(営業担当)	・しばらくは変化につながる要素が見当たらない。
		学校〔大学〕(就職担当)	・参議院選挙が終了したが、減税などの国民の希望が政策に反映されるかどうかは不透明である。初任給の上昇はみられるものの、それを上回る物価の上昇があるため、減税などが実施されなければ、身の回りの景気判断もなかなか良くならない。
		その他雇用の動向を把握できる者	・利益の圧迫要因の1つに、人件費の高騰も挙げられる。今後は求人の募集動向のほか、最低賃金の63円の引上げによる影響にも注目したい。
		人材派遣会社(営業担当)	・大阪・関西万博の終了後、あふれてくる求職者の受皿となる求人が、現状は見当たらない。
		職業安定所(職員)	・最低賃金の大幅なアップによる、中小企業の負担に対する不安の声が上がっているなど、人件費の負担増や物価上昇による影響が、少なからず出てくるのが懸念される。
		学校〔大学〕(就職担当)	・雇用条件の改善が、物価の上昇ペースに追いついていない。
		学校〔大学〕(就職担当)	・将来的にも景気が良くなる材料が見当たらない。
	x	-	-

## 9. 中国(地域別調査機関:公益財団法人中国地域創造研究センター)

(-:回答が存在しない、\*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (中国)		-	-
		商店街(代表者)	・当市を舞台としたテレビドラマが始まるため、その影響に期待している。
		一般小売店〔靴〕(経営者)	・安いサービスを求める顧客が減り、利益率が徐々に上がっている。
		百貨店(総務・経理担当)	・暑さが和らげば来客数は回復してくる。
		コンビニ(店長)	・夏休みが終わって平常に戻りつつあるが、秋の観光シーズンに入るので、全体的には微減で推移すると考えられる。
		コンビニ(副地域ブロック長)	・猛暑の影響で来客数は伸び悩んでいるが、商品単価が上昇しているため、売上は上昇し続けるとみられる。来客数は天候やイベントで左右されるが、競合店が増えない限り、おおむね横ばいとみられる。
		乗用車販売店(営業担当)	・他の販売店も上向き傾向なので、今後も現状が継続すれば、決算も良い形で締めることができる。在庫の確保もしつつ、今期を締めたいと願うばかりである。
		乗用車販売店(営業担当)	・追加の商品に期待したい。
		乗用車販売店(統括)	・新型車の発表による特需がある。
		その他専門店〔革製品〕(店主)	・年末に向けて、購買意欲が高まってくることを期待する。
		バー(経営者)	・来客数が増加してくる。
		観光型ホテル(予約担当)	・これから紅葉シーズンに入るので、来客数の増加に期待したい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（宿泊担当）	・9月は低調であるものの、例年並みであり、10月以降は団体予約も好調であり、例年を上回ると予測している。
		都市型ホテル（宿泊担当）	・秋の行楽シーズンに向け、前年より個人予約が早く受注できている。
		都市型ホテル（総支配人）	・9月の宿泊予約は前年比マイナス5%だが、10～11月はプラス5%前後となっている。
		通信会社（企画・総務担当）	・競合企業の価格競争から、顧客の価格重視の傾向は今後も続くと考えられる。一方で、通信速度が速い高付加価値メニューへの変更件数も順調に増加している。
		テーマパーク（営業担当）	・秋の行楽シーズンになり、涼しくなれば集客に期待できる。
		商店街（理事）	・猛暑で客足が遠のいている。物価が上昇し、購入品の選択に変化が出てくる。金の使い方が若干変わってくるかもしれないが、どういった方向になるか分からない。景気は良くも悪くもならない。
		商店街（代表者）	・景気が良いときと比べると売上は低く、今後伸びることを期待する。
		商店街（代表者）	・当県は大手自動車メーカーの影響力が強く、米国の関税の先行きが決まるまでは景気が上向き気配はない。
		一般小売店〔食品〕	・商品価格の上昇が続いており、生活必需品以外の商品についての買い控えが続く。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・抹茶の需要はまだ続くとみられる。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・良くなる材料が1つもない。
		一般小売店〔洋裁附属品〕（経営者）	・しばらく暑さは続きそうなので、余り変化はない。
		百貨店（広報担当）	・株価の最高値更新に合わせて、高額品の動きに期待を感じる一方、次の総裁選があるのか否かを含め、政治の先行きが不透明であるため、結果として現状と余り変わらないと考える。
		百貨店（営業担当）	・米国の関税、インバウンドなど、先行き不透明なことが多い。
		百貨店（営業担当）	・中間層が全くおらず、高額なハイブランド商品を求める客と安価な商品を求める客といった2極化に変化はない。
		百貨店（売場担当）	・前年同様、10月下旬まで暑さが続く予報で、シーズン商品を中心に苦戦が予想される。
		スーパー（店長）	・秋に最低賃金上昇の話が出ているが、扶養内で働くパートにとっては収入の壁があり、家庭内の収入は増えない。しかし、食品の値上げは続くので、景気が回復するとは考えにくい。
		スーパー（店長）	・今後も値上げの予定があり、単価上昇が続かなかで、販売点数の伸長が見込めない。良くも悪くもならず、変わらないと予想される。今後、景気が良くなる材料は見つからない。収入面の変化で大きく左右されるが、改善する流れは見えない。
		スーパー（店長）	・買上点数が落ちてきているが、来客数は減少していないので、売上としては現状維持となる。客の節約志向は依然としてみられる。
		スーパー（販売担当）	・今後も値上げ情報が多数あり、状況が変わる雰囲気は感じられない。
		スーパー（販売担当）	・9月も残暑が続き、食卓に大きな変化はないとみられる。
		スーパー（業務開発担当）	・最低賃金が大幅に上がるものの、同じタイミングで商品の値上げが控えており、現状のままでいけるのが非常に不安である。
		コンビニ（支店長）	・最低賃金の上昇による中小企業の経費負担増で、景気の落ち込みが懸念される。
		衣料品専門店（経営者）	・景気が良くなる要素がみえない。
		衣料品専門店（経営者）	・買回品の値上げが止まらないため、どんどん厳しくなっていく。
		衣料品専門店（代表）	・景気上昇には減税による経済発展が必要だ。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（企画担当）	・新しいスマートフォンの発売が予測されているが、市場に大きな変化はないとみられる。特に政策もないため、今と変わらない状況が続く。
		乗用車販売店（経営者）	・現在のところ安定して依頼がある。
		乗用車販売店（営業担当）	・物価高の影響で出費を抑える客が多い状況が長く続いている。金額の安い他社車検やネット保険に切り替える客も増えている。ガソリン暫定税率の廃止で少しでも客の動きが活発になるよう期待する。
		乗用車販売店（リース担当）	・景気が良くなる材料はなく、これ以上悪くならないことを期待したい。
		乗用車販売店（業務担当）	・物価高騰の影響で、当面同じ状況が続いていく。
		その他専門店〔土産物〕（経営者）	・個人商店や中小企業の事業者は人件費が上がることで経営が難しくなるし、価格転嫁できないと聞く。良くなる要素がない。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・来客数が伸びる要素が見当たらない。
		一般レストラン（経営者）	・相変わらず食材の値上げが続き、経費面では賃上げが迫っている。また、猛暑と水道光熱費の値上がりもあって、外食に対する節約は続く。特に週末のファミリー層のディナー利用は減少が続くとみられる。
		一般レストラン（経営者）	・猛暑で農作物が不作である。
		一般レストラン（店長）	・大きく伸びる要素はないが、3か月先まで前年並みの予約が入っており、大きく落ち込むことはないと考える。
		その他飲食〔カフェ〕（店長）	・世の中に変化がない。
		観光型ホテル（副支配人）	・例年、秋の行楽シーズンは施設の利用客が多く、今年も昼の宴会等の予約が順調に入ってきている。
		旅行代理店（支店長）	・秋の繁忙期にどれだけ需要を取り込めるかが課題であるが、先行き状況は国内海外共に前年割れである。
		タクシー運転手	・人の動きがまばらで、良くなる要素はない。天候にもよるが、期待はできない。
		タクシー運転手	・客を刺激するようなイベント等があれば景気は良くなるとみているが、安定的な景気向上はあまり期待できない。
		タクシー会社（営業所長）	・大きなイベントはなく、前年と大きく変わらないとみている。猛暑予報なので、ある程度の集客は見込める。
		通信会社（運用担当）	・物価高による購買抑制が働く。
		通信会社（総務担当）	・現状に慣れてきていることもあり、変化は期待していない。
		テーマパーク（業務担当）	・9月と10月の予約状況は前年の50%程度となっている。残暑を警戒して様子を見ている状況で、連休でもまだ空室がある状態となっている。
		ゴルフ場（営業担当）	・10月以降の予約状況は例年並みに推移しており、今のところ変わらない。秋が短いといわれているため、10月の気候が心配される。
		美容室（経営者）	・継続する物価上昇の影響で、客の節約志向が強まっており、2～3か月の短期間では現状に変化はない。
		美容室（経営者）	・客や人の流れが戻らず、売上に結び付いていかない。新型コロナウイルス感染症の収束後は大変な状況となっている。
		設計事務所	・案件の相談量が減っていないため、業務が今の段階で激減するとは考えられない。
		設計事務所（経営者）	・建築物価はまだ値上がりしており、現場の人手不足もあいまっている。
		設計事務所（経営者）	・収入の伸びが期待できないため客の反応は弱く、悪い状態は続く。
		住宅販売会社（住宅設計担当）	・情報獲得量の回復を図るため、今までとは異なる施策を実施しているが、成果が出るまで時間が掛かるとみられる。
		住宅販売会社（事業推進担当）	・経費削減や劇的な賃上げ施策でもなければ、悪化はなくても、現状維持が続く。
		百貨店（外商担当）	・残暑により秋冬商材の売上が厳しくなり、前年実績をクリアすることは難しくなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・お盆期間中の数値の動きを見ると、牛肉や酒類といった高単価商品の動きが鈍く、お盆らしさがみられなかった。当店は流入店舗であり、近年まれにみる商品の動きとなった。
		スーパー（店長）	・来客数が増えない状況が続く。9月に多くの商品の値上げが予定されており、米価格が依然として高止まりとなっている。来客数は減少しても、商品単価の上昇の影響で売上は前年並みとなる。
		スーパー（営業システム担当）	・10月一杯まで気温が高い傾向との予測が出ており、冬物商材の売行きに不安が出ている。米価格も高値のままであり、コーヒー等の嗜好品も値上げの傾向で、節約志向はより強まっていくと予想される。何らかの物価高対策がない限り、消費が増えることはないとみている。
		スーパー（財務担当）	・物価の上昇による節約により、1人当たり買上点数が前年を下回る状況が続く。
		衣料品専門店（経営者）	・外出する人が少ない。
		家電量販店（店長）	・商品が壊れないと買換えの動きはなく、今より景気は悪くなる。
		家電量販店（副店長）	・夏の暑さが和らぐと、特にエアコンと冷蔵庫の需要が低下すると思われる。来客数も前年を割っている状況なので、景気が悪くなる。
		自動車備品販売店（経営者）	・株価が上がっても一般消費者には関係なく、生活必需品以外の商品の売上は、物価高によりますます低迷する。
		その他専門店〔宝石店〕（店員）	・地金相場が影響する業種なので、値上がりは止まらず、客離れが継続している。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（支配人）	・猛暑が長引く可能性があり、端境期の商売が難しい。
		高級レストラン（事業戦略担当）	・夏休みが終わり、話題も少ない。
		一般レストラン（経営者）	・じわじわとインフレが進んでおり、何もかも高くなり、景気が良くなる気配はない。
		通信会社（企画担当）	・今月は移動や旅行を契機としての消費増加となったが、クリスマスや正月の時期まで、同様の購買機会は期待ができない。
		通信会社（営業担当）	・気温上昇や食品の値上げなどの経済的影響により、消費減退が予想される。
		放送通信サービス（総務経理担当）	・物価高に加え、米国の関税の影響が懸念される。
		通信会社（広報担当）	・客が価格の安い物を求める傾向は変わらない。
		競艇場（企画営業担当）	・8月のレースと同等の売上が確保できるレース開催がない。
		美容室（経営者）	・物価高や光熱費、社会保険料など、出ていくものが増える速度の方が売上増よりも早く、なかなか利益に結び付かない。
		住宅販売会社（従業員）	・米国の関税や倒産件数の増加など、景気が徐々に悪化してくる話題が多い。
	×	一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・メーカーから更に値上げ要請が来ており、商品単価を上げざるを得ないが、その負担は消費者にお願いするしかない。
	×	コンビニ（エリア担当）	・当県にはインバウンドがほとんど来ない。来月には、菓子、アイスクリーム、酒、加工食品、調味料の値上げが予定されており、一般の客も高単価のコンビニにはなかなか足が向かない。今後も厳しい状況が続く。
	×	自動車備品販売店（経営者）	・薄利多売の業界なので、商品粗利がこれ以上減少すると厳しい状況である。
	×	任関連専門店（営業担当）	・来客数の減少が止まらない。具体的な景気回復の施策がないと、耐久消費財の家具販売はとて厳しい。
企業動向関連		輸送用機械器具製造業（経営者）	・新車が立ち上がるため忙しくなる。
		輸送業	・受注が増えている。
		不動産業（総務担当）	・賃貸住宅の需要時期であり、多少良くなると期待する。
(中国)		農林水産業（従業員）	・好転する要素がない。
		食料品製造業（営業担当）	・値上げを予定している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		繊維工業（財務担当）	・もうしばらく現在の気候が続くが、季節の変わり目の秋が短くなり、季節ならではの消費が鈍化する。
		化学工業（総務担当）	・欧州や中東を中心に不安定な海外情勢が続くことが予想される。
		鉄鋼業（総務担当）	・人手不足解消の見込みはなく、景気回復の兆しがみられない。
		非鉄金属製造業（業務担当）	・電子材料関連のメーカーは足元好調であるが、一部のメーカーは需要の先食いともみられる。
		一般機械器具製造業（管理担当）	・現在の国内市場、海外市場とも大きな変化をもたらす要因が今のところ見当たらないことから、特に変わらないと見込んでいる。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きに変化はない。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・半導体需要は回復傾向がみられるものの、想定よりも遅れている。液晶パネルの需要回復はないが、電子部品の実装需要は回復傾向が続いている。
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	・受注先の内示情報から、景気に変化はない。
		建設業（経営者）	・建設コストの高騰で受注契約まで至らないまでも、取引企業の投資意欲はつかがえるため、景気は現状維持となる。
		建設業（総務担当）	・物価上昇や働き方改革の共通認識が深まり、交渉面で比較的スムーズに推移している。景気は現状が継続するとみられる。
		輸送業（営業担当）	・顧客から、当面、輸出案件が延期されると聞いている。
		輸送業（業務推進担当）	・特に大きなプラス要素やマイナスの要素もなく、取引先の動向にも目立った様子はない。
		輸送業（企画担当）	・海外情勢は当面変化がないとみられ、物価の上昇も余りみられない。
		通信業（企画担当）	・大きな地政学的リスクがなければ、クラウド、データセンター、セキュリティ関連の需要は継続的、安定的に見込まれる。客も計画的な更新計画を立てており、大きく減少、減収になる可能性は極めて低いとみる。
		金融業（経済産業調査担当）	・多くの企業で賃上げが不十分ななか、家計の節約志向は続くともみられる。
		広告代理店（営業担当）	・物価高の影響により、前年度と比較して全体的な売上が伸び悩んでいる。特に大手企業の地方掲出が減少傾向にある。
		会計事務所（経営者）	・人件費増加に向けて労働分配を増やすには生産性向上が避けられない。米国の関税の影響などマイナス懸念も多い。
		食料品製造業（経営者）	・9月に値上げが予定されており、商品動向に一段と注意を払い、改善を検討することになる。賃上げも含め、経営は大変厳しい状況となる。
		化学工業（総務担当）	・米国の関税等の理由により、モノの動きが様子見の状態である。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・輸出向け対応は一過性であり、この対応が終わると以前の生産水準に戻る。
	鉄鋼業（人事・総務担当）	・受注が減少する。	
	金属製品製造業（総務担当）	・工作機械の客先からの中国向け特需による受注が9月で終わるため、仕事量の確保が課題となる。他業界からの受注獲得に注力していくが、少なくとも一時的な落ち込みはある。	
	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・米国の関税の影響で、取引先で生産量の見直しがされている。	
	金融業（副支店長）	・当地域内の中小零細企業は大手プラント企業の業績に大きく左右されるため、現状大手プラント企業の不調が続いていることもあり、今後も景気はやや悪くなると想定される。	
	x	-	-
雇用関連		-	-
(中国)		人材派遣会社（求職者対応）	・最低賃金が改定される時期に、別の派遣先の検討が増加する見込みである。
		人材派遣会社（事業部長）	・米国の関税の影響は徐々に小さくなっていくため、半導体関連と自動車関連からの新規求人数は回復していくとみられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		民間職業紹介機関（職員）	・ 乗年以降毛駅周辺エリアに中規模、大規模ホテルの開業が計画されており、インバウンドを取り込むキャパシティを増大している。実際に国内外からの観光客も前年比で増加しており、外国人に至っては約70%増を記録している。
		民間職業紹介機関（人材紹介・派遣担当）	・ 取引先から、お盆明け以降も中途退職が発生する話を聞いているため、引き続き有効求人数は増える見込みである。
		人材派遣会社（経営企画担当）	・ 人件費と物価の上昇が求人にとどの程度影響するか注視している。
		人材派遣会社（支店長）	・ 10月に年内最後の大きな動きがあるとみているが、これまでの傾向に鑑みて、余り大きな変化があるとは思えない。
		求人情報誌製作会社（総務担当）	・ 繁華街の集客が悪いなど、景気回復につながる場面がみえてこない。
		求人情報誌製作会社（新卒採用担当）	・ 自動車関連企業において、米国の関税による売上への影響を懸念する声もある。それによって、2027年の新卒採用数は減少する可能性もある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・ 更に悪くなるとは考えられないが、現状のままでは、地域企業、特に製造業、サービス業、流通業は大きく影響を受けることになると、経営者は口をそろえている。
		職業安定所（事業所担当）	・ 管内企業からは、米国の関税による企業活動への影響については、今のところ聞こえてこない。また、景気上昇の要因も見受けられない。
		求人情報誌製作会社（大卒就職支援担当）	・ 米国の関税の影響が懸念される。
		職業安定所（職員）	・ 米国の関税により大手自動車メーカーが生産調整をしていくとみられる。そのため、自動車関連会社の雇用に影響が出ており、特に派遣労働者や外国人労働者、高齢者への影響が大きい。今後も、米国の関税の影響が続く可能性は高く、景気悪化の可能性はある。
		職業安定所（事業所部門）	・ 最低賃金の大幅な引上げの影響で、中小企業を中心に採用の抑制や人員整理が懸念される。
		学校〔短期大学〕（進路指導担当）	・ 求職者不足や米国の関税など、景気にマイナス影響を与える要因があるが、景気を下支えするプラス要因は見当たらない。このため、今後は景気が相対的に悪化する可能性が高いとみられる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・ 米国の関税の動きが不透明である。
	×	職業安定所（職員）	・ 10月の最低賃金引上げの影響で景気は悪化する。2年連続の大幅引上げにより、多数の事業所から経営ひっ迫の声が上がっている。商品価格へ転嫁せざるを得ないが、それが難しい場合、従業員の解雇や廃業も視野に入れざるを得ないという声が聞こえてきている。

#### 10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (四国)		商店街（代表者）	・ インフレの状況にもよるが、株式市場の好調が続く間は個人消費は安定する。新NISA等の影響で個人の株式市場参加は増大を続ける。大きな時代変化のなかで可処分所得をどう確保するか、株式市場と個人消費の関係は重要性を増している。
		スーパー（店長）	・ 秋の観光、行楽シーズンの到来により、今より更に人流が活発化する。
		スーパー（企画担当）	・ 今年度も商品の値上げは継続しており、今后来客数の増加以上に売上が増加する。
		コンビニ（総務）	・ 前年の秋口は売上が減少した。今期は前年に比べて堅調であり、芸術祭の秋開催も始まることから売上は増加する。
		通信会社（営業部長）	・ 新サービス、新商品などにより売上は増加する。
		商店街（代表者）	・ 秋冬向けのイベントを予定している。また、新たな飲食店の出店も予定されており、今後好調な状態が続く。
		商店街（代表者）	・ 年々気温が上昇しており夏季期間の来店客数が暑さの影響なのか減少している。まだ少しの期間は残暑が続くため客が活発に動く傾向にはなく、難しい状況になる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（常務理事）	・国内観光の客数増加に支えられて、商店街のにぎわいや活気は継続する。ただし、地元の一般消費者は物価高に慣れてきている様子もつかえるが、消費意欲の回復には今しばらく時間がかかる。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・記念日祝いや開店などの祝い商品の予約は入ってきているが、余分な贈物は削減し節約していつている様子がみられる。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・物価高に加え、商品の継続した値上げで、消費者の節約志向は継続する。
		百貨店（マネージャー）	・物価高が当分継続する。
		スーパー（企画担当）	・日中の気温上昇により、客は日中の買物を控えているとみられる。また、集中豪雨などの急な天候変動による影響を受けている。
		スーパー（人事）	・賃金上昇などによる、実感ある景気回復に時間を要する。
		スーパー（財務担当）	・物価高による節約志向がより顕著になる。
		コンビニ（店長）	・最低賃金の引上げが近いが、それにより物価上昇を補う所得増とはすぐにはならないため、しばらく今の状況が継続する。
		衣料品専門店（経営者）	・長期の気象予報においては猛暑が続くため、秋物衣料品は苦戦する。
		衣料品専門店（経営者）	・まだ暑さと物価高は続くと思われるため、これから先も売上は厳しい。
		衣料品専門店（営業責任者）	・暑さが厳しいため、今後の来客数への影響を懸念する。前年が非常に悪かったので今後の回復を期待するが、客との会話からは物価高への印象が強く、今と同様に厳しくなる。
		家電量販店（副店長）	・物価高の影響にて節約志向が高まってきている。家電が故障するまで使用する人が多く来客数が伸びていない。
		乗用車販売業（営業担当）	・人気車種は販売停止や台数制限があるため売上増加にはつながらない。
		乗用車販売店（従業員）	・良くなる要因も悪くなる要因もない。当面、現状のままである。
		乗用車販売店（役員）	・米国の関税問題等、世界情勢が不透明のため、景気がどう動くか分からない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（館長）	・引き続き県外客、インバウンド共に好調な推移が見込まれるが、今月より少し落ち着く。
		一般レストラン（経営者）	・今が良い状態ではないが、この状態が変わらないとみられる。
		観光型旅館（経営者）	・今後2～3か月は前年同期よりも上回っている。
		都市型ホテル（経営者）	・宴会を中心に飲食の動きが余り良くない。9月以後も暑い日が続く予報であり猛暑と物価の上昇もあり外出控えがしばらく続く。
		タクシー運転手	・客の状況に大きな変化はみられない。猛暑が続く外出を控える人が多く、家計も厳しい状況が続いていると客から聞いている。クルーズ船の寄港もあるが、タクシー利用者はごく一部であり、売上に影響はない。
		通信会社（支店長）	・他社も含め料金プランの見直しが行われているが、格安スマートフォンへの移行が急激に伸びているような状況にない。
		通信会社（営業担当）	・来客数は安定してきているが、値上げの影響もあり単価は伸びていない。
		観光遊園地（主幹）	・周辺で大きく変わる要素はないが、インバウンドなど大阪・関西万博終了に伴う影響を注視する必要がある。
		競艇場（マネージャー）	・秋になると、気温も過ごしやすくなり、屋外の遊興にも客足が向く。
		設計事務所（所長）	・建設業関係業者は、売上が好調である。しかし賃金へ反映されておらず、生活への反映には時間が掛かる。
		一般小売店〔文具店〕（経営者）	・例年どおり年末に向けて注文が増加する。ただし、閉業した取引先があることから、その分注文が減少する。
		スーパー（店長）	・買上点数が減少傾向にある。
		スーパー（統括担当）	・物価高が続く不安は大きい。
		コンビニ（店長）	・来客数減少に歯止めがかからない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（商品担当）	・急激な気温の上昇、猛暑で米や野菜の生育に不安があり、飼料にまで影響すると農産、畜産が厳しい。
		家電量販店（店員）	・買換え需要が一段落し、価格上昇の影響で売上は減少する。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・夏商戦と年末商戦の間であり、売上は少し減少する。
		旅行代理店（部長）	・政局不安や物価高騰等の不透明感がある。
		美容室（経営者）	・9月、10月は客が動かない。
	x	美容室（経営者）	・最低賃金が上がるとみられ困っている。現状で値上げも厳しくて全ての商売に最低賃金を設定されても成り立たない。
企業 動向 関連  (四国)		食料品製造業（商品統括）	・最低賃金引上げによる所得の増加が全国的に起こり、購買力の増加につながる。
		木材木製品製造業（営業部長）	・秋に向けて住宅着工件数が大幅な増加基調に向かっている。受注量の回復に期待している。
		電気機械器具製造業（経営者）	・気温上昇、また、その対応が喫緊の課題となっており、再生可能エネルギー、温暖化ガス削減に関する事業においては追い風が吹いている。
		金融業（副支店長）	・物価高騰が一巡し、社会全体が慣れてきており、消費が上向いている。
		食料品製造業（経営者）	・最低賃金が大幅に上がり、価格に転嫁できないため、更に原価率が上がり利益が圧迫される。
		繊維工業（経営者）	・製造段階での加工賃値上げラッシュや人件費高騰の要因があり、一部商品を今年末に値上げ予定である。現状は売上は順調であるが、今後値上げによる販売数減少により売上が減少するとみられる。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経理）	・為替変動により資材も高騰したままであるため、価格転嫁していかないと利益を出しづらい。卸売業や小売業は値上げ受入れに消極的なので値上げを実行しづらい。
		化学工業（所長）	・物価上昇が収まらない不安感から景気が回復する可能性は低い。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・米国の関税による影響や地政学的リスクの高まり等により、先行きの不透明感が増すなか、世界経済は下振れする。
		電気機械器具製造業（経理）	・米国の関税の先行きに不透明感や相変わらずの円安、物価高に改善の兆候がみられない。
		建設業（経営者）	・今の状態が急激には変わらない。
		輸送業（経営者）	・我々中小企業では金額をなかなか変えることは難しい。
		通信業（企画・売上管理）	・当月並みの推移を見込んでいるが、実態としては前年比では100%を切ることになる。
		通信会社（総務担当）	・受注見込みの積上げも落ち着いており、年度目標が達成するか、不透明である。
		広告代理店（経営者）	・アリーナのオープン後、ホテル、旅行等の観光関連の客先は多少広告販売促進費が増えている。一方、物価高もあり小売流通関連客先は低調である。全体としては変動はない。
	建設業（経営者）	・利上げ予想、物価上昇等により、先行きは厳しい。	
x	-	-	-
雇用 関連  (四国)		-	-
		-	-
		人材派遣会社（総務部長）	・求職者の動向や最低賃金の引上げ動向により、大きな変化はない。
		人材派遣会社（マネージャー）	・2～3か月の短期スパンでは変わらない。
		人材派遣会社（オフィス責任者）	・良くも悪くも変化のきっかけがない。
		求人情報誌（営業）	・景気の状態を改善するための人手不足解消、高騰する人件費への対応が、中小企業にはハードルが高く、改善する見込みが立っていない。そのため景気は横ばいとなる。
		職業安定所（求人開発）	・中東情勢等を背景とした原油価格や米国を中心とする金融、為替市場の動きも不安材料となっている。
		民間職業紹介機関（所長）	・今後数か月間で景気動向が大きく変化するとは考えられない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・恒常的な人手不足要因である。
	求人情報誌製作会社（経営者）	・前年の実績から、求人数の増加数よりも減少数の方が多いため、厳しい。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・地方では中小企業しかないためその景気が浮揚しない限り厳しい。
	x	-	-

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (九州)		住関連専門店（従業員）	・景気が良くなる理由が2つあり、1つは高単価の秋冬商材が動くことで、もう1つはプレミアム付商品券が予定されていることである。特に今年はプレミアム付商品券を地域で導入して以来最高額となっており、繁忙期であるこれからのキャンセル剤として大いに期待している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・旅行シーズンを迎えるに当たり、現時点でも販売量や単価共に高水準となっており、週末のイベントや月間の学会等が数多く入っていることから、更なる上昇が予想される。
		商店街（代表者）	・気候異常が続いており、今までの常識や経験では判断できず、客も戸惑っている。先読みができれば消費行動も元に戻り、現状に比べて良くなると期待している。
		百貨店（リーダー）	・行楽シーズンに向けて外出用の需要が高まると予想される。
		スーパー（経理担当）	・販売量の伸びは、購買意欲の上昇と捉えており、景気は良くなると予測している。
		コンビニ（経営者）	・例年、売上が落ちるお盆過ぎも好調を保っている。アイスや飲物のついで買いで客単価が好調である。
		乗用車販売店（役員）	・9月の仮決算商戦に向け、イベント企画を進めている。合わせて、新たにマイナーチェンジする車種が販売されるため、来客数や注文数が期待できる。
		乗用車販売店（役員）	・メーカーからの配車供給量の増加が見込まれ、販売量の増加とともに業績回復に期待している。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・2～3か月先の気候は秋へと季節も変わり気温が下がるため、コーヒーの需要が多くなり、売上が増加し景気が良くなると予想している。
		高級レストラン（経営者）	・今月が最悪の状況で、これ以上落ちることはないと考え、来月には少しましになるだろうと予想している。しかし、この良くなる水準は低く、飲食業全体の景気は人も少なく厳しい状況である。
		観光型ホテル（営業）	・受注状況を見る限り、ある程度の回復は見込める。
		旅行代理店（統括者）	・本年上半期は厳しい状況であったが、秋口以降の旅行需要に期待している。
		タクシー（統括者）	・効率良い配車を目指し、システムの改善を実施し、運用の変更に着手している。
		通信会社（社員）	・販売量の前年比が順調に推移しており、今後も伸びると予測している。
		観光名所（従業員）	・秋の行楽シーズンに差し掛かり、客の入込が増えることを予想している。
		ゴルフ場（従業員）	・気温が下がれば来場者が戻ると期待している。
		美容室（経営者）	・おしゃれ産業では、秋口になると装いに変化があり、客の動向に変化が出て、若干の向上があると予想している。例年年末に近づくにつれて、メーカーでも新製品を出してくるため、景気は少しずつ上向いてくる。
		理容室（経営者）	・業種的に、今年は特に暑いため来店サイクルがいつもより短い、涼しくなるとサイクルが延びるため今後半ほどは期待できない。
		商店街（代表者）	・長期予報によると、今年は暑さが10月以降まで続き、秋が来ないことを懸念している。
		商店街（代表者）	・前年から続いている物価高には消費者は厳しく対応しており、無理せずに資金を使用していることもあり、少しずつ景気回復を感じる時もある。
	商店街（代表者）	・生活用品等様々な物が値上げし、物価高で景気が良くなる要因が全く考えられないため、今のようなやや悪い状態が続くと予想している。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・気候が落ち着き、暑さがしのぎやすくなれば多少来街者数の増加が考えられる。物価高騰が収まり、年金受取額が増えなければ財布のひもは固く、景気回復には程遠いと考えている。
		商店街（代表者）	・季節感を出している食品の売行きは変わらず好調で、飲食店は若干にぎわっている。しかし、価格の高い商品を扱っている小売店では厳しい経営をしている。
		商店街（代表者）	・現状が変わらないため、今後もこの状況が続くと予想される。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・例年3か月先には地元農産物が出るため商品は落ち着くが、このまま暑さが続くということで今後の野菜の供給がどうなるか、状況は厳しくなると予想している。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・物価の上昇だけではなく、原材料の仕入価格も上がっている。少しでも涼しくなれば来客数は増えていくが、ここ数か月での極端な変化はないと予想している。
		百貨店（企画担当）	・現時点での株価好調などの要素はあるが、政権の先行きも不透明であり、影響の見通しが非常に立ちづらい状況である。
		百貨店（企画担当）	・長引く暑さの影響もあり、季節実感型で購入する傾向が多く、秋物の需要がどこまであるか不透明である。
		百貨店（企画担当）	・今後2～3か月の間で、消費に影響を与える要素は少ないとみられ、現状のままと見込まれる。
		百貨店（営業担当）	・紳士・婦人雑貨、インテリアの自家需要商品や嗜好性の高いブランド品、舶来雑貨は価格の上昇はあるものの購入意欲は高く、客単価及び商品単価が堅調である。災害復旧や県内火山活動が活発化しているが、国内外のクルーズ船寄港増加によるインバウンドや秋の国内観光客の特産品の需要増加や家族連れでの来店増加で周辺商店街を含め、人の動きが期待できる。また、友の会のカード化やプレミアム付商品券、各種コード決済、クレジット決済の利用により、自家需要やギフト、国内外の観光需要と客単価の購買が期待できる。
		百貨店（業務担当）	・賃上げを実感している客の話を聞いたことがない。地方では、人手不足もあり、営業時間の短縮や店休日を増やす店も多い。そうした状況のなかで、客が金を使う場所も減り、景気が良くなると考えている人は少ない。
		百貨店（営業企画担当）	・足元景気や天候も明るい兆しが見当たらないため、悪い流れは変わらない。
		百貨店（経営企画担当）	・秋らしく気温が低下するのはまだ先であるという予報もあり、消費マインドの低下が継続しており、衣料品等の売上に期待することが難しいため、景気が厳しい状況はしばらく継続する。
		スーパー（店長）	・猛暑による物価高騰も出始めており、更なる物価高騰の懸念もある。物価高騰支援策も思うようには進まない予想され、先行きの景気はさほど変わらないか悪化する可能性がある。
		スーパー（店員）	・売上が若干でも良くなってほしいが、新米価格は上昇しており、気候は不安定であるため葉物野菜は高騰し、トイレットペーパーや洗剤も原材料価格の高騰により価格上昇が続いている。また、賃金上昇は見込めておらず、景気の上昇は見込めない。
		スーパー（総務担当）	・最低賃金が上がっても、現行の税制や生活習慣、価値観では労働時間の短縮につながりかねず、なかなか消費者の可処分所得上昇とまではいかない。一方で、雇用側では毎年の最低賃金上昇分の収益を上げられるか厳しい現実がある。賃金・雇用・生産の日本独特の文化の抜本的変化でもない限り、景気が目に見えて上向くとは考えにくい。
		コンビニ（経営者）	・景気が良くなる要素はないが、悪くなる要素も見当たらない。景気は横ばいで推移すると予測される。
		コンビニ（経営者）	・残暑は続く予想されるが、夏型商品の代表である冷たい麺類やアイスクリーム等は、嗜好の変化から販売が下降しており、前年比では横ばいの見込みである。
		コンビニ（エリア担当）	・経済対策に期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店	・良くなる要素や悪くなる要素、それぞれ具体的にイメージできる事項がない。
		衣料品専門店（店長）	・日常商品の値上がりが続いているが、生活必需品の買物はしなければならぬため、おしゃれ着などは後回しや買い控え傾向になり、景気は悪くなると予想される。
		衣料品専門店（取締役）	・3か月先の11月に景気が良くなるとの発想は全く浮かばず、引き続き企業努力で臨みたい。
		家電量販店（店長）	・好転するような材料がないため悪い状況が続いており、しばらくは厳しいとみられる。
		家電量販店（店長）	・先行きの不透明感が拭えないと、冷え込んだ消費活動は回復しない。
		家電量販店（店員）	・消費者が実感できるような景気の好転がない。
		家電量販店（従業員）	・需要のピークが過ぎ、買い控えが増えることが予測される。
		乗用車販売店（従業員）	・閑散期に入り、来客数が減るため変わらない。
		乗用車販売店（代表）	・景気が良くなるような要因が見当たらない。
		住関連専門店（経営者）	・米国関税と米不足の影響が出ており、物価が上がっている。生活必需品への支出はあるが、耐久消費財である家具類まで金が回らない状況である。
		その他小売の動向を把握できる者[ショッピングセンター]（統括者）	・中国との政治状況によりインバウンドが減少しない限りは、現状の景気が続くとみられる。
		観光型ホテル（専務）	・先の予約が例年のように入っていない。団体の動きが特に悪い。
		旅行代理店（職員）	・大阪・関西万博の終了により需要が減少する想定をしているが、秋のバスツアーの販売は堅調となる予測している。
		旅行代理店（統括者）	・米国関税により仕入価格が上昇しており、加えて、11月から米国内の国際線一部の撤退等による影響が懸念される。
		タクシー運転手	・来月は県外のゴルフ客に期待している。
		タクシー運転手	・来月もまだ猛暑が予想されるため旅行客の減少が考えられ、タクシーアプリの増加は増えており、現状維持が続くものと予想される。
		通信会社（役員）	・一部を除き地場経済に景気回復の兆しがみえない。食品等生活物資の全国的な値上げが続き、各世帯での支出の見直しが継続している。
		テーマパーク職員	・冬は来館者数が鈍るのが通例で、ピークシーズンの夏と比較すると来館者数は減少する。しかし、2025年度の来館者数は前年並みであるため、2～3か月先も前年並みに推移するものと予想している。
		ゴルフ場（従業員）	・10月以降に値上げを計画しているが、予約は堅調に推移している。
		競馬場（職員）	・現状では景気動向を左右する要素は見当たらない。
		美容室（経営者）	・先行きはやや悪くなると予想している。給付金が金のばらまきという声もあるが、この施策で助かる人もいるため、国民への保証の施策に期待している。
		美容室（店長）	・賃金は上がるようだが、周辺での景気の状態は変わらない。
		その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・最低賃金について、予想よりも大幅な上昇で答申が行われたことから、今後パートやアルバイトの採用が一層難しくなると考えられ、受注機会損失につながる可能性がある。また、社会保険料など各種の壁の対策など予見することが難しい状況である。
		設計事務所（所長）	・通常2～3か月で結論が出ており、仕事しての結果は現状と変わらない。
		住宅販売会社（従業員）	・一部予算枠終了の住宅支援事業もあるが、その他支援事業は継続中でもあることから客の動きは今後も継続する。
		商店街（代表者）	・長期気象予報ではこの暑さは11月まで続き、加えて、物価高騰で一般消費者の生活が厳しくなっていることから外出を控えている。そのため、来客数が減少し、売上も悪くなっており、今後も回復する見込みの要素がない。
		一般小売店[精肉]（店員）	・原材料費、人件費などの高騰が続き、粗利や営業利益を圧迫しており、思ったほど利益が残らないのが現状である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔生花〕 (経営者)	・10～11月は花を消費に使うイベントがなく、気候は良くなるがお供えの需要がある8月より売上が落ちると予想される。
		百貨店(経理担当)	・物価高により依然として食品等の売上に影響を及ぼしている。消費マインドも弱く、温暖化の影響もあり、売上の中心である婦人服等の売上が今後も期待できない。
		スーパー(店長)	・現状の景況感は良くないと判断している。最低賃金上げが予定されており、各企業の収益を圧迫すると考えられる。企業としては価格転嫁する可能性もあり、より一層の単価上昇も予想され、消費意欲の減退が懸念される。景気後退の要素が大きいと考えている。
		スーパー(企画担当)	・今後も価格転嫁が進んでいくことを想定するが、可処分所得が増える見込みはなく、買い控えが進み消費の冷え込みに直結することが懸念される。
		コンビニ(経営者)	・人件費が増えるため、やや悪くなる。
		コンビニ(経営者)	・店の前の道路工事によって、3か月後に大幅な拡張と中央分離帯ができることで、駐車場に入りづらくなることが予想される。そのため、来客数の大幅な減少が見込まれ、売上減少が予測され、厳しい経営状況が続くとみられる。
		コンビニ(エリア担当・店長)	・残暑が続くと飲物やアイスクリームなどの購入は変わらず推移するが、値上がりしたおにぎりや冷たい麺、総菜などの買い控えが続くと予想している。
		その他専門店〔書籍〕 (副店長)	・1階テナントのオープンによる集客が一段落するため、やや売上が悪くなると予想している。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕(支配人)	・現時点が特需で湧いているにすぎないため、2～3か月先では落ち着いてしまっていると想定している。最低賃金の件や米騒動がどう作用するかは読み切れない部分があるものの、少なくとも現在の話題作に匹敵するコンテンツはないため、当館としては少し悪化すると予測している。幾つか新店も計画があるため、そこには期待している。
		観光型ホテル(管理)	・夏の来客数を前年と比較すると減少気味である。暑さもまだ続くと考えられ、先行きの景気もやや悪くなると予想される。
		観光型ホテル(支配人)	・8月は順調であったが、先行きとしては物価高騰、賃上げ等の影響で動きが鈍化している。
		都市型ホテル(販売担当)	・10月の問合せが低く、11～12月がメインになっている。
		通信会社(営業担当)	・物価高にあり、業界や企業団体の積極的な賃上げがなければ何も進まない。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕(管理担当)	・10月からの最低賃金の引上げ額が過去最高となり、公定価格である介護報酬は価格転嫁ができないため、賃上げにも限界がきており、他業界への人材流出がより一層顕著になると想定される。
		設計事務所(代表)	・物価上昇や金利上昇の影響で、やや悪くなる。
		住宅販売会社(従業員)	・政権政党に対する風当たりを報道するより、現状の景気対策や災害対策をきっちり行わなければ景気は良くならない。インバウンドばかりに頼っていると足をすくわれることが懸念される。
	×	一般レストラン(スタッフ)	・物価高が続いており、値上げで客足も遠のき、利益の減益が続くと予想される。
	×	スナック(経営者)	・連日の酷暑で街に人が出ておらず、前年は98円だったチョコレートが今は158円、米は前年の2倍と物価の上昇もひどい。新米が出ても価格が下がる気配はなく、減税や給付金の話も立ち消えとなり、賃金上がるのは一部の大企業だけであるため、景気は良くならない。
	×	通信会社(企画担当)	・販売促進キャンペーンの効果が出ておらず、そのコスト負担が重い。そのため景気は悪くなる。
企業 動向 関連  (九州)		*	*
		出版・印刷・同関連産業(営業担当)	・大口の地図販売の予定が入っているため、売上が若干良くなる。
		化学工業(総務担当)	・前年比では損益は回復傾向にあり、同様の状況が続くと予想している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業（取締役）	・原価や人件費の増加を見込んだ総合的な自社の経費削減策や付加価値を提供することで、取引先への深耕を図る必要があると考えている。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・現時点では関税などの影響は受けておらず、前月の内示計画より上振れになっており、年間台数も客先での上振れを予測している。
		経営コンサルタント（社員）	・今月、新しい販売促進資料を作成したことによる効果が期待できる。
		農林水産業（経営者）	・前々年の鳥インフルエンザの影響で、秋口以降原料となる鶏が不足することが予想される。9月、10月は行楽シーズンで需要も期待されるが、機会損失が発生しそうである。特に冷凍メーカーは秋口に生産量の増加を図るため引き合いが強いが、手の打ちようがない。今後は、冬に向かって新たな鳥インフルエンザの発生を懸念している。
		家具製造業（従業員）	・作業の仕掛かりや案件を含め、景気が好転するほどの情報がなく変化はない。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・新しい商品群が決定しそうであるため、先行きは変わらないと予想している。
		一般機械器具製造業（経営者）	・零細企業では、取引先の状態により大きく左右される。また、当社の部品が客の製造している電気機器や自動車などの、どの部分を主体に使われているかで、若干部品内容が変わってくる。当社では輸出している製品を主体に製造しているため、関税の問題は先行きに大きく影響する。
		電気機械器具製造業（経営者）	・3か月先も受注に大きな変化はない。
		その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	・受注が少なく従業員を計画的に休ませている顧客が一定数あり、以前の景気は戻ってきていない。
		輸送業（従業員）	・物価の上昇により、買物をより安く購入するため、ディスカウントショップに代わってきている。
		輸送業（従業員）	・輸出入共に不振であり、国内販売に頼っている状況である。新規案件もあるが物量や本数が少なく、景気回復にはまだ時間が掛かる。
		輸送業（総務担当）	・米国の関税による影響は落ち着いたが、物価が更に上がっていることが懸念材料で、物流の動きとしては大きな変化はないと予想している。
		通信業（職員）	・今年度の受注目標と比較すると、営業件名情報が不足している。8月までの営業活動及び情報収集が充たできておらず、受注量が伸びない可能性がある。
		通信業（経理担当）	・顧客の投資意欲は変わらず高いままである。引き合いはあるものの、リソースが足りずに対応できない場面も出てきている。
		金融業（経営者）	・これからの受託の引き合いは不明であるが、規模が小さな調査は出ており、それを受託すると今後大きな規模の調査が出た場合に対応できないため、2～3か月先の大幅な改善は見込めない。
		金融業（調査担当）	・景気が好転する要素も悪化する要素も特になく、景気の状態は変わらない。
		金融業（調査担当）	・米国の関税による影響が地元経済への程度波及するかは未知数であるが、物価高に対する警戒感は強く、景気は現状程度での推移を見込んでいる。
		金融業（営業担当）	・中小企業全般において、受注する仕事はあるものの、主に人手不足で事業計画が予定どおり進まない状況が続いており、この問題を解決しなければ状況は好転しない。
		金融業（営業）	・短期的な賃上げには限界があり、何らかの政策が施行されるまで物価上昇による可処分所得の減少は続く。ただし、長期的に企業の適正利潤の確保により、景気は安定して拡大すると推測している。
		不動産業（経営者）	・年内の仕事の受注内容は、現状では今後も余り変動がない。
		新聞社〔広告〕（担当者）	・景気が良くなる好材料が見当たらない。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・自社Webのアクセス数や問合せ件数に大きな変化がない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・市町村の当初予算において計上されていた高齢者福祉・介護保険の調査業務が、9月に発注予定であるため、入札の機会が増える可能性がある。低価格競争になる可能性があるため、景気が悪い状況が続くと予想される。
		食料品製造業（経営者）	・今年は、最低賃金がかかなりの幅で上がるため、人件費の上昇が懸念される。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・顧客の業績目標情報からは、やや売上が悪くなると予測している。
		広告代理店（従業員）	・今後についても新聞の発行部数減少に伴い、新聞折込の減少に歯止めがかからない状況が予想される。3か月後の物価高騰や世界の情勢も現状が続くため、景気はやや悪いと見込んでいる。
	×	繊維工業（営業担当）	・前月に同業者は、これ以上工賃を上げても最低賃金の引上げと材料分までは賄えないと考え、毎年の賃上げは無理だと判断し閉鎖をしている。そのため、先行きの景気はますます悪くなると予想される。
	×	経営コンサルタント（社員）	・人手不足や人件費の増加によるダブルパンチでサービスの低下に陥っている。
雇用 関連  (九州)		-	-
		人材派遣会社（社員）	・求人数は減っているが、求職者からの問合せや当社への登録数は1割程度増えている。多くの求職者は求人を見て登録に来るため、すぐに推薦し契約へつながっていくことが多い。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・インバウンドでは、韓国との定期路線が10月から増便するなど上向き要因がある。秋になり猛暑が落ち着けば、観光を含め各地への人出も多くなり景気は上向くと考えている。
		人材派遣会社（社員）	・新規開拓の活動をしてなかなか手応えがないため、派遣以外で社員への健康経営やメンタルヘルス等のサービス案内なども併せて展開している。
		人材派遣会社（社員）	・物価上昇や最低賃金の引上げ等で、集客と送客のバランスが悪くなる可能性を含んでいる。
		職業安定所（職員）	・最低賃金が前年より高く答申されたことを受け、求職者からは働く意欲や期待の声を聞く。一方で、管内の大半を占める中小企業では人件費や資材価格高騰が十分に価格転嫁ができない状況がある。
		職業安定所（職員）	・新規求人数の前年比では減少幅は前月より拡大しているが、求人に対する紹介件数は2か月連続で前年より増加しており、企業の採用意欲は変わりはないとみられる。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	・米国政権が打ち出す関税措置を始め、国際紛争対応など様々な政策が、国際経済の不確実性を高めている。日本政府や企業も具体的な対応策を模索している状況が続いており、先行きの不透明感が非常に強い。台湾の半導体工場の稼働、第2工場の建設計画の進展など九州地域の経済や雇用は堅調なもの、物価高騰は収まる気配が全くなく、実質賃金が改善する見通しも立たないため景気が上向く実感がない。
		人材派遣会社（社員）	・最低賃金引上げが企業の人件費負担を強める可能性があり、その結果、採用抑制や求人件数の減少につながる可能性が高いため、やや悪くなると判断している。
		人材派遣会社（社員）	・最低賃金の引上げや同一労働同一賃金などにより、派遣社員の時給を年々上げる必要が出てくる。そのことにより派遣請求料金の引上げが必要となり、派遣請求料金が高額になるため、企業の派遣利用が減少することが予測される。
		新聞社〔求人広告〕（社員）	・猛暑が長引くことで季節商材への購買行動が鈍くならないか懸念される。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・引き続き物価は上昇傾向にある。また、様々な税金の負担も収入が追い付いておらず、生活必需品の購入は節約志向が続いていくと予想されるため、景気や消費にはつながらない。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・物価上昇が続き、消費者の節約志向が更に続けば、身の回りの経済活動全体がやや鈍化する可能性がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	-	-

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (沖縄)		観光型ホテル（企画担当）	・8月の販売室数が前年比3%減少なのに対し、8月末時点での11月の予約室数は前年比22%増加となっている。
		一般小売店〔土産〕（営業部長）	・観光客数の増加が期待できる。
		百貨店（経営担当）	・今後は物産展など主力の催事企画を開催するため、来客数の増加が見込める。
		スーパー（店舗管理）	・収益体制の見直し計画が順調に進んでいる。12月の最低賃金の改定に向けたコスト削減も順調に進んでいる。また、大型レジャー施設開業による需要の喚起も微増ではあるが見受けられる。
		コンビニ（経営者）	・近隣の買物客が増えており、特に夕方は弁当や総菜の売上が良くなっている。
		コンビニ（店長）	・近隣住民を含め県内の来客数は横ばいだが、県外観光客が増加している。
		その他専門店〔陶器〕（製造）	・陶器は秋冬も手に取られやすい。
		その他専門店〔書籍〕（部長）	・大型レジャー施設の開業などで沖縄に注目が集まっている。また、大阪・関西万博が10月に閉幕することから、それ以降は更に沖縄への観光需要が高まるとみている。
		一般レストラン（代表者）	・観光客と地元客の利用頻度の増加が期待できる。
		通信会社（サービス担当）	・秋はスマートフォン等の新機種発売や年末商戦に向けたプロモーションで需要が高まることを見込んでいる。
		観光名所（職員）	・予約数が増えている。
		観光名所（職員）	・インバウンドが増加傾向にあるため、単価の高い商品が売れ、全体的に客単価が上がるとみている。
		その他サービス〔レンタカー〕（営業）	・先行きの受注状況は前年を上回って推移している。特に個人利用が伸長しており、トレンドとなっていることから今後の需要も期待できる。
		住宅販売会社（役員）	・北部の大型レジャー施設の開業もあり、県外からの移住者や投資などが期待される。
		商店街（代表者）	・街中の景気は、飲食業が多く、物販が厳しい状況が長い間続いている。そのため、2～3か月では業種は変わらないとみている。また、厳しい状況であるとの声が多く聞かれる。
		一般小売店〔酒〕（店長）	・物価高に対する政府の具体的な政策がみられない。
		スーパー（企画担当）	・今後2～3か月の景気は、政府による電気・ガス料金の補助が継続される一方で、食品の値上げが続く見込みである。景気動向は不透明な状況が続くとみられる。
		コンビニ（店長）	・現在の販売量、来客数は良くなっているが、2～3か月先まで右肩上がりになるのは見込めないため、現状と変わらないとみている。
		コンビニ（店長）	・8月は来客数が日々増加しているが、10月前半は祭りの影響により人の動きが活発になることから、集中した集客が見込める。
		衣料品専門店（経営者）	・例年どおり、8月は中途半端な時期であり、季節物の入替えを期待したが、思うようには客は増えていない。まだ景気は悪い状態である。
	衣料品専門店（経営者）	・全体的な物価高や円安の問題が改善されるなど、先への明るい見通しが立たないと、景気は良くなるとみている。	
	家電量販店（営業担当）	・沖縄県の省エネ家電キャンペーンが2025年1月まで続いたため、エアコンや冷蔵庫の反動減が続くとみている。	
	乗用車販売店（経理担当）	・景気の先行きを判断する大きな要因が見当たらない。	
	観光型ホテル（総支配人）	・夏季休暇シーズンを終え、大型レジャー施設需要が一旦落ち着くことに加え、価格上昇傾向が継続しており消費マインドは戻らないとみている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（マネージャー）	・物価高や地域の温度差が大きく、簡単に客は増えないとみている。
		通信会社（営業担当）	・上向き状況がみられないため、悪くなる可能性の方が高いとみている。
		住宅販売会社（営業担当）	・住宅販売需要は問合せが継続している。
		コンビニ（経営企画担当）	・現在は来客数の減少を売上でカバーできているが、天候が回復しても来客数の減少がおさまらない。このまま客足が弱まっていくことを懸念している。
		その他飲食店〔ファーストフード〕（総務部）	・10～11月は夏季に比べると厳しいが、前年と比較すると良くなると思われる。特に、北部地域は大型レジャー施設の影響がしばらく続く見込みである。
	x	-	-
企業 動向 関連  (沖縄)		建設業（経営者）	・今月は、公共工事、民間工事とも受注できたことに加え、2か月以内に大型工事の受注も見込んでいる。
		輸送業（総務経理担当）	・運賃交渉の成果が出てくるとみている。
		食料品製造業（役員）	・2～3か月に大きな変化はなく、観光関連は引き続き好調に推移するとみているが、一般消費者の動きがどうなるか注視している。
		窯業土石業（取締役）	・大型公共工事含め受注案件が重複し一時的な繁忙となるが、その後は受注状況から現状維持になるとみている。
		輸送業（経営企画室）	・良くなる要因、悪くなる要因がみられない。
		通信業（総務）	・変化が想定される事由や傾向はみられない。
		広告代理店（営業担当）	・観光が好調に推移するなか、県内企業の売上は伸長している。一方、仕入コストや人件費などの高騰が続いており、販売促進費用の増加は期待できない。
		会計事務所（所長）	・物価や為替の影響を各事業者が吸収し事業継続できるかどうかが見通せない。
	x	-	-
雇用 関連  (沖縄)		求人情報誌製作会社（審査）	・例年10月頃から年末年始にかけて商業施設や小売業では繁忙期を迎えるため、サービス業や販売、飲食分野における求人需要の増加が期待できる。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・2027年卒向けのインターンシップに参加した場合、早期選考の案内がくるケースもある。学内説明会の依頼も多いため、それに向けて求人があるとみている。
		人材派遣会社（総務担当）	・米国の関税措置により、今後も更に物価が上昇するとみている。
		学校〔大学〕（就職支援担当）	・物価高騰はしばらく続くともみている。
		x	-